大正六年九月十四日第三種郵便物認可・昭和十一年三月二十五日印刷納本・昭和十一年四月一日發行（毎月一回一日發行）

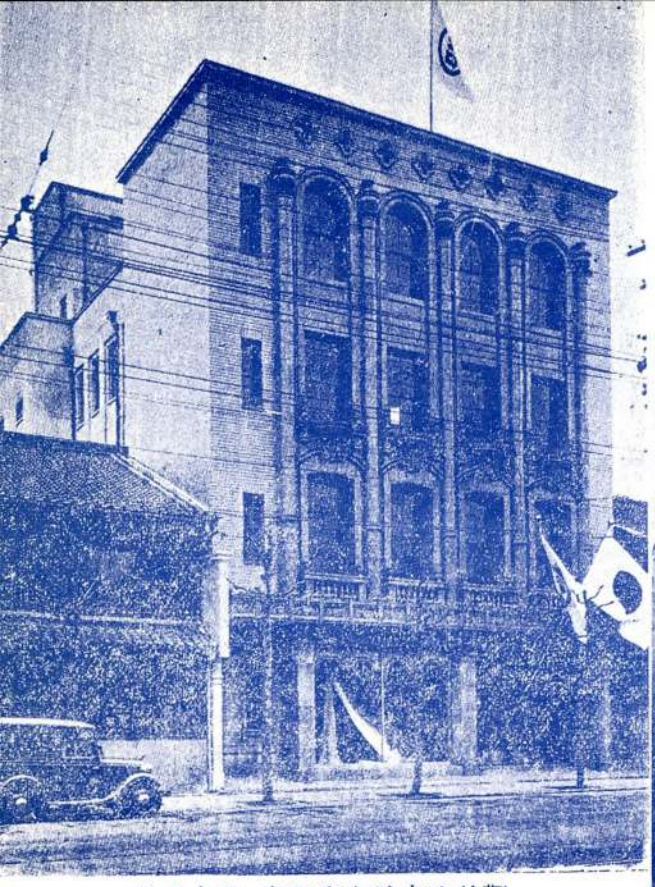
建築と社會

4

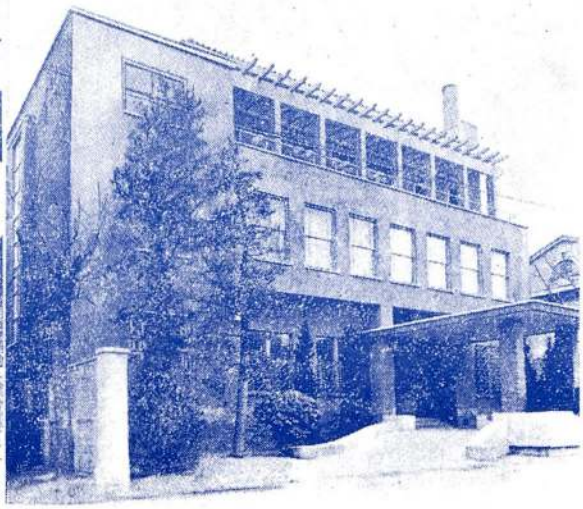
第十九輯第四號　昭和十一年四月一日

日本建築協會

弊社製品納入の新建築



株式會社 吉田鹿之助商店外觀



福岡銀行集會所外觀

製品種目

瀨川式特許スチールサツシ
瀨川式特許スチールドアー
朝日式特許スチールシヤター
瀨川式スチールバーチシヨン
瀨川式特殊高級鋼製建具
並ブロンズドアー及メールシユート
其他一般的建築金物類

朝日建材株式會社大阪支店

大阪市東區高麗橋二丁目九番地(高麗橋野村ビル內)
電話北濱(23)局4714・4715・5227(3)

本社　東京市麴町區丸ノ內二丁目二番地(丸ノ內ビル內)
電話丸ノ內(23)1141・1142・1143

工場　東京市城東區北砂町三丁目一二番地
電話本所(73)2157・2158・2159

大阪支店出張所　福岡市東長洲八丁目六三番地
電話福岡7290番

出張所　名古屋市中區南大津町一丁目九ノ二(共濟ビル內)
電話中2776・2777
奉天市千代田通二五番地

特約店　大連市山縣通二一三　三祐公司

會告

昭和11年2月22日開會ノ臨時總會ニ於テ本協會細則「第四條」ヲ「第四條ノ一」ニ改メ尚其次ニ下記條項ヲ挿入シ即日實施ノコトニ決議致シマシタ

昭和11年4月

日本建築協會

第四條ノ二　本會ハ有益ナル事業ヲ行フ爲幹事會ヲ設置スルコトヲ得

幹事ハ常務會ノ詮衡ヲ經テ會長之ヲ指名シ

幹事長ハ幹事中ヨリ之ヲ互選ス

幹事長ハ幹事會ヲ整理ス

建築と社會

第19輯第4號　昭和11年4月發行

四月號

目　次

最近の建築行政遇感三題 …… 玉置豊次郎 (13)
日本式建築の反省 …… 大倉三郎 (18)
建築その折々 …… 大内秀一郎 (22)
新京から …… 南　信 (26)
沖繩の聚落と民家に就て …… 川勝健二 (31)

研究及調査報告

室内の日照と人口密度 …… 田中彌一 (39)
昭和11年2月21日大阪府下震災調査報告 …… 災害強度委員會 (53)
災害忘備錄 …… 龜井幸次郎 (66)

口繪寫眞

福岡銀行集會所 …… (1)
吉田鹿之助商店 …… (6)
省線三宮驛 …… (9)
阪急神戸會館 …… (10)
阪神元町驛 …… (11)

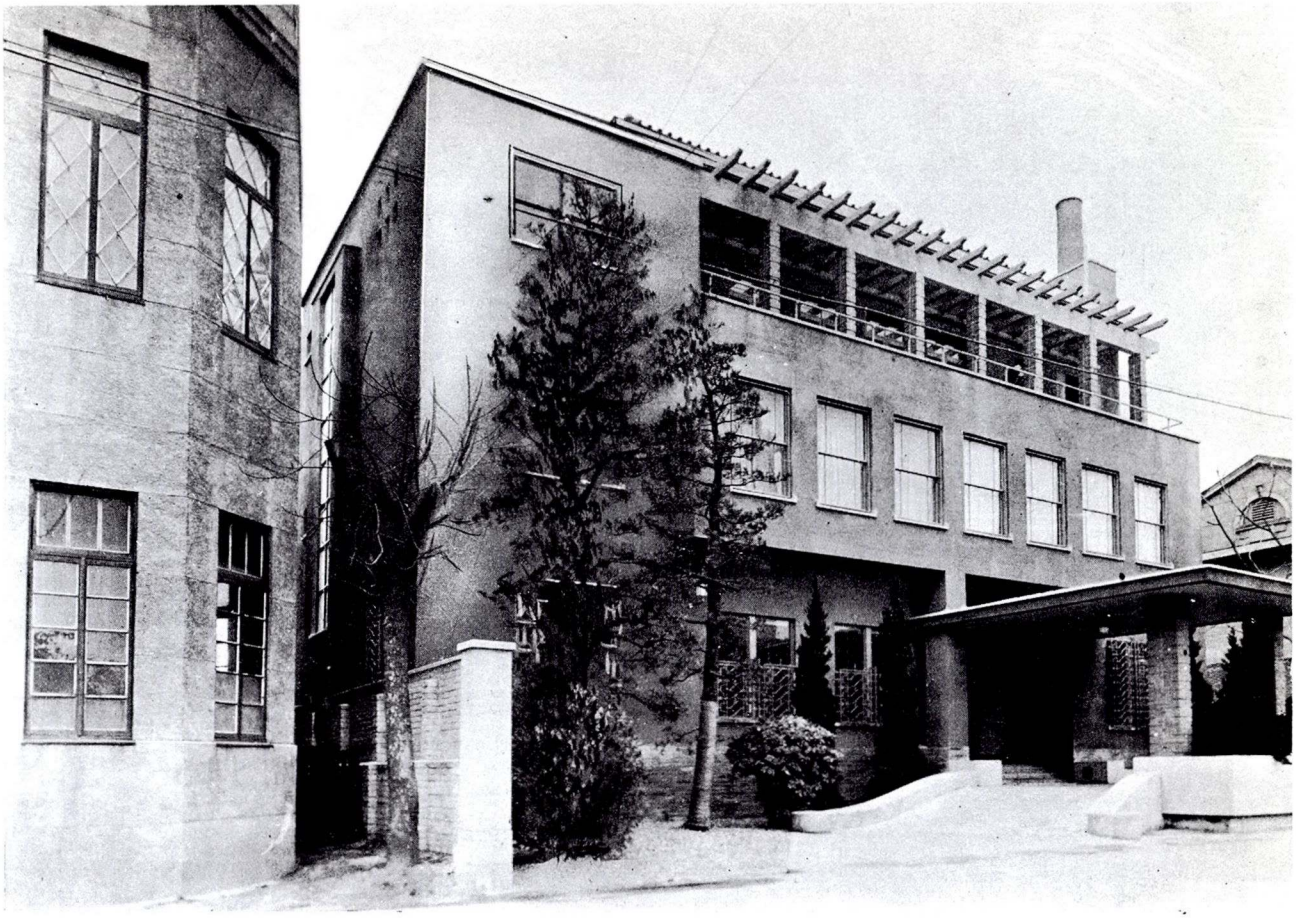
都市計畫欄

資源委員會の分散計畫促進案（アメリカ） …… (77)

新建築欄

病院（スイス） …… (79)
Longchamps レストラン（アメリカ） …… (80)
ボートハウス（カナダ） …… (81)
ハイゲイトのアパート（イギリス） …… (82)
ストリートハム丘のアパートメント（イギリス） …… (84)
工事中のブラッセル博覽會の中央館（ベルジウム） …… (86)
會　報 …… (87)

附錄・各府縣改正市街地建築物法施行細則（神奈川縣廳）



外　　觀

"福岡銀行集會所"　　設計・石本建築事務所・施工・清水組九州支店



福岡銀行
集會所

設計・石本建築事務所
施工・清水組九州支店

背　面



二階ホール



三階歩廊
（講堂前）

玄關ホール

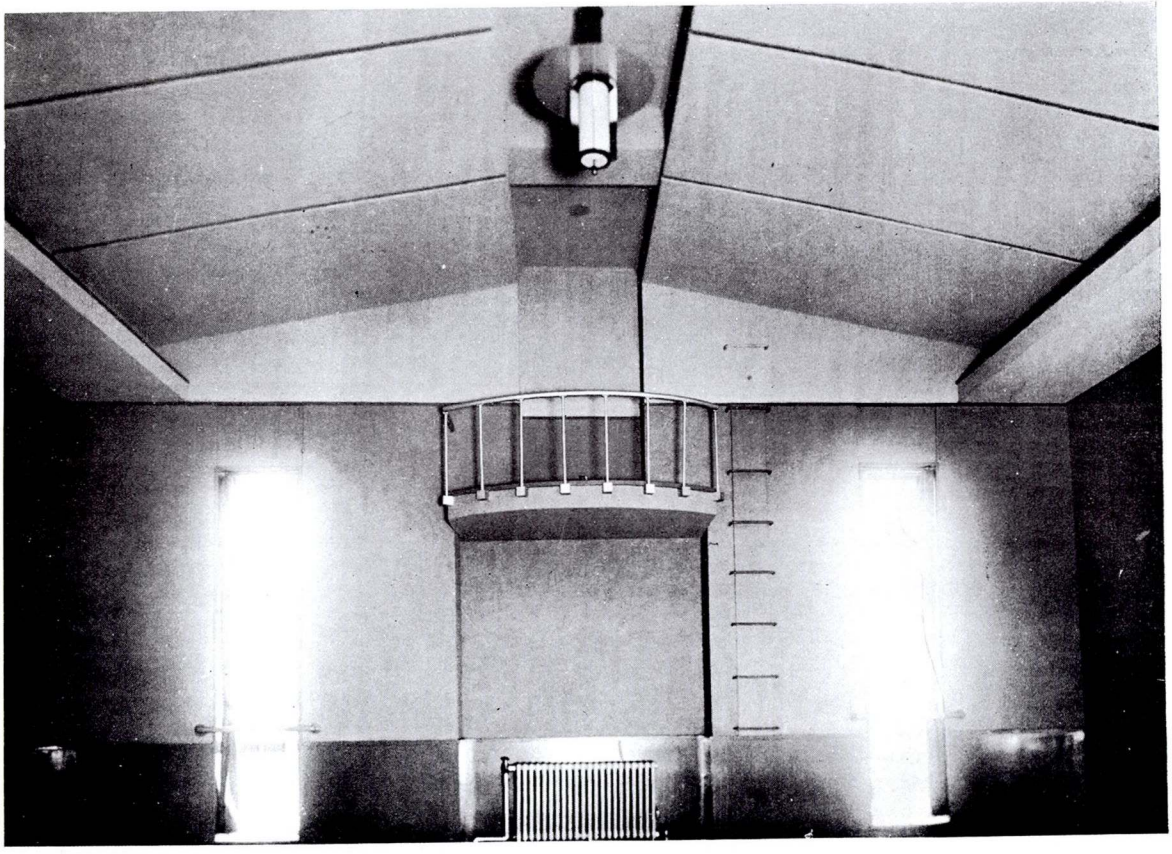


福岡銀行
集會所

設計・石本建築事務所
施工・清水組九州支店

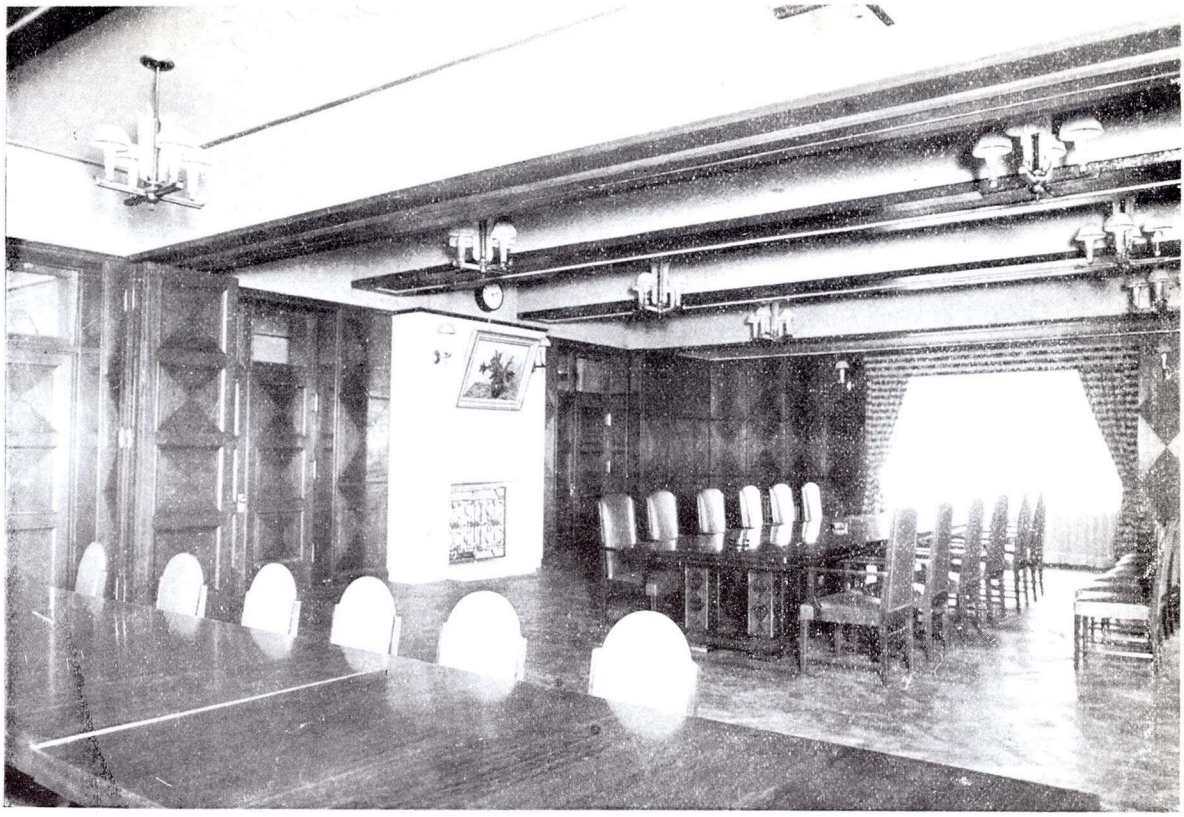


三階講堂ステーヂ側



三　階　講　堂

IV 4 "福岡銀行集會所"　　設計・石本建築事務所・施工・清水組九州支店



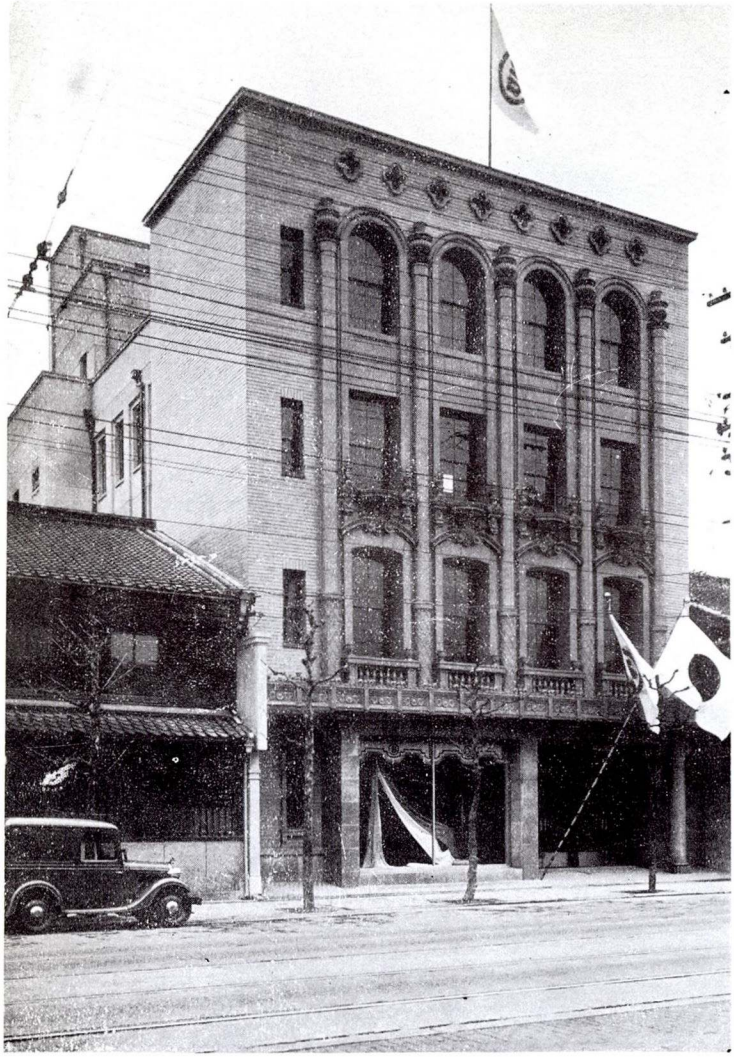
會議室及食堂

社團法人 福岡銀行集會所新築工事概要

位置	福岡市藥院堀端11番地ノ1		
敷地面積		964·60平方米	(291坪8)
階各坪數	地階	34·25	(10·361)
	壹階	369·09	(111·676)
	貳階	358·55	(108·461)
	參階	281·55	(85·168)
	附屬家	48·80	(14·77)
總延坪數		1092·24	(330·436)
構造	鐵筋コンクリート構造3階建 1部地下室		
軒高	新地盤線より軒桁まで		
		14米41	(46尺89)
最高部	〃	17·8	(58·74)
工程	地鎭祭 昭和10年5月10日		
	上棟式 昭和10年10月24日		
	竣工 昭和11年2月20日		
總延人員	11,000人		

各室配置

地階	煖房機關室
1階	車寄、玄關、廣間、事務室、交換室、應接室、委員室、喫煙室(圍碁室)—酒場—球戲室—サンルーム、便所—洗面所、物置、附屬家(小使室)
2階	談話室、圖書室、會議室—食堂、厨房、日本間(踏込玄關、取次間3疊、次の間6疊座敷10疊)便所—洗面所
3階	步廊—バルコン、講堂—バルコン、控室、豫備室、物置、便所—洗面所
樣式	日本インターナショナル
外裝	腰廻り及玄關廻り鐵平石幅2寸4分目地整層亂張高1米35通とし壁面全部モルタル吹付仕上とす
屋根	屋根S字型淡黃褐色瓦葺—部陸屋根とす
內裝	**床仕上** 玄關—全玉石圓盤磨き。廣間—5寸角特種タイル張り。球戲室—リノタイル張り。委員室—喫煙室酒場—圖書室—楢フローアリングブロツク張り。談話室—ゴムタイル。會議室—食堂—楢寄木張ボーダー付。步廊—人造磨出し一部飛模樣入 講堂—應接室—事務室—手形交換室—其他等リノリユーム敷とす **腰壁** 玄關 高さ1米10 廣間0·25 1寸長手タイル張りの壁ラフコート仕上。交換室ベニヤ腰ペンキ壁バルボイド仕上。委員室楢ベニヤラツク仕上壁は壁紙張とす 球戲室 喫煙室 酒場5寸角特種タイル張壁ネールクリート仕上 酒場布地張エンヂ色ペンキたゝき、會議室 食堂 チーク材ベニヤ練合せパネル式ラツク仕上小壁山路金カラ紙張り。圖書室 キルク吹付銀泥ヌリペンキふき取り 講堂 ベニヤペンキ塗壁キルクペンキ吹付け仕上とし其他各室漆喰塗の上ペンキ及水性ペンキ仕上とす **天井** 玄關—廣間ラフコート仕上 交換室 バルボイド仕上 球戲室—喫煙室酒場ネールクリート仕上 會議室 漆喰塗中心飾付ペンキ塗仕上 講堂 キルクペンキ吹付仕上とし其他漆喰塗仕上とす
附帶設備	電氣照明、扇風器、電氣時計、電話、煖房給水、給湯、消火栓、瓦斯、排水、衛生工事等設備を施す
設計監督	石本建築事務所
施工	淸水組九州支店

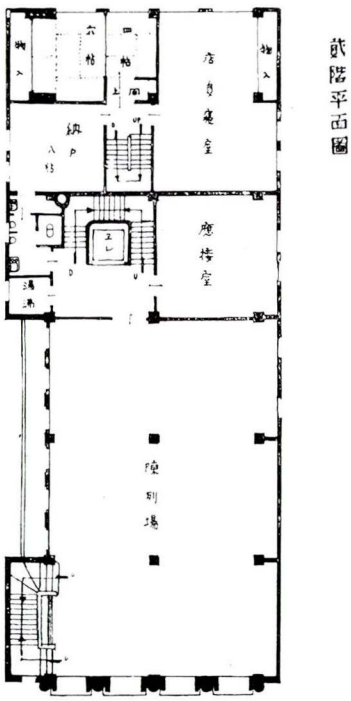


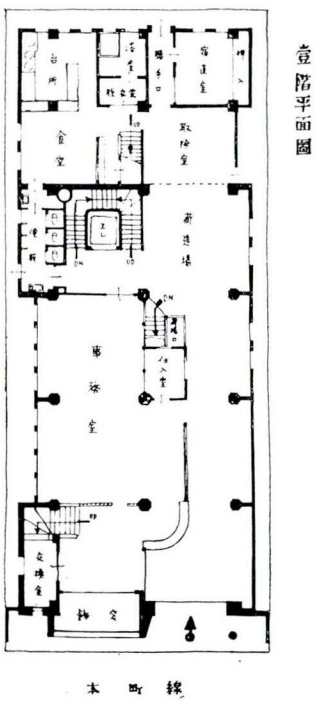
外　觀

株式會社 吉田鹿之助商店

設計・小笠原建築事務所

施工・八木工務所







事　務　室



應　接　室

“吉田鹿之助商店” 設計・小笠原建築事務所・施工・八木工務店　7 IV

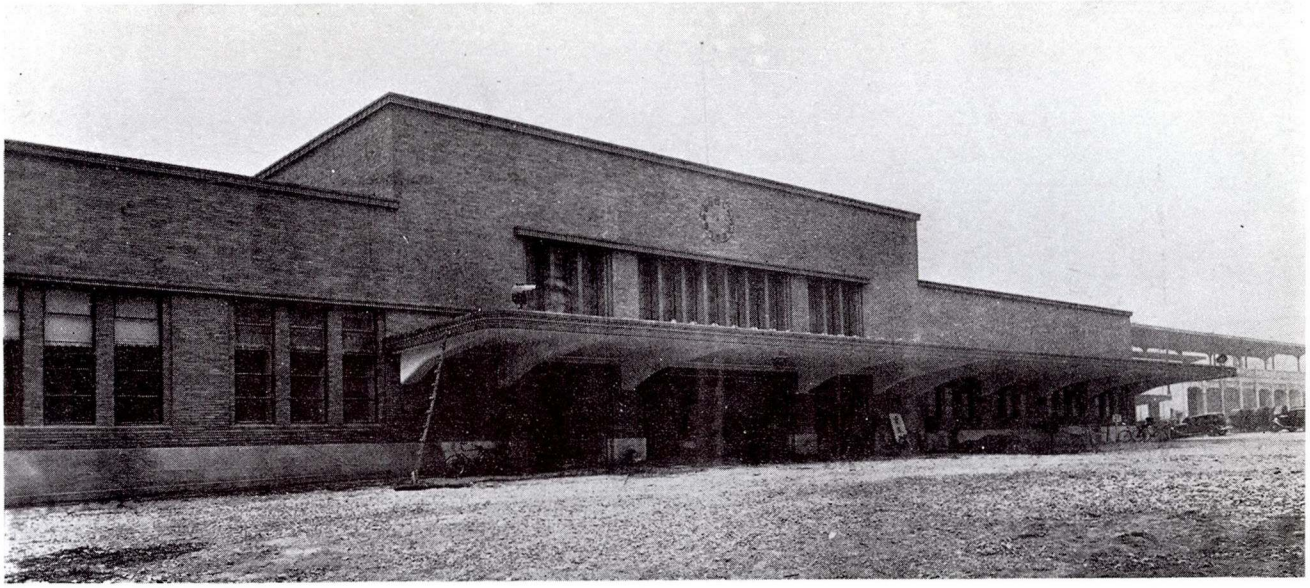


社　長　室

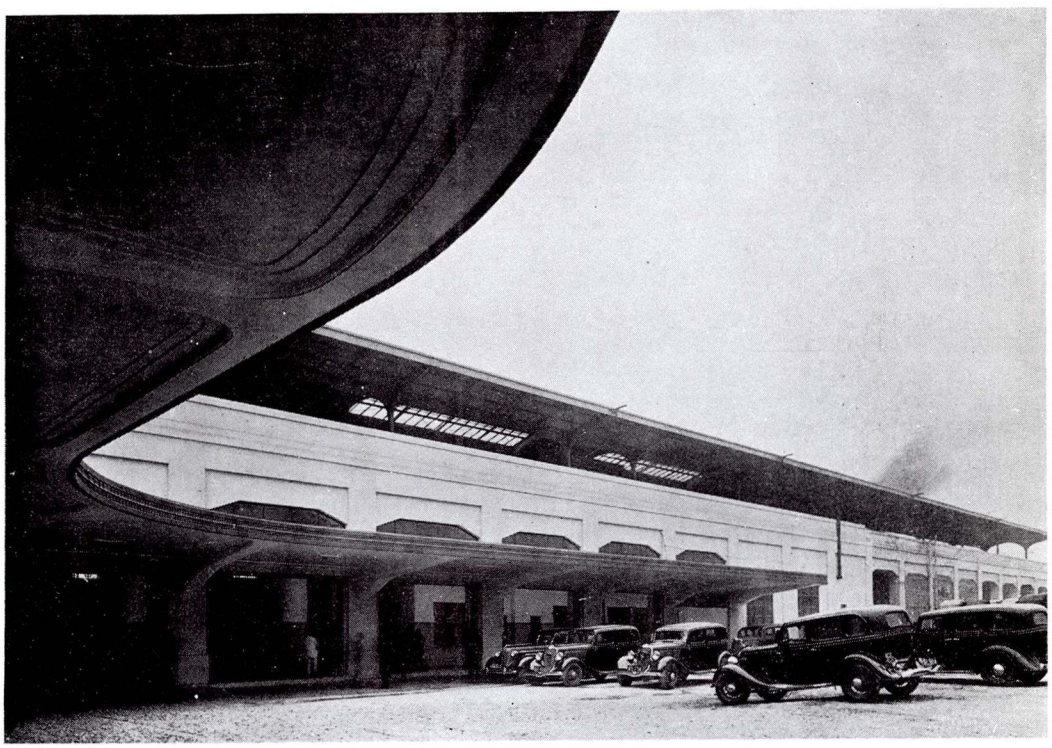
吉田鹿之助商店

設計・小笠原建築事務所

施工・八　木　工　務　所

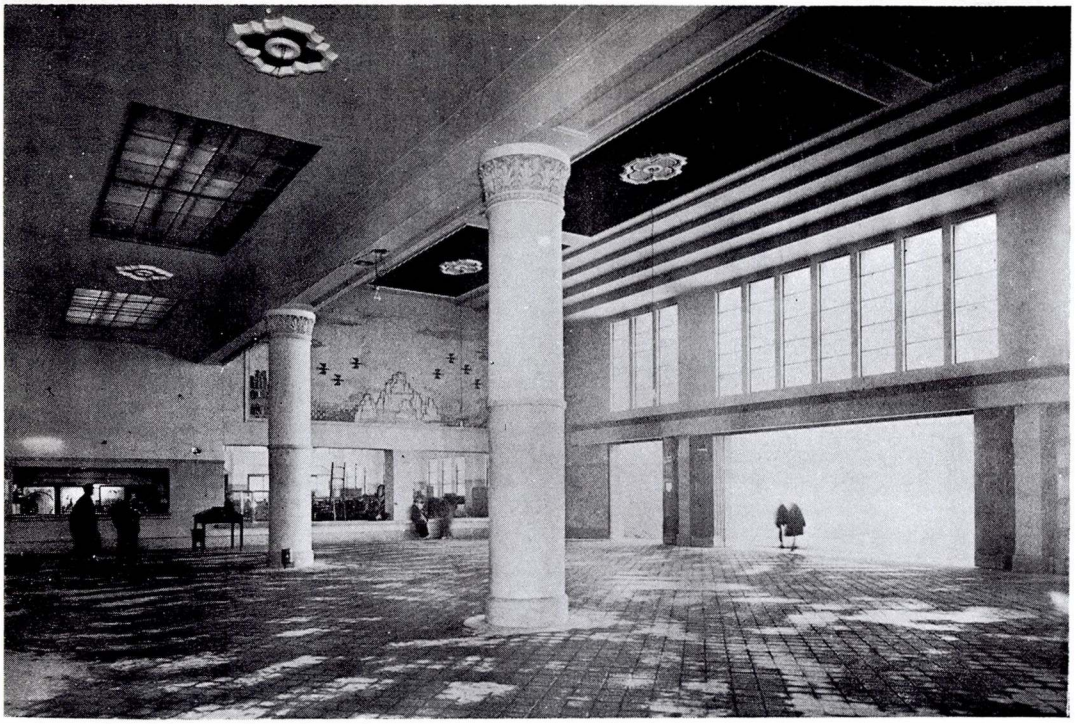


省線三宮驛外觀

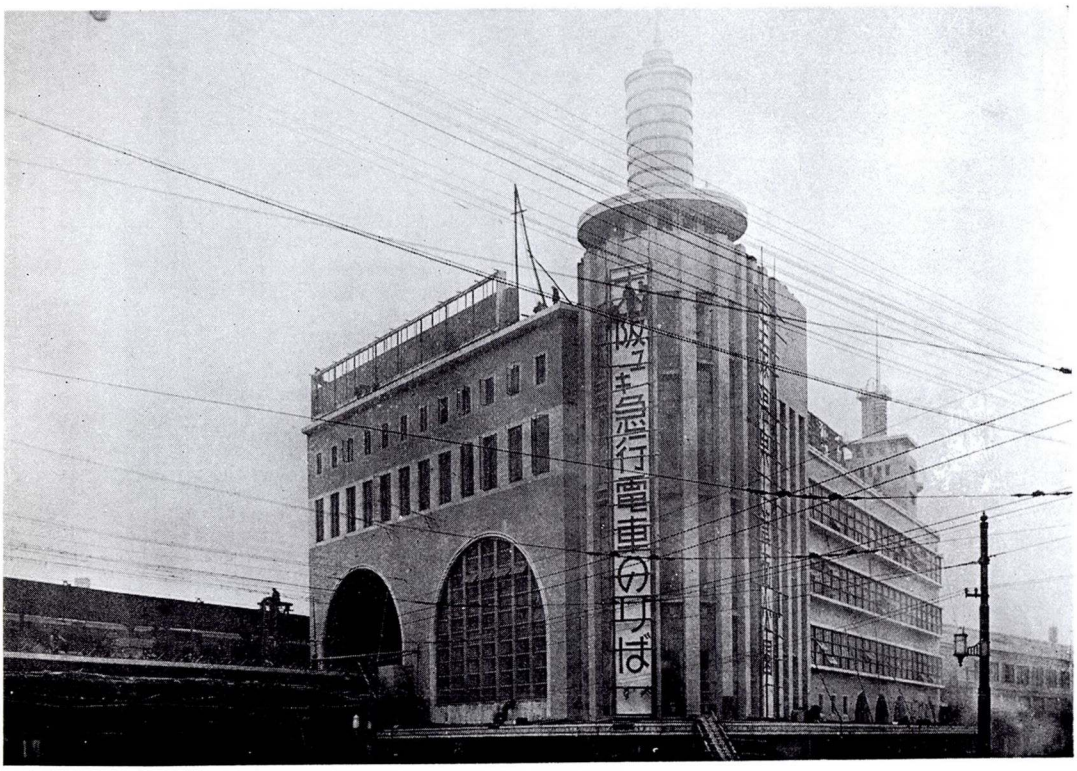


省線三宮驛車寄

"省線三宮驛" 設計・鐵道省大阪改良事務所・施工・大林組



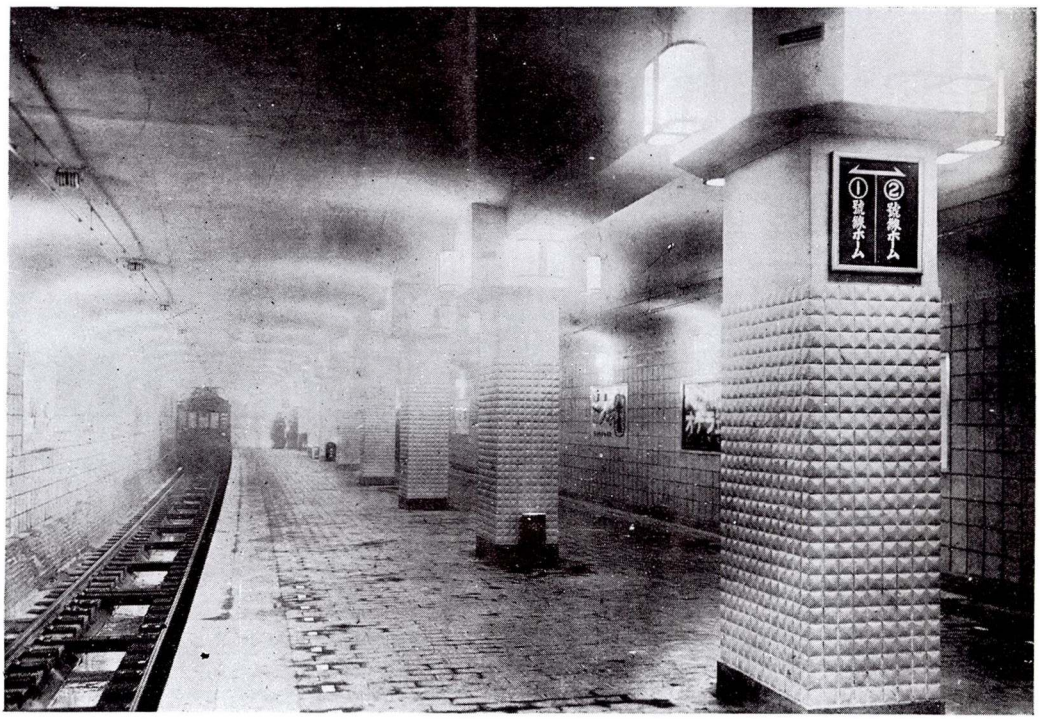
省線三宮驛ホール



阪急"神戸會館"外觀・設計・阿部美樹志・施工・竹中工務店

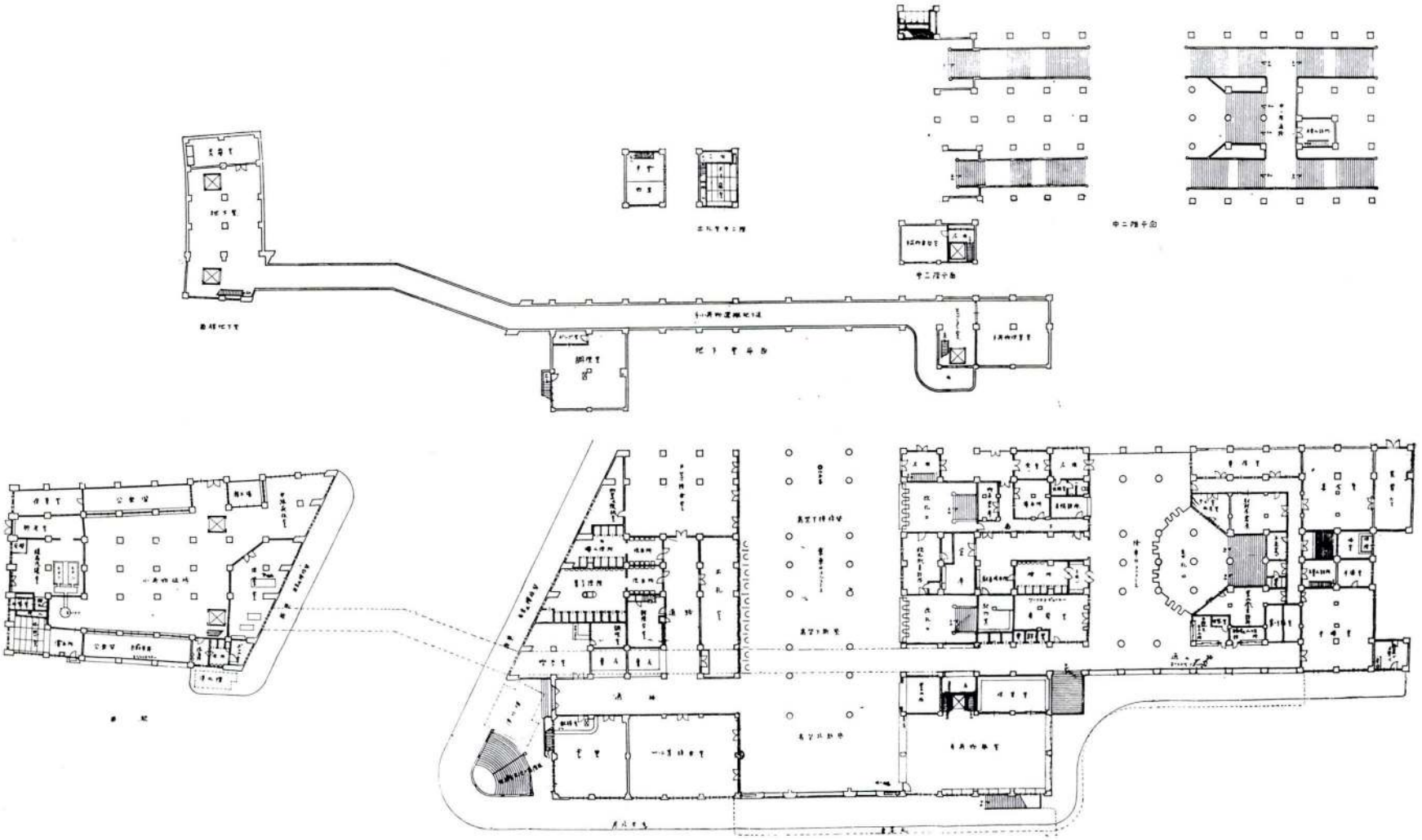


阪神電鐵元町驛改札口



阪神電鐵元町驛

省線三宮驛平面圖



最近の建築行政遇感三題

玉置豊次郎

1 都市計畫の警察化

これはアメリカの話であるが、最近のアメリカの都市計畫行政を研究した本を見ると、時々警察化のことが載つてゐる。都市計畫の執行に當つて警察力が非常な役割を務めて居ることが判つて、大いに注目し初めたのである。

我々も時々日本の現行制度が果して良いのかどうかを考へさされることがある。現在では兎も角都市計畫行政中の建築行政は警察行政の中に含まれてゐるのであるが、他の警察事務に混つてゐることが適當であるか否かは一應疑問のやうである。一般に警察と云ふ所は評判の良くない所であるから、その中に混つて仕事をすることは損になる譯である。その意味に於て建築行政は警察から獨立した方が德だらうと云ふ意見が出る。所が又一方今日の警察行政の中で一番不評判なのは建築行政であるから、建築行政が出て行つて呉れたら、一般の警察行政の評判は少しはましになるだらうと云ふ意見も出そうである。

實際問題として度量衡の檢査なんかは警察の仕事ではないのであるが立派にどしどし施行されて居るやうであるから、建築の檢査もこれと同樣に警察力の背景がなくとも、必ずしもやれないことは無さそうに考へられる。更に一步進んで行政官廳の手を離れて、地方自治團體の手に移しても良さそうに考へられる。現に諸外國の中には後者によつてゐるものも相當ある。

どちらかと云へば建築行政が警察行政の一部であると云ふことは名譽な話ではない。國民としては出來るだけ警察事務を僅少ならしめ、仕事は警察と關係のない地方自治團體に於て統轄されるのが理想である。國民の自治能力にかけてでも日本の建築行政を警察行政の中から分離されることが望ましいのである。こういふ理論からして大阪府では先年特別市制に關して內務省から諮問があつたとき、建築行政は市政中に移すのが至當である旨答申されたのであつた。勿論これは建築法施行の當初から警察行政の一部に織り込まれてゐたのであるから今俄かに警察の域內から脫出したら、從來の反動で法の執行が非常に困難になるだらうと云ふことを充分覺悟した上の話である。

建築物法の規定の上から云ふと警察行政の一部になつてゐても、違反者があつたからと云つて、直ちに拘留されることも、科料になることもない。處罰としては罰金刑だけである。故にこの際警察行政の一部であると云ふことは餘り物を云つてゐない筈である。規定

の建前通りに行けば建築行政が警察行政の一部であつても、なくても左程大した相異はないことになる。

所が實際は中々そうではない。警察力と云ふものが云はず語らずのうちに非常な威力を示してゐる。

このことがアメリカに於て矢張同様である。アメリカでは地域制や建築線制度が他の建築行政の部門と同様に州によつて警察で取扱はれたり、警察力のない地方行政廳で取扱はれたりしてゐる。最近これ等の異なつた施行方法が比較研究を始められた、その結果によると警察力を背景としない地方行政廳でやつてゐる地域制や建築線制度は非常に不出來で警察の仕事の一部としてやつてゐる所は仲々成績を擧げてゐると云ふのである。州によつては警察力を背景としない爲めに全然成績の擧つてゐないのがある。そして裁判所までがこう云ふ仕事は警察でなければ出來ないものであると云ふ烙印を捺してゐる。地域制や單なる建築線制度だけでなしに、尙その上都市計畫道路の完成も警察力に俟たなければ實現困難であると云ふのである。そして土地收用制度だけでは都市計畫道路の完成は殆んど覺束ないと云ふ結論に完全に到達してゐる。

折りも折、去年12月中旬內務省で地方の都市計畫主任官と市街地建築物法主任官との聯合事務打合せ會が開催されたのであつたが、その席上都市計畫道路完成に就いて都市計畫主任官から建築法主任官に向つて、豫定道路敷內建築持止方に關し哀願を通り越して、現在の様に都市計畫路線の中へどしどし家を建てさされては都市計畫道路の完成は不可能だとばかり全く捨身になつてぶつかつて居る有様であつた。土地收用制度だけで事業の進捗を計ることは事實上中々困難であるから、警察の方でどうか見捨てずにおいて呉れと云ふのである。そして內務省側の意見も何んとかして都市計畫道路敷の中へは出來るだけ家を建てさせない様にしたらどうかと云ふことになつて會議は終了した。

偶然ではあつたのであらうが、アメリカと日本とが同時に同様の問題を起して同じ方向に軌道を走つてゐる。

都市計畫の警察化。倫理的には甚だ面白くない。が世情とはこう云ふ性質のものであらう。

2 街廓統制の進歩

大阪に住んでゐる以上、始終のことではあるが松平忠明の功績が思ひ浮べられる。偶々五斗米を建築監督官にうけてゐると尙更のことである。

事實今日大阪市民が松平忠明の街廓統制によつて受けて居る利益は莫大なものである。

それに引き換へて明治時代の建築行政放任の爲めに現に甘受しなければならない不利益は亦莫大である。

そこでどうしてもこれからの郊外に對しては完全な街廓統制が必要になつてくる。

現行建築行政の中には色々な分野があるが、その中には官廳に於て一方的に決定すれば民間側に於て必然的にその決定に追隨しなければならないものが大部分を占めて居る。例へば地域制の運用や防火地區の完成の如き制度はそれ等の地域や地區が決定されれば、後は規定通りの建物が出來るか出來ないかを見分けて行けば、自から行政としての目的を達することになつて、大して骨の要る仕事ではない。建築行政の分野の大部分はこう云つた性質のものが多いのである。

所が街廓統制の問題になると餘程趣が異なつて來て、地域や地區の様に簡單には行つて呉れない。官廳側に於て一方的に決定すると云ふことは今日では許され難い狀態にあり、且そう云ふやり方は望ましくもない。飽まで民間側と充分なる折衝を盡して100パーセントの理解を得なければならないのである。

現行法を基礎として考へられる街廓統制の手段は建築線指定と區劃整理とであるが、前者は面積も割合に小さな場合が多く關係者も少ないのであるが、後者になると數10萬坪の土地と數百人の素人を相手にしての仕事である。後者に就いては今日我々は先づ地主に區劃整理の勸誘をする。承知さして同意書の提出を求める。設計書は時としては公共團體で代作する。組合設立に骨を折る。それが認可になつて來る、事業に着手する。それから後が大變である。勝手の判らない地主等が寄つて、とても骨の折れる仕事をしやうと云ふのであるから、うまく行くのが不思議な位に思はれる品物である。

所が非常に幸なことにはこの大仕事が大阪では頗る順調に行くのである。一例を擧ぐれば通常各組合共數10萬圓の工事費を要するから、一時銀行から事業費の融通を受けねばならないのであるが、先に名古屋が大失敗を續けた爲め、そのとばちりで大阪でも銀行屋が大警戒をやりだしたので、大阪の各組合とも大變な迷惑を感じたのであつたが、その後大阪の區劃整理組合が如何にも堅實だと云ふことが自然に知れて來て、大いに蒙を啓いた形になつて居る。一番心配な組合費の問題がかくの如く順調であるから、他は押して知るべしである。

そして今日では既に建築線制度と區劃整理制度とによつて、大阪市と堺市と岸和田市の各郊外地の全區域に渉る街廓統制は殆んど眼鼻が附くことに成功した。尙近く布施級の町村が順次型附きつゝある。

建築物には壽命があつて何時かはそれがこの世から姿を消すこともあらうが、街廓統制によつて出來上つた宅地割とか道路の分布は根こそぎ滅失するが如きことは想像もつかないことであるから、仕事としては非常にやり榮えのあることになる。

この大事業が殆んど目ぼしい反對もなく近々數年の間に相當完成し、又近く引き續いて完成しやうとすることについては同慶に堪えないと申さねばならない。

唯最近この出來上つた品物の絶對永久性及不變性を深く考へるとき、今日爲されてゐる

設計が、どの程度滿足出來るものであるかについて、深い疑念を懷かざるを得ない。例へば市街地建築物法では建築敷地の前面道路は9尺を要求してゐるのであるが、我々は大阪府に限つてこれを4メートル以上と云ふ風に擴大をなした。他のどの府縣も9尺でやつて居るのに、大阪だけが4メートルにしたと云ふことは如何にも亂棒の樣である。然し乍ら今筆者が我々のやり方に疑念を懷くのは、大阪府に限り4メートルにしたことに對して今更おぢけてゐると云ふのでは絕對になくして、後世の人の爲めに僅か4メートル位でよいのかどうかと云ふ反省である。外國の建築條令を讀み下すとき、その都度如何にも我々の將來を見る力の缺けてゐること及び腹のすわらないことを痛感する。建築監督官はまだまだ現代人に憎まれる樣な仕事を思ひ附かなければならない。それは後世の人々の爲めに。

我々は今苦心を拂つて街廓統制に勢力を消耗さしてゐるが、出來ないよりましであらうが、後世の人の眼から見て將してやり甲斐のあるものになつてゐるかどうか寒心に堪えない。

3 防火地區建築費補助論

鳥井技師等苦心の傑作になる大阪都市計畫防火地區大擴張の案が內務大臣から諮問になつて來て、舊臘都市計畫委員會が開催され、大體非常に良好な雰圍氣のまゝ特別委員會が二度開かれたが、その時はどちらかと云へば地區の擴張區域が狹ま過ぎると云つた質問の方が多かつた。そして當局者は指定を本計畫の範圍に限定せねばならない事情を說明するのに骨が折れる位であつた。そして一部修正の外原案が可決された。本委員會の方も特別委員會同樣無造作に可決された。そして近く內閣の認可があつて都市計畫公告になる筈である。この劃期的大計畫がかくも美事に審議されたことは當事者の苦心もさることながら寔に時勢の然らしむる所と申さねばならない。これは決して偶然の結果ではなくて各方面努力の必然の結晶である。日本建築協會多年の奮鬪もこれで一應報いられた形である。

偖これからは新しい甕に如何にして新しい酒を盛るかと云ふ問題であるが、これに就いては協會からは豫而から補助金の問題が持ち出されてゐた。今度都市計畫委員會に於ても、裁決の際に府市から耐火建築費に對して適當に補助相なるべき樣希望條件が附された。

防火地區が指定される以上は法規的には明瞭に從來の建築に於けるよりも相當多額の建築費を强制することになる。そしてこの負擔が並々のものでないから、それに對して補助金乃至助成金を出さしめる樣し向けやうと云ふのである。特に集團防火地區でなしに路線的防火地區の場合は確かに一種の犧牲であるから、その犧牲に對して報いやうとする考へ方は當然である。而も曩に關東大震火災の時には東京橫濱の復興に當つて、政府は莫大な補助金を計上した前例があるのを思ひ起すとき、大阪に於ても何分の助成があつて然るべしと考へられるのも道理である。

處がこの際一考せねばならない問題がある。それは從來一般に考へられてゐる防火地區

の助成と云へば、建築費の一時的補助のみが喧傳されてゐるのであるが、建築主にとつてこれが最も有利な助成であるかどうかと云ふ問題である。

今日耐火構造の大厦高樓が思つた程に建ち難い事情に就いては色々存することであらうが、その理由の中の一で我々の決して見逃すことの出來ないものは建築完成後の諸公課である。特に家屋稅が莫大に課せられる點である。多くのビルデイングはこれに相當惱まされてゐる。そしてこの公課は絕對的であつて、他の經費の如く自己の努力によつて輕減せしめ得る種類のものではない。この爲め一度建てては見たが、稅金に追ひ廻されてやり切れないと云ふのが實情である。それは確に木造時代から比較すれば、いづれ建物もうんと大きくなつてはゐやうが、それに幾何級數的に家屋稅が增して來る。然もこの負擔は建物の存する限り永久的である。多くはこれに悲鳴を擧げる。特に營利を目的とする建物に於て甚しい。この悲鳴が隣近所に木霤して耐火建築の氣勢を剝ぐこと實に著しい。

今冷靜に考へるならば、假令運動効を奏して建てるとき補助金が貰えても後で家屋稅で永年に涉つて絞り返へされるならば、その補助は建築主にとつて有難いのやら迷惑なやら判らない。段鑑遠からず震災後の補助金は東京横濱では中々貰い手がなく、その金を政府は持て餘してゐる。成程最初の人は飛びつくが、それが食せ物と云ふことになれば、後の人は續かう筈がない。

結局我々が最も親切に建築主の身になつて考へてやるならば、一時的の見せ金もさることと乍ら、永年の經費を節することが出來る樣、耐火建築に限り、木造よりもうんと家屋稅を減するなり、あわよくば免するなりの方法手段を考究すべきである。この點に關しては筆者は曩に第三回都市問題會議に提出したる日本建築協會の意見書を代筆して、その中に一端を仄めかしたことがあつたから、耐火建築物の家屋稅減免は既に我が協會の意見でもある譯であるが尙充分の後援が望まるべきである。

日本式建築の反省

大倉三郎

時事問題として日本文化と建築並に歴史上の日本建築に就て考へてみる。

人間の考へ方、感じ方、更に動き方は人間の實施する事柄、作る物の形式を規定する。美術工藝建築がそれに洩れる筈はなく、特に建築は社會との密接なる聯關性に於て、その時代國家社會の文化的事相の變遷、進展の影響される事は當然である。建築の機能、構造様式、細部意匠等のすべてが社會思潮を反映し、時代意識をそのまゝ、具現することは、多辯を要せず、古來歴史上の實例が雄辯に物語つてゐる。建築は建築家の頭から割出されるものであつても、それが單なる偶意的であつてさへ、その背後には時代の文化感覺が根強い包容力を以つてその構成の寮圍氣を支配してゐる、之が眞の建築の姿である。從つて統制ある社會では建築も亦その下に劃一される、建築様式なる概念の生ずる所以である。一方建築からいへばまちまちの主な建築的團塊が個々に轉がつてゐる間は正に世相の不統制、文化の混亂未熟を示すものといふ可く、様式を如何にすべきかといふ問題は獨り美術、建築の問題に止まらず、社會一般の文化感覺を如何に導くべきか、世相が如何に特徴すけらるべきかといふ問題に歸着すること必然である。

さて數十年來我國の建築が過渡雜然たる試練期を經てやうやく今日、新興日本の風潮に乘り、社會全般の進展に呼應して正に面目を一新せしとしつゝあることは明らかであるがその轉換期の今日、飛躍準備の姿の中に大體二つの大きな流れが見出される。即ち歐米文化より取材した現代の合理的科學的明朗を基調とする近代的形式と、日本の傳統的形式より取材して、その美的感覺の再現を基調とせる形式とである。

一は建築元來の本質にその立脚點を置き、構造、材料等に現代の科學的手法を採り入れ合理的經濟的に機能を充足し、かつ、簡潔、明朗、健康なる近代的氣稟を盛つた形式を主とするものであり。一は構造材料に嶄新なる科學的手法を採用するも、主として日本古來の木造建築の美を憧憬し、その形式を總體的又は部分的に採り入れて古典の美を再現し、古來傳統の寮圍氣を保存せんとする型である。

明治以來永い間歐米の模倣に終始してゐた我國の文化形態が今日各種の情勢からこれを潔しとせず、自主獨立の國家觀念を確立し、躍進日本精神の聲が一般に喧傳されつゝある今日、必然的に國粹に返り、日本の再認識に新時代の様式を生み出そうとする努力は、吾々にとつて正に目覺ましい關心事であり、やがてその結果として後者の形式、所謂日本趣味建築が愈々盛んに出現しつゝあることは等しく首肯できるところである。

しかし理窟は一應首肯できるが、そこに建築としてくわしくは考ふべき餘地が多分に殘されてゐる。物は花火線香式の思ひ付きで成就はせぬし、建築は机上の空論で盛りたてる理にゆかぬ。日本趣味であるからといつて新興日本の建築に鐵筋コンクリートのなんでも破風や枓栱を保存せねばならないとしたなれば、あまりに偏狹な國粹の攝取と云はねばならぬ。表面を浮動する泡沫をのみ見るものは大きな本質の流れを知らぬ偏狹を省みねばならない。「日本人中の日本人」なるために松岡滿鐵總裁の東京にをける新築の洋館(？)に非難の聲を擧げるものへ文化と建築の常識教育を施さねばならぬ。鹿を逐ふ者山を見ざる偏狹がどうして建築の本質と文化の進展を認識し得やう。周邊の視野を遮絶し狹隘なる一路を猛進せんとする馬車馬式偏狹を日本人の缺陷たらしめてはならぬ。

如何なる建築であつても今日耐震耐火を望まないものはないとすれば鐵筋コンクリートは今日の常識である、而もその新興建築に古來木造發展形式たる破風枓栱式をどうでもそのまゝ採用せなければ、日本文化の象徴でないとあつては、まことに情ない仕事であり、日本文化よ何處へ行くと叫ばねばならなくなる。されば一體日本新興建築は如何に發展すべきか、古來傳統の型式を拋つか、歐米から攝取するか、然り又然らず、とするより外はない。

日本文化に就て考へてみる。抑々古來日本の文化は大部分支那大陸から輸入したものでだから日本個有の文化はないかといへば立派な文化が明確に存在してゐた。ドイツ、フランス、オランダ、ロシヤ等皆系統を同じくしたギリシヤ以來の繼承であり、絶えず混和し乍ら、而も立派な夫々異つた文化を持つてゐる。元來文化なるものは單に個別的に發生し發展するものでなく必ず他と接觸し、混和し、初めて發展するものといふことである。即ちそれは元々個有といふよりは接觸によつて生成し、發展した特殊態であつて、各國の文化の特徴は夫々各種の文化形態に、殊に美術に建築によく現れてゐるが、初めから一國的個有の文化が獨存してゐるといふことは先づ歷史上ない、何れも接觸と混和によつて發展し、純化され、特殊化されるのである。

日本の文化は過去に支那大陸との交通によつて、大陸のそれを繼承し乍ら、結局大陸のそれとは異つた感覺的傾向をもつて發展したものである、日本人の優れた感覺がそれを成就したのである。同じ型式を備へ乍ら、支那大陸又は朝鮮半島の美術、建築と、日本のそれとが如何にその態覺的特性を異にするかは二三の實例を以つてして充分である。大陸との交通が中斷されて獨自の進展に委ねられた平安、桃山等の時代を除いても、直輸入時代の樣式のみを見ても明瞭にそのことは觀取できるところである。材料の差はあれ、氣候風土を異にせよ、それ以上の差違はあの複雜煩瑣な曲線に、締りのない發揚的な形態に表れ日本の單純で粗朴な而も延びやかな明確さと、健實な沈靜さに表れてゐる。それは二つの異る文化の感覺的特徴が起因するところであつて、支那趣味、日本趣味といふ言葉だけでその意味を充分盡してゐる樣にも思はれる。

かういふ日本人の傳統的文化感覺が明治以來、一朝歐米文化との接觸により部分的に失はれつゝあることは、まことに憂惜の念に堪えずとするも、已むを得ないところであるがこの新文化を攝取して、とにもかくにも過渡期の過程を終らんとしつゝある今日、この新文化の「日本化」に當つてどんな方向をとるか、正に今日は日本人の文化的能力の試練期といふべきである。獨り之は美術、建築の問題に止まらず、文化を表徴する一般の諸相の問題、小にしては個々の趣味、生活態度の問題でもある。遺憾乍ら現代はまだ歐米の科學的文化を完全に取入れはしたが、そしてその科學的資材の直接的取扱ひに於ては既に出藍の誇りを持ち乍ら、その文化の感覺的形式の發展に對しては、いさゝか新しい資材の消化力を失つた形で、傳統的文化感覺ではその處理ができなくなり、而もまだ新しい感覺でそれから自分のものを作り出す力が得られない、得やうとしてもがいてゐるといつた形である。つまり新しい資材による日本的文化感覺といふものゝ見當がまだ判然とついてゐないとも云へる。

しかしこの狀態が何時まで續くか、最早永くはあるまいと見るは尚早の自惚れか、既に新興日本の文化的象徴はその萌芽を一方の視野に現はし初めつゝあると見て、勝手な獨斷のそしりを免れないだろうか。即ち歐米直輸入と日本本來の感覺とが、その本質を交換しつゝ、この極端に對立する二つの流れが、近頃特に心持の上で一つの集點に落着きを見出してきた樣に見えるのである。相離れてゐた二つの線が相接近してきて一つに融合しそこに兩方共に今迄見出されなかつた一つの感覺を有する形に纏りかけつゝあると見へる。特に工藝品や、住宅、店舗などの新しい傾向には多分にそのきざしが現れつゝあると思ふ。しかしこうした一致は決して不思議でも、遇然でもなく、日本が右來歷史上に於て度々繰返してきたところであつて何の偏倚でもなく、行くところへ落着いただけのことなのである。この傾向の進展は人工的に曲げやうとしてできるものでなく、又無理に促進せうとして難しいものでもある。何時大成するかは見通しはつかぬし、強いてつける必要もない、近代的明朗小學校建築の中で日本精神を吹き込まれつゝある現代の小學生にその將來を期待してもよく、文化の交流と個有の文化的發展は極めて自然の狀態であれば、唯安置してをいてさへ自らその道を見出し、その成果は期せずして結晶するのではないかと思ふ。唯この間にあつて正當なる發展を阻害するものは兩極端に無理を強いんとする認識不足の花火線香式議論と馬車馬式偏狹とである。

かくして世界に優秀なる日本古來の美的形式が愈々失はれることはまことに愛惜に堪えぬところであるが、一方古典は古典としてあくまで保護し後世千載に殘すことが必要な事業となる。又特種の意義を有するものは大掛りで純日本建築の美を新たに構築することも必要となろう。その意味に於て今日營まれる純日本建築はその建設の動機から見ると大體二つに分けられる、即ち一は建築の內容表現上の立場からするもので、神社、佛寺、記念的建物、寶庫　劇場等である。此等はその特種の意義を備へ、古典保存といふ意味からのみ受けいれらるゝものであつて、中途半端な型式遊戲に墮せざる覺悟が要る。この場合附近環境との調和並にその技術的手法に就ては充分識者の考慮に俟たねばならない。少くと

も市街地にはその周圍に大なる庭園又は樹林を配し、自然との混交を計り都市計畫上の考慮を以てすることが必須的條件である。

他の一つは風致地區保存、又は史蹟名勝天然記念物保存等の法規を以て、又は各地方官廳の所管事項として取締りの中に含まるゝ建築上の制約によつて生れるものである。即ちその建築の種類內容の如何を問はず、「其現狀を變更し又は其の保存に影響を及ぼすべき行爲……」は法の制約をうける理であるが、この法規たるや一見甚だ簡單の樣に見えて、實際上の運用に當つてはまことに厄介な問題を包藏してゐる。

時によつてはどうでも破風杈栱を强要され、それでさへあれば、まことに愚劣極まる化物が麗々しく日本古典美顏して橫行する樣な仕末になる。更に建築の內容が合致しない場合が多く、甚だしい矛盾が生じ勝ちの結果となる。法規の條文はそのまゝでは極めて消極的な範圍に止まるが、少くとも之が運用に當つては、國家社會的立場から積極的精神を發揚して、眞の日本的なものゝ開發に一步を進めなければならないものと思ふ。

少くとも各地方官廳に於ては法規上の申譯的取締りに墮することなく、又費用を惜むことなく、建築に關する專門家にして、社會百般に就て常識と卓見を有する人物をして之に關與せしめ、內規又は方針を更改して、風致の優生的保全に意を用ひてもらひたいものである、又あまり消極的な日本趣味に偏する結果は自動車庫が簡單に入母屋造りの寶庫になつたり、艇庫が宇治の鳳凰堂に化けたり、修學院離宮中の茶屋の緣勾欄が安宿の二階手摺に得意然と納まつてゐる如き、その似てもつかぬ似眞非形式は眞正日本美術を冒瀆するものでなくて何であらう。

眞の日本建築の美は單なる部分的の所好や遊戲的の型式採集によつて再現せらるゝものでは毛頭なく、自然との融合と機構全體の調和と更に精神的信念を先づその根基としなければ決してその階調の美は發露しない。文部省が國寶及び特建の保存に大馬力をかけることは眞に有意義な國家的事業であるが、同時に特種の建造物にして日本建築美を再現建設せんとする場合國寶たるその型式を指導し、人を得て設計監督する位の大事を踏んでよいものと思ふ。

然し之は特殊の建造物に就ての論であつて、唯一般の文化建築に就てあらゆる場合、あらゆる建築に對し、歷史的日本型式を强制し、破風と杈栱を曲りなりにもくつつければ之が日本精神を發揚するものであり、風致を保存改良し、人心を啓發せしむるものであるといふが如き法の運用に至つては、まことに寒心に堪えないところである。尙かゝる片輪式偏狹をあくまで固執せんとする者は、唯職務として法規の取扱ひに任ずるといふ者よりも寧ろ國家的立場から身を犧牲として眞面目一天張りに風光、美術、建築に關與せんとする熱心なる有爲の材に於て最も然りとするは更に寒心に堪えないところである。

物の正當なる認識は先づ全體のこだわりなき通觀に初まる。個々の狹い專問と所好に癖して餘りに一方にのみ偏重するものは結局片輪者になり下る。獨り上述の問題に關してのみならずかゝる通弊は我國社會一般至るところに見出される樣である、馬鹿程こわいものはないといふ、認識不足と馬車馬式偏狹も亦。

建築その折々

大内秀一郎

建築に關係のある時事問題についての意見を、とのこと故單なる感想として申し述べることにする。多忙と病氣後で、僅かに責任を果したいと思ふ。御諒承を乞ふ。

○

住宅の住み心地よさは、敷地及び敷地と建物との關係とか、建物の方位、各室の配置などによることは、今更、申すまでもないことであるが、普通一般の住宅の場合に就いて見ると、最も閑却されがちなことは、臺所の諸配置及設備や、浴室、便所等の設備完全なことである。住宅は住む機械だと云ふ現代では、特別に設備に金をかけないまでも、今日の様に雇人—特に女中—を使ふことの困難な時代には、一家はその家族だけで、他の人手を要さない様に、最も簡單に、最も能率よく、最も勞力を要しないで、住の目的が達せられる様な、臺所その他の配置と設備が欲しいのだ。住宅が住む機械ならば、各部分について機械の様な便利な裝置を、必要とすべきである。即、最も簡單な能率的な設備配置を云ふのだ。

大都市の近郊には、隨分、澤山の住宅地が、經營されて居て、文化の水準の高い設備のよい住宅も相當に多いのだ。然るに、大都市の內部では、それが極めて少ない様に、見えるのは嘆はしいことである。尤もこの住宅の設備は、その地方地方の生活樣式に關係のある事で、多少の相違はあらうと思ふが、その生活が、最も能率よく、最も勞力が少なくて經濟的に出來なければならぬと思ふ。さう云ふ意味の住宅が建設せられて、そこに文化の進歩が實現し、人間生活の向上があるのではないか。

また便所について見れば、最も衞生的な設備は、水洗式のものであらう。しかし、住宅の便所を全部これにするには、先づ完全な下水道が必要になる。そして、これに伴つて汚水處理場が必要になつて來る。ほのかに聞けば、大阪市にも下水道構築の大計畫があると云ふから、やがて全市に水洗式の便所を使用する様な機會もやつて來るだらう。けれども水洗式を使用するには、相當の注意を要する。すべて巧妙な機械を使つて居れば居る程、各部分に亘つて細心の注意を要する様に、使用上の注意が要る。

若し便所だけでも、水洗式が大都市に於て、完備するならば、國民の保健の上に甚大な影響が生ずるであらう。

要するに住宅の設備の良否は、そこに住居する家族の健康と經濟に關係することは、著しいものだらう。

○

御承知の様に、アパートメントハウスは、アパートと呼ばれ、またアパートと云はれる程に氾濫期に達した。現代の都市の住宅としては、これが發達を助長せずにはおかないのだ。しかし、現在では、構造、設備が上等なものが少ないために、或る種の悪い印象を、アパート住ひと云ふ言葉のあとに口に殘すため、大都市として必然な住宅の一形式も、甚だゆがめられた境遇にある。これはどうしたことか。此頃澤山出來る所謂アパートは、一間二間の室を貸すもので、簡單な炊事が出來る様になつて居るものが、頗る多いのである在來の下宿屋に毛の生えたものがともかくアパートとして出たのだ。間借よりも、プライベーシーが保たれると云ふので、住む人が多くなつた。そして、比較的僅かな投資で容易に收益をあげられるため、雨後の筍の様に出來たのだ。しかし、これも一時、あれも一時で、もつと、構造材料、設備の整つたアパートメント・ハウスが出現してよいのではあるまいか。あまりにチヤチなアパートは、排撃して然るべきである。社會のバチルスを作るべきアパートは、建築家自身によつて排撃すべきである。歐米の大都市の住居地域を想起するならば、我國の都市の住民地域が、如何に蕪雜で非衛生的であることを嘆かずには居られない。

不良住宅の改善、眞のアパートメント・ハウスの出現こそ、我等の手で行はるべきものだ。

我が國では、兎角、建築に金をかけることを、好まない傳統性があるのは少し反省すべきではなからうか。なるべく經濟的に建築すべきではあるが、度はづれた安價な建築費は考へものではあるまいか。贅を盡さなくつても、恒久性のある程度のものには考へたいと思ふ。非常時に際して、空襲より都市を護るためにも、相當の建築の建設をせねばならぬ

○

都市の美的方面として、美觀地區と云ふものがきめられて居る。誠に結構なことであつて、その地區に建てられた建築に就いては、一應は監督官廳の指示を仰がねばならないそれは恐らくこの地區に建つものが、あまりに周圍の環境と調和を缺いては、いけないし秩序を亂す様なものではよくないのであらう。特に美と云ふ様なことを考へる時は、あまり主觀が働き過ぎる様に思はれるから。

近代の都市に於ける美の大部分は、美觀地區ばかりではなくつて、宏壯な建築物の集合する街路とか、バスや電車、自動車の輻奏する大通りとか、街路を貫く高架鐵道の高架橋とか、河川を横切ぎる橋梁とかに、その生ける美しさが感じられるのである。

かく觀じ來れば、都市の美觀地區は、統一された秩序を保つた地區と考へるのも、一つの考へ方ではないのだらうか。ヨーロツパの大都市に就いて見ても、この感を深うするあるものが存する。

飜つて我國の帝都宮城の一帶、大阪に於ける大阪城址、京都に於ける御所等は、美觀地

區ながら同時に風致地區であらう。風致を加味した美觀地區であつて、これらは他にその比類を見ない程に素ばらしい。パリのシヤンゼリゼーでも、ウキーンのリングストラーセでも、ベルリンのウンターデン・リンデンでも或る種の風韻に於ては違く及ばないのだ。

それ故に、都市に於ける美觀地區は、建物の高さの制限とか、建築材料の制限とかによつて、その地區全體に統一と秩序を與へ、これによる美觀を目的とするのではないだらうか。即、美觀地區として建設する處は、街路の整然たることや、建築の配列の秩序の正しさから生する、美を目的として居るのだと思ふ。しかし、すべて歷史的な傳統のある地域にあつては、單に街路や建築に依る美觀ばかりではない。風致、即、或る空氣を漂はせ保存することが必要ではないだらうか。我が國には風致地區と云ふものも考へられて居るがこれは美觀地區の內に包含される樣に、解釋してもよいものではないかと思はれる。

近時、國際觀光客の誘致に、國をあげて全力を盡しつゝある今日、また、來んオリムピック競技が、日本で開催され樣として居る今日、都市の美については、建築家のみならず一般が、大いに關心を以て、都市の美に就いて協力一致して、その完成を期したいものである。

○

都市の美觀と關係して、廣告が問題になつて來る。都市美に關心を持つ人は、合せてこれを考へなければならない。新建築は多くは、表面が平滑であつて、材料によつて生ずる樣式であるから、廣告によつて、表面の美さをなくするのは、どうかと思ふ。これには廣告の圖案又は電氣の照明方法にもよるものと思ふ。けれども總じて廣告は、どつちかと云へば、建築物の外觀を損して居る樣に感ぜられる。夜の照明をのみ志す廣告は、白日の下では可なり不愉快の感じを與へて居る。晝間の廣告にあつては、極單純なものの外は常に建築物を破壞する作用を與へて居る。特に晝夜兩用の廣告塔の樣なものは、なくもがなと思ふことが屢々である。夜を目的とするネオンのもの、電燈照明によるものも、あまり惡どいものは、不快の感を與へるに過ぎない。

若し建築に附屬した廣告である場合には、建築自身をあまりないがしろにせず、且照明による效果も有效なものを考案すべきではないか。

たゞ自分一個の考へでは、なるべく晝間、夜間共に廣告は、簡單なもので效果あるものが、都市の美を損しないでよいのではないだらうか。今日の甚だしきネオンサインの廣告は、刺戟のみ强く效果よりも不快の印象を止める樣に思ふのだ。

いづれにもせよ、廣告によつて都市の美觀を損する程に、過剩なのは、寧ろない方がよいと思ふ。

アド・ビルの試みなども、廣告を專門にして、建築的にまとめたものだらうが、自分はあまり感心はしない。夜と晝との兩用の廣告的效果が、むづかしいらしい。廣告的效果はアド・バルーンに劣ること、數倍ではないだらうか。この問題は、あらゆる方面から研究

すべき事で、簡單にきめること出來まいが、感想の一つとして述べさして頂きたい。

○

次に大都市の近郊に、樹木の多い田園都市の出現が非常に望ましい。これを目的として計畫された住宅地が、多く實現して居る。樹木の多き閑靜な住宅地は、歐洲の大都市では至る處に見られる。我等はこの實現のために努力しなければならない。と云ふのは大都市の近郊は、すべて無秩序に、破壞されて行つて、何等の計畫なく、安價な貸住宅が、庭も充分になく、建てられて了つて、田園の趣とてもなく、所謂チンドン屋趣味の新開住宅地に化して了ふ。と云つて道路、下水等の完備は勿論して居らぬから、雨に風に居住者は困苦を感じる。

この頃の様に、自然による災害の多い場合には、人は何によつて、災害を防ぐことが出來るのか。秩序ある計畫の下に、樂しき田園都市の出現することは、また刻下の急務と感ぜられるのだ。

本號執筆者紹介

（五十音順）

大内秀一郎	大阪市電氣局營繕係・技師
大倉三郎	京都帝國大學營繕係長
龜井幸次郎	大阪府建築課技師
川勝健二	大阪府警察部建築課
玉置豐次郎	大阪府建築課地方技師
田中彌一	大阪府建築課技手
南信	南信建築事務所長

新　京　か　ら

南　信

滿洲の建築には色々な問題が殘つて居ると思ふ。今日1年間に新京に於て建築されて居る建築は總坪數にして7萬坪を下らない現狀にある。その建築が主として煉瓦積であり、煉瓦の總箇數にして1億數千。それが毎年5月頃から11月頃迄、約半年の間に建設されるので、工事期は全く戰場の樣な狀態を現出する。道路が未だ完全でないので建築材料の運搬が大變である。特に6,7月の交になれば大陸は雨期になり、所謂分龍雨と稱する豪雨が沛然として來る。こちらへ來た當座、この煉瓦運搬の馬車馬が、肩を沒する水溜の中に將に溺れんとして居たのを見た事がある。斯くして重い煉瓦を運搬し、此の雨期の候に煉瓦を積み、結氷期迄には建築を完成するのである。

結氷期となれば凡ての工人は冬眠期に入る。苦力の大部分は主として山東から來て居るのであるが、此の期間が來れば安堵をなして引き上げる。支那人職工は大部分引き上げてしまふ。殘存の職工も工事が絶えてしまふので全くの冬籠りをする。

此の冬期間の工事が、その幾部分でも可能になるならば、滿洲の建築界の大きな革命である。內地から優秀な職工の移住も可能な狀態になるであらうと思ふ。今日色々なセメント耐寒劑も輸入されて居る樣であり、特殊な工事に使用されて好成績を收めて居る由で甚だ結構である。只工費の點で可なりな犧牲を拂はなければならない樣であるから、此の點未だ相當研究の餘地がある樣に思はれる。在來の建築法に幾分の改良を加へるといふ考方も一つの方法ではあるが、更に構造の根本方法を改めて、冬期間の工事を可能になし得ないかと私は思ふのである。今日問題となつて居る乾構造法等は、も少し研究して見る必要があるのではあるまいか。冬期間工事の不可能になる所以は、その大部分が結氷の爲めに水の使用が不可能になる事にある。故に水を用ゐる事をさけて反對に火を用ゐるといふ方法になれば、可能の度合が幾分加はる事となるわけである。滿洲に於ても工場工作は冬期間と雖も極めて容易である。且つ冬期間の結氷は滿洲至る處運搬を極めて容易にする。唯戶外の溫度の低下と日中の極めて短縮する事との不利益を招來する事ではあるが、これは設計の方法を研究して、工場工作を多くし、現場工作を極端に少くする等の方法を講ずるなれば、或る程度の救濟が出來ると考へるのである。構造はどうなるか、木造の許されて居らない都會地では鐵骨構造でなければなるまい。地震を考慮に入れない當地の建築に於ては、鐵骨と雖も極めて輕量のものでよろしいであらう。溫度絶緣の方法も、現在は煉瓦一

枚半で大體可能であると考へられて居るのであるから、鋸屑又は乾草等を使用して充分であるまいかと思ふ。外裝は鐵板かアスベスト板等も使用し得られるであらう。內裝は諸種のテツクス類が間に合ふであらう。室內の諸塗裝は、煖房を使用する事によつて何等の困難も無い。室外の塗裝は解氷を待つて行ふ事も可能である。寒氣に對する絕緣の問題に對しては、今日滿洲の野を鋼鐵製の汽車が走つて居て、何等不都合を感じない點から見て、少しも問題とするに足りないと思ふ。寧ろ不完全な煉瓦工事に比して、どれだけすぐれて居るかわからない。唯工費の點は幾分高くならう。然しそれも冬期間職工の閑散な時機を利用する事になれば、工賃は可なりに低減すると思はれる。今日に於て煉瓦造の一般住宅の工費も坪當り 150 圓前後になつて居る。此の坪數といふのが煉瓦積の外面で計算して居るのであるから　實際の働きは約2割の減少を來す。さすればネツト1坪の工賃は約180圓位に當るわけである。それだけの費用をかければ鐵骨の建築も不可能ではなささうに思はれるのである。

今日行はれて居るウエツトコンストラクションには可なりの缺點がある。工事期間が前述の樣に1年の半分位である爲めに、煉瓦に含めた水分が乾燥する時間がない。且つ仕上の工事、左官工事等が多くは初冬になるので、翌年は左官工事を大部分やり更へねばならない樣な狀態になる。且つ此の未乾燥の建築に冬期間煖房を通すので室內の水蒸氣は天井から天井裏に昇り、屋根裏に氷結する。それが解氷期になれば一時に解けて室內に流れ落ちる。或は天井裏に氷結する以前に天井に露結して名狀し難い結果になる。新築の家に於ては最初の一冬可なりな犧牲を拂はなければならないのである。これらの犧牲を費用に見積れば相當なものである。それを加算すれば鐵骨構造必ずしも不可能事ではないと考へられる。

○

自分が渡滿の折用ひて居た眼鏡は、內地で用ひて居た鼈甲緣であつたが、大連に上陸して兩3日のうちにすつかりはぢけて用を爲さなくなつた。室內の空氣の乾燥の爲めである新京に着いてから間も無く、同居して居た友人の尺八が或夜音を立てゝ割れた。これも乾燥の爲めである。

戶外に於ては零下何十度といふ全く水分の存在を許さない狀態にある空氣が、室內に入つて20度位の溫度に熱せられるのであるから、少し位の湯氣を立てゝ置いた位では濕度は殆ど問題にならない。滿洲の室內の空氣の乾燥狀態は全く殺人的である。

こういふ空氣の中にある木材加工場は例外なしに狂を生ずる。狂を生じない木材といふものゝ存在が不可能なのである。相當入念な家具調度が、みじめにそり返つて居るのを見るにつけ、何故鋼鐵家具を使用しないかと思はせられる。鋼鐵家具の製造家が、も少し勉強してその普及につとめて呉れる事を希望する。

鋼管家具などは、其の發生の事情に此の滿洲の事情と似通つた周圍を持つて居るだけに

日本內地よりも更に多く使用の適切性を持つて居はしないか。製造家及販賣家諸子の一考を煩したいのである。

鋼管家具は、當地のカフエその他の尖端的な一部に賣り込まれて居る様であるが、未だ一般の家庭に入つて居るのを見た事が無い。これは尖端的な方面に其の販路を求めるよりは、寧ろ實用品として一般の需用を刺戟して貰ふべきであると思ふ。

○

滿洲に於ては10月の末になれば窓に目貼を施し、4 月の末になつて始めて窓を開く。此の半ケ年、室內の換氣は殆ど無くなり、室內に於ては煖房を焚く爲めに塵芥煤煙等で甚だしく空氣が惡染される。且つ日光は、保溫と建築材料の關係で窓の面積が小さいのと、冬期太陽の照度が少くなる爲めに甚だしく缺乏して來る。其等の原因から滿洲に於ける呼吸器の罹病者が甚だ多くなつて居る。死亡者の70パーセントは呼吸器病者であり、滿鐵社員だけでも1日平均1人宛肺患で斃れて居るといふ。

昨今當事者は盛に冬期間戶外に出る事を勸めて居る。戶外デー、スケート祭、曰く何、曰く何。一般の住民を戶外に誘導する事に十二分の努力を拂はれて居る事は誠に多とするのであるが、滿洲の住宅はも少し日光と空氣とに對して考慮を拂ふ様に指導される事を望むのである。

滿洲在住の建築家諸子は、舊來の支那家屋が構造上の關係と、硝子存在以前の舊態に依つて紙障子を使用した窓が、保溫上極端に窓を小さくした慣習が先入主となつて居るものと見えて、窓を大きくする事に甚だしい恐怖を抱いて居る様に見えるのであるが、自分の經驗に依れば、窓の方位さへ撰べば窓の大きさの爲めに決して保溫の効果を減殺するものではなく、却つて晝間に於ては煖房の効果を非常に助けるものである。斯くして日光を相當多く取り入れ、且つ室內の空氣の動搖を來さない程度の換氣裝置を設備するならば、保健上相當な効果をあらはすものであると思ふ。日光、換氣の問題に對しては或る程度法令に依つて强制する事も必要ではあるまいか。

當今オゾーン發生裝置等に依つて空氣の消毒も簡單に行はれて居る様である。建築家は斯の如き方法をも一般に紹介して、民衆の保健の爲めに一臂の力を借すべきである。

新京に於て１ケ年に消費される石炭は50萬噸であるといふ。主として冬期６ケ月の間に煖房用に供せられるのであるが、其の煤煙は實に甚しいものである。昨今色々な事情で良質の石炭が一般に供給されない爲め、或は煖房設備の不完全な爲め、色々な原因に依つて煤煙は日を追つて甚だしくなる様である。一夜雪が降れば１日にして灰色になる。天日尙暗しといふ有様である。

昨今煤煙防止委員といふものが出來て、色々研究して居るといふ事で誠に結構である。1日も早くその成果を見たいと希つて居る。

煤煙の原因は勿論燃燒の不完全、石炭の不良等に負ふところがあると思ふが、石炭を焚

くといふ技術に負ふところも亦決して少くはない。當地の普通の家庭に於ては、相當完全に燃燒すべき筈のボイラーが取付けてあるにしても、火夫は多く滿人の少年であり、燃燒の如何なるものであり、ボイラーの構造の如何なるものであるかを知らないものが多い。そういふ火夫が徒らに石炭を投入して居る爲めに、ボイラーの構造がデリケートなればデリケートなる程、燃燒を不完全にして居る傾向がある。却つて簡單な構造のペチカヌはボイラーが、結果に於て良い成績をあげて居る事を自分は體驗して居る。

で、若し煤煙防止の方法も、ボイラーの種類を撰び、又は炭質の如何を吟味して居るのでは、却て誤つた結果を招來しはせないかをおそれるのである。寧ろ煖房蒸氣の供給會社を設立して、集中的に蒸氣の供給を企圖してはどうかと思ふ。斯くすれば不熟練な火夫に依つてする煤煙の製造を完全に防ぐ事が出來、その爲めに浪費される石炭を節約する事が出來、且つ各家庭にボイラーとボイラー室との設備を省略する事が出來、各家庭に置かねばならぬ火夫の費用を節約する事が出來、可なりすばらしい効果を生ずるのではあるまいか。會社は半官的な會社として良い、そして各家庭から石炭の影を無くしたならばと思ふ。家庭から石炭の消失する事を考へるならば、今日迄設備したボイラーやボイラー室を廢棄する事は、水道が出來た爲めに井戸を廢棄するの類であつて、決して問題では無いと思ふ。

一昨年始めて滿洲の土を踏み、甚だしい幻滅を感じた事は、此の廣茫たる滿洲に於て、如何にせゝこましく日本人が住んで居るかといふ事であつた。勿論滿洲は廣いが附屬地は狹い。その爲めもあるのであらうが、新京の附屬地に於ては殆ど庭らしい庭を持つて居る家は一つも無いのである。時期が此の非常時であり、新京建設の時に當つて居たせゐもあるであらうが、空地があれば何かに利用されてゐる、物置とか、埃溜とかに。

自分は最初滿洲には木が育たないのかと思つた。然し公園などにはよく育つて居る。此の近所では寬城子などよく木が育つて居る。後に哈爾賓へ行つて見て、杜の都會を見る事が出來た。露西亞人の經營した土地は概して木が多い。一寸見ただけで露西亞人の樹木に對する愛情を發見出來る。哈爾賓などは都市が一つの公園をなして居る。寬城子等も極めて小さな一部落に過ぎないけれども、鬱蒼と木が生へて居る。若葉の候、青葉の候とりどりの趣を持つて居る。秋も冬も棄てがたい景觀がある。今日は新京人の遊覽の土地になつて居るが、攝收前の露西亞人は沒落の日を眼前に見ながら、此の綠陰に生活を樂しんで居たのであらう。飜つて新京の都市、特に附屬地を見ると落莫の感がある。街路樹は植えてあるが營養不良である。公園その他の公地にはかなり樹木があるが、民間の土地には殆ど一木一草をも見ない。滿洲にある日本人は全く樹木に對して無關心である。

今自分が住んで居る家にも若干の空地があるが、此の家主が自分に此の家をすゝめて、貴方の樣な御商賣の方には材料置場に持つて來いだといふ。そして木を植えよとも草を植えよとも言はない。自分は此の家主の言葉から、全部とは言はない迄も或る一部の在滿邦人の氣持を聞かされた樣で寂しかつた。自分は此の若干の土地に木を植え、草花を植え、

鷄を飼はうと考へて居る。

或る青年――建築屋であるが、少し小金が出來たら內地へ歸つてといふ事を言つて居た內地の人は人が惡いから滿洲歸りだと思ふと何とかして在金をまきあげてしまふ。內地へ歸つたら屋敷でも買つて、何もせずに暮すのに限る。此の考方はこの無邪氣な青年だけの考ではなく、恐くは在滿邦人の大部分の考ではあるまいか。日本人にとつて滿洲は永住の地ではない。日本人には故鄉があり墳墓の地がある。溫和な氣候と、勝れた風光と、豐富な物資とを持つた故國があるのだ。滿洲は一時の方便としての生活地に過ぎない。そう日本人は考へて振舞つて居るのだと思はれる。そんなところに木を植えて何にならうと思つて居る樣にも見える。

而かしこれも一時過渡期の思想であらう。滿洲にもぼつぼつ永遠の方策が立てられなければならない時期である。露西亞人の樣に到處適意の意氣が欲しい。到る處に於て充分に生活を樂しんで行かなければ損だ。

昨今盛に都市の綠化運動が叫ばれ出した。地方事務所から、樹木の苗木などを無料で配布する企てもある樣である。每年初春に植樹式などゝいふ企があり、或るまとまつた數量の植樹をする企もある樣である。極めて時機を得た事である。

唯自分の思ふ事は、日本人は餘りに良い故鄉を持つて居るといふ事である。望鄉の念忘じ難しといふ。常に胸裏に存する內地への憧憬は、內地とは自ら異つた此の土地に、松を植え、櫻を植えんとして居る。虛子であつたと思ふが日本人は庭を作らうとすると、松を植えねば承知しないといふ事を滿洲の視察談の中に言つて居たと記憶するが、公園の中にも、個人の庭の中にも、必ず極めて貧弱な松を植えて居るのである。

松の常綠は誠に結構であるが、極寒の冬の間、生氣なく眞黑に凍てゝ居る松の木を見る事は、實に味氣ない氣持を感するものである。冬の間は寧ろ落葉樹の姿が良い。滿洲人の習慣として、松は墓地以外に植えない樣であるが、そのせゐか滿洲に於て見る松は陰氣な感じがする。昨年或る蒙古人の住宅に關係したが、その庭園を作るに當つて、日本人の植木屋は庭木の大部分に松を用ひたのに閉口した事である。日本人から少し此の癖をとつても良いと思ふ。

何にもせよ滿洲にはだんだん樹を植えなければならない。植民は植樹からだと思ふ。

沖繩の聚落と民家に就て

川勝健二

序言

沖繩縣の民家に付いて調査をしてみたいとは前から考へて居たのですが、幸ひ昨年末機會を得たので、冬期の餘暇を利用して多年の宿望の一部を遂げたわけであります。

本縣が他府縣に比して、著しく異つた自然條件や、土地所有型態、文化形態を持つてゐる事は古くから云はれてゐることでありますが、之等のものが何らかの形で一般住家に影響し、如何に關聯してゐるか？、これが今回私が出かけた主要な目的であつたのですが、何分調査日數が少く田舍の方へ入つて行くと言葉が思ふ様に通ぜず、且つ逗留中の天候が惡く、徒歩や寫眞等に非常に困難でありました。之れ等の事情で充分な調査が出來なかつたので、本稿に於てはこの地方の聚落と民家に付いての概觀的報告をする事に致します。

尙本調査に際して種々御指導を願つた、現圖書舘長、島袋全發氏、及び、教育會主事、島袋源一郎氏、並に直接御案內の勞を願つた、本縣保安課建築技手、大城龍太郎氏の御厚意に對し、此處に深甚の謝意を表します。

I・聚落

A・山地部落

本縣に於ても聚落は山地又は高地に發生したと推定されますが、地名に何々城と云ふのが全島に亘つて分布して居り、特に南都の方に密でありますが、之の城は「グスク」又は「グシク」と讀んで居り、ドイツ語の berg や burg に當るもので、封建時代に於ける群雄の城塞だつたらしく、高地の見晴し良き位置を占め、現在之れ等の地には多く石垣を殘存し「グスク」から「グスク」へは大抵峰傳ひに道路が通じて居る。同じく山地部落でも「グスク」を中心とせない、北部國頭地方の聚落は宗家の如き大家を除いて他の家は大さや形、各家の間隔なども大差なく、可成り整然と石垣を巡して集り、その部落の中心とか山手等に神「アシヤゲ」又は「アサギ」と稱する所の氏神＝共同祖神、の禮拜所を持つてゐるのであります。之れは最近まで之の島に殘つてゐた地割制と氏族制の殘滓を說明するものであらうと思ひます。

B・平地部落

農耕技術の發達と地方豪族の連合統一は、次第に低地への聚落發生を援け、所謂兼久「カ

ネク」と云はれる平地部落の形成を見るに至つたので、之れ等の部落は前記の山地部落とは、その聚落型態が非常に異り、殊に地割制を失つて以後に發生した部落は各戸截然とした敷地境界を持ち、屋敷周圍の石垣は多く篠竹の垣に變じ、屋敷地は小さく、家の形や向きは種々混つてゐる等が感じられる。

C ・ その他の部落

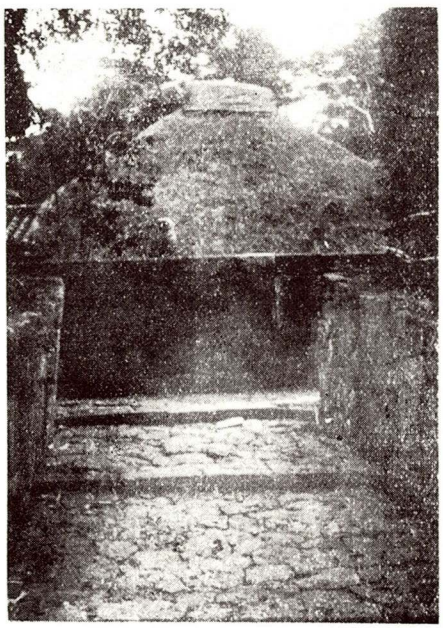
之れ等二者の他に特殊な部落と考へられるものに、糸滿町の如き夫婦別の財産制を持つ漁村や、宿通り部落と稱へる特殊な部落がある。之の中、漁村は極めて少く、且つ小部落が多く、聚落として興味も少い様ですから、說明を省き、宿通り「ヤドリ」の事であるが、之れは特殊の部落發生傳說（落武者、平家落武者等）を有し、又は之の聚落が、他聚落に見られる如き共同體的墓制を有してゐないのがある等、種々の點から特殊な發生型態を持つものとして、研究上重要なものであるが次の機會に發表したいと考へてゐます。

上記三種の聚落は本島に於ける聚落の大別であるが、共に最近まで續いて來た土地共有制の變遷がその型態の上に及ぼせる影響の大なる事は見逃す事の出來ない多くのものを持つて居りますが、不幸にも本島は參謀本部發行の地圖がなく、その上當地滯留中之れ等の寫眞を逸出したため此處に割愛せなければならないのは誠に殘念であります。

2 ・ 民 家 概 況

A ・ 屋　　敷

屋敷地は多く附近から出る山石（珊瑚岩、海綿石の類）で高さ6尺內外の垣（第1圖參照）を巡して相連つて居るが、恐らく之れは防風上の必要から造られてゐるのであらう。そして屋敷地の大きは200坪を普通とし、大家は300坪內外を占有し、時にはそれ等の家は第1圖の如く、屋敷全體に亘つて石壘を敷きつめて居る事もある。又同圖突當り正面に見える石垣は「ヒンプン」と稱へる目隱しで、之の地方の民家には必ら之れを有して居る。然して之れ等又は爾餘の建物の造營に當つては、門中(註)總出で造るのが原則である。故に新開の部落では之れ等の物が大抵石造ではなく、篠竹を編んだもので代用してゐる。（第2圖參照）



第　　圖

母屋及び附屬屋の配置に付いては、後項に於いて述べる事とする。

B ・ 構造その他

註　門中は共通の祖先を有する共同體の一單位で小字位の大きを有し、一姓の事もあり、數姓を含む事もある。

本島は多雨、多濕にして且つ石材の豊富であるに拘らず、一般の民家は軒の低い茅葺の木造である之れは曾て舊藩時代、二階建及び瓦葺を禁ぜられ、時には部屋の大さ、使用木材種の制限等を受けてゐたのは他府縣とその軌を一にしてゐる。然し乍ら、置縣後既に半世紀を經て未だに斯かる狀態にあるのは必ずしも禁令の影響とのみ云ひ得ない事は明かである。



第　二　圖

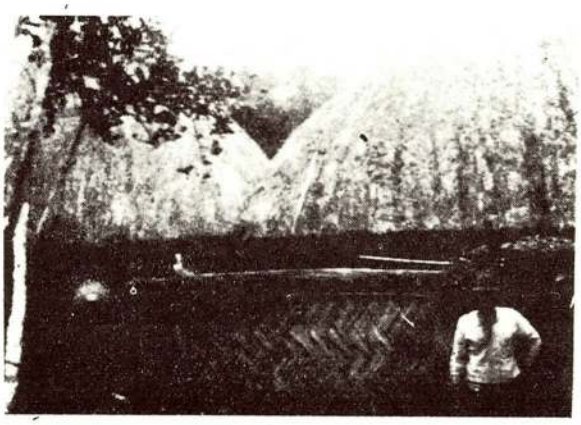
小屋組は、古い物は關西の農家と同じ様な合掌小屋組であるが、ツチなどを設けて屋根裏を使用する様な事は全く無い。之れは防風上棟高を低くするためであらうが、そのために一般に天井は設けない。只時に、特定の一二室には特に天井を張つてゐるのを見受ける程度である。

外壁は普通板戸板壁であるが、第3圖の目陰しに使用してゐる様な篠竹も用ひられてゐる。曾てはすべて之れを用ひてゐた様である。土壁は王家一統の邸宅内の小壁に使用する程度で他では一切用ひてゐない。

間仕切も矢張り板戸、板壁で、特に目立つのは3枚戸の使用と三筋の敷鴨居の使用で、夏季の通風を考慮したものであらう。

床高は大抵1尺2寸内外、或はそれ以下のものが多く、床下は大抵全部開放され通風を自由ならしめてゐる。

疊は一般に京疊を用ひてゐるが、大抵の農家では疊を用ひず、使用するにしても特定の1室或は2室程度で、それも平常は疊みかけておき、時に應じて適當な枚數だけ敷き並べる。そして普通は板間の上に猫伏「ニクブク」(九州の或る地方でも用ひる)と云ふ藁を編んだ厚1寸内外の matt を敷き、或は莚薦、疊表等を敷いて起臥して居る。



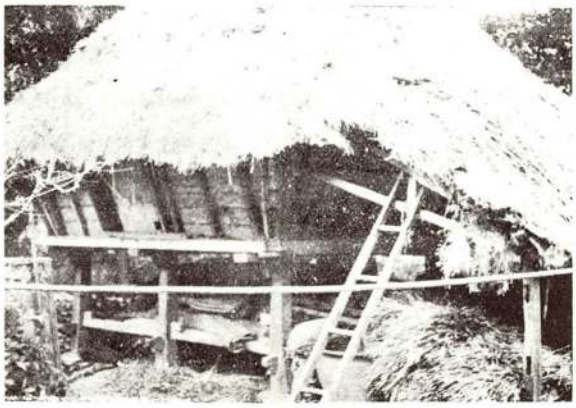
第　三　圖

3・民家平面型

A・南島型

那覇より北方約100 km、邊土名でバスを降り、山手へ 1 km 程入つた所で、Fig. A 及び B をスケツチした、例の石垣を巡つて屋敷へ入るとすぐ右手に高倉があり、正面に篠竹の「ヒンプン」がある。之れを右手へ入ると アサギ、の前を廻つて「ワラ」(上場) に通じ、左手へ入ると高倉の前を通つて第2の「ヒンプン」の脇から「トイグワ」(小殿)に入る。かゝる配置は本島民家の Lage-plan としては典型的なものである。(Nig. B参照)

各建物に付いて簡單に書いてみると、高倉は第4圖の如く高さ約6尺直徑約7寸の8本の柱の上に長押を通し、それから庇受まで斜に小柱を立て、之れに添つて板壁を張り廻し適當に入口などを設け穀類の保存に使用してゐる。大島にも之れに似た高倉があるが本島では之の地方を中心に大體國頭地方に之の種の倉が多く殘つてゐる



第 四 圖

「アサギ」は「アシヤゲ」(脚上ゲ)「メーヌヤ」(前の屋) とも云ひ、一般に客室であると稱して居り、平常は殆ど使用せず、家によつては物置とし、又は小供の勉强室とするなど現在の使はれ方は一定せず、重要な用途を持つてゐないに拘らず特殊な貧家を除いては大抵之れが附屬してゐるのは興味の深い事である。

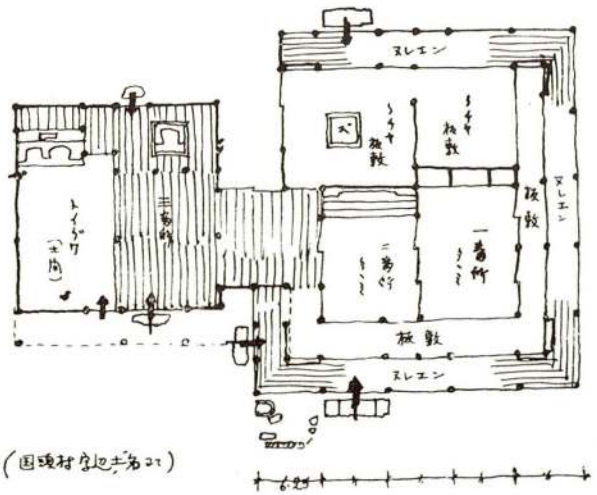


Fig. A

之の家の厩は第5圖の様に2階建になつてゐて、2階は「マガマヤ」に相當してゐた様で、最近まで村の青年男女の集會や協同夜業などに使用してゐた様である。本島の如き部落共同體＝世帶共同體の遺在の多い處では、斯種のものがある事は必然的なもので、眞和志村では、「マガマ

ヤ」だけを別棟にしたものもあつた。

豚舍は石造の穴窪であるが、最近は豚の發育上次第に木造小舍に改造されてゐる。

最後に母家の事であるが、Fig. B に見らるゝ如く、之の家は「ワラ」と「トイグワ」の二部分に截然と別れてゐ乍ら屋根伏は鍵型に葺きつながれてゐる之の平面は本島では珍しい方であるが便宜上之處に揭げる事にした。

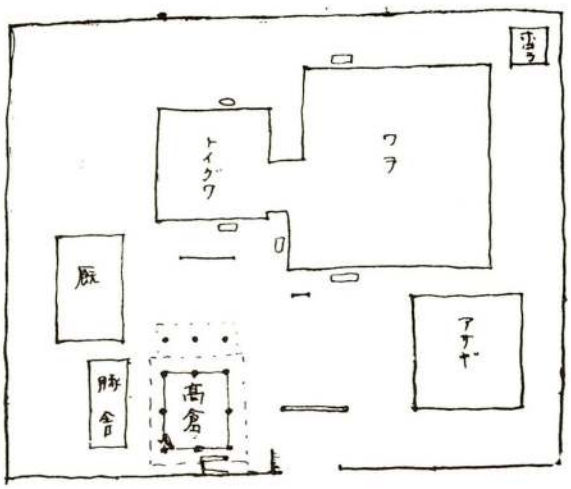
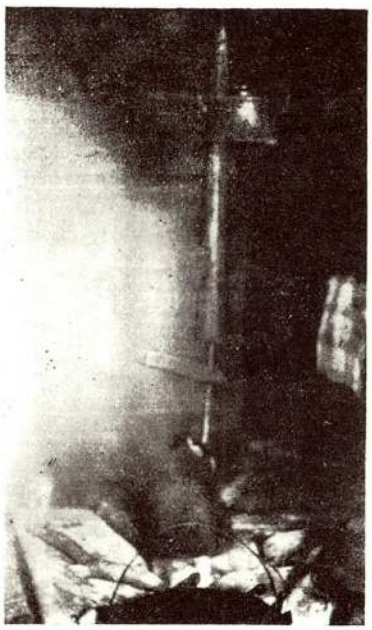


Fig. B

「トイグワ」とは炊事場に當る部分で、約半分は土間になり殘部は板敷でその片隅に造りつけの爐が切つてある、之處から巾廣い渡廊下で「ワラ」と稱へてゐる座敷に通じる。之の「ワラ」は四つ目型になつて居り、前面の座敷をそれぞれ1番處、2番處と稱へ、裏側の方を2室共、「クチヤ」と稱してゐる。1番處には神棚、床などを設け、2番處には下段を物入れにした作りつけの悠然とした佛壇を設け、「クチヤ」の一方には第6圖の如き爐を切り、病室、產室などに用ひてゐる。かゝる部屋の使用並に名稱、配置等は後記する本島型と全く同樣である點は注意を要するものと思ふ。

周圍のヌレ椽は平面を見ても解る樣に新しく附加されたものであり、又外壁や庇受など煩雜な程柱が多く


第　五　圖


第　六　圖

且つ機能的には邪魔であらう様な所にまで設けてゐるのは風の多い。之の地方の特徴の一つである。

B・本　島　型

之處に云ふ本島とは勿論沖繩島の事であり、本島型と云ふのは Fig. C 及び Fig. E に示す如き平面型を指稱するもので、之の型は本島に於ては最も多く、一般農家は殆ど之れである。一見四ツ目型、或は喰違ひ型の如く思はるゝも、Fig. D の Section より知らるゝ如く、炊事場の小棟と座敷の大棟の二つのつなぎ合されたものであり、その連絡方法は本圖に見らるゝ如き特殊な型式を持つてゐるので、敢て一型式としたわけである。

之の型は總べて後部壁面は一直線に連り、前面は 0.5 間乃至 1 間の喰違ひが生じ、之のケ所に於て、機能的にも斷面に於ても二つの部分に別れてゐる。一方は家族の起臥する座敷「ワラ」となり、他の小さき方は炊事場關係の「トングワ」となつてゐる。大さは大抵「ワラ」は 3 間乃至 4 間角、「トングワ」は間口、3 間乃至 3 間半にして奥行は 2 間半乃至 3 間となり、常に間口が奥行より半間伸びてゐるのであるが、Fig. D に見らるゝ如く「ワラ」との連絡部に兩軒先が合して雨樋を通すため止むを得ず、之れだけ伸びるわけである。

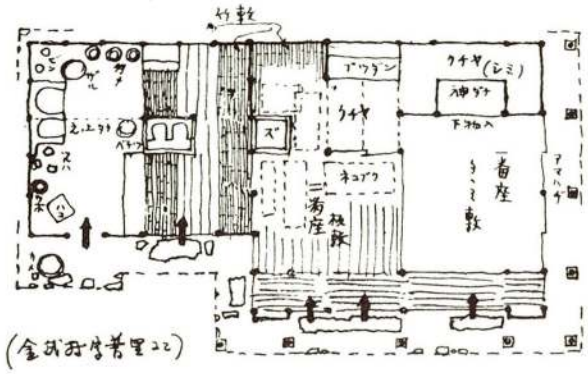


Fig. C

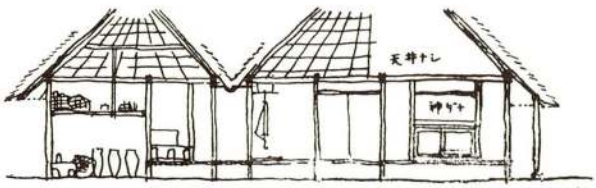


Fig. D

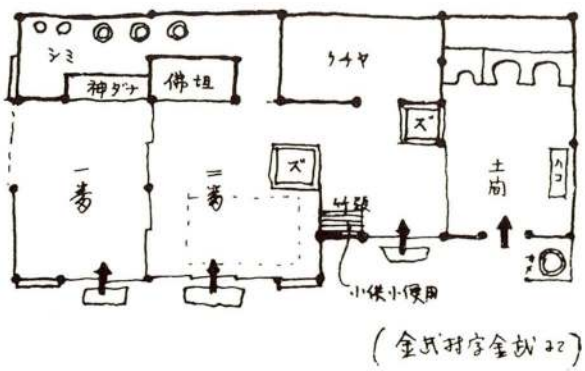


Fig. E

尙、Fig. E は「ワラ」と「トングワ」が Fig. C と左右反對になつてゐるが、一般には Fig. C のもの多く、E のものは少い。又屋根伏も Fig. D に於ては方形二棟を並べて中樋を設けたものであるが、之の型のものが最も多く、最近に於ては次第に第 7 圖の如く、鍵屋型に葺き連ねられてゐるのが時々見

られる。又「ワラ」の前面、或は周圍の雨蔭「アマハヂ」を椽側、又は濡椽に改造してゐるものもある。

屋敷の配置は Fig. B に示したものと同様であるが、只中部以南の地方では高倉が欠けてゐる様である。

次に「ワラ」と「トングワ」に付いて少しく説明を加へておく。



第　七　圖

「ワラ」は大抵4間取り又は6間取りとなり、之れが又表座と裏座に別れてゐる。表座の方は「トングワ」から最も遠い部屋より順次1番座、2番座、3番座と稱へて居り、普通1番座には祖神を祀り、床を設け、2番座には立派な佛壇を設け、3番座は物置兼用の板敷の間となり、曾ては家ツ子の部屋として、現在では下男部屋として用ひてゐる様であるが、奄美大島邊では之れに相當するものを、一の殿、二の殿、三の殿、と稱へ各別棟に作られ連結されてゐる様であるし、八重山島では6間取りの物が多く存すると云ふ事であるから、之れ等を綜合して考へると、曾て存した世帶共同體が私經濟世帶に移る過渡期に於て、その包容する家族内に何らかの Order が作られたものであらうと考へられる。

裏座敷は各部屋共「クチヤ」と呼ばれてゐるが、時には隅部屋を單に隅「シミ」と呼んでゐる事もある。前記せる如く之の地方では小屋裏を使用せないから之處が物置場所ともなり、又爐「ズ」から最も近い部屋、或は「クチヤ」の中に「ズ」を設けて産室に使用する様である。

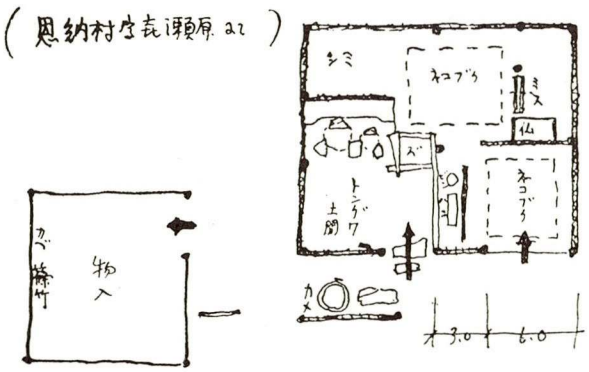


Fig. F

C・"並　列　型"

Fig, G は所謂並列型に屬するものであるが、之の型は別段本島に於て一型式をなしてゐるとは考へられず、中農以下の止むを得ざる平面構成であると思ふ。又並列型とは云へ1番座の裏に「クチヤ」を持つて居り、2番座の後部も「クチヤ」として仕切はないが「クチヤ」同様の態をなしてゐた。

之の型の家の斷面も矢張り Fig. D の如く「トングワ」と「ワラ」の2棟造りになり、

中樋を中央にして建つてゐる。外壁は板物より篠竹などを多く用ひてゐる。そして「トングワ」の土間には「ツルハ」と呼ぶ、3本の石を鼎立した第8圖と殆ど同形の火焚處を持つて居る。之の「ツルハ」は現在本島に於ては殆ど用ひられず、之の模型の如きものを火神として竈の後に作つてゐる位のものであるが、八重山島などでは尚盛に使用されてゐる樣である。

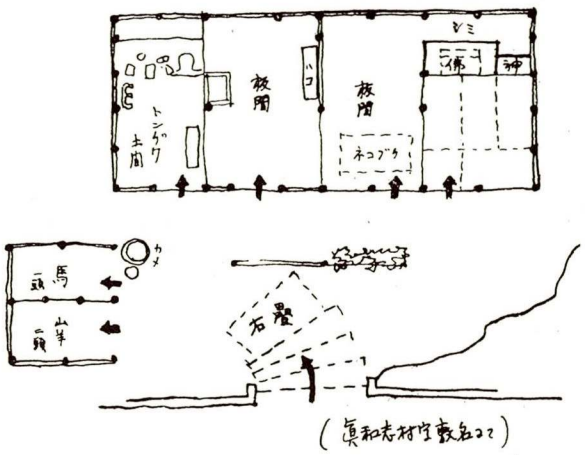


Fig. G

之の平面では「トングワ」と「ワラ」が殆ど同じ大さになつてゐるが、元來「トングワ」は「トヌグワ」又は「トノグワ」の事で「トノ」は殿であり「グワ」は之の地方では多く使はれる縮少語尾で、ラテン系の let に當るものであるから「トングワ」は小殿の意味である事は本島或はその他の諸島の實例からも知られるのである。故に私は之の型は本島に關する限り、平面は簡單であり技術的にも原始的な多くのものを持つてはゐるが、本島型の先行型態とは考へず、相對年代としては後期に屬する變質型であると考へてゐる。

D・“ナカエ住居”

Fig. F は本島中部でとつた“ナカエ住居”の一例であるが、之れは全島各所で見られ殊に貧家又は新しい開墾地などに多く、外壁は篠竹或は藁を用ひ、間仕切は殆どなく「クチヤ」は僅かに簀の如きものを以て仕切つてゐる。疊は1枚も用ひず猫伏を2枚使用してゐるのみで土間には第8圖の如き「ツルハ」と之れに並んで爐があり爐の上には自在「ガフ」がかかつてゐるのが寫眞に見られる。


第　八　圖

以上甚だ杜撰であり、且つ本島に於ける四ツ目型又は町家など書くべき多くのものがある樣であるが紙面の都合上一先づ筆を擱きたいと思ふ。

（平面型式の名稱は主として下記に依る、石原憲治氏「日本農民建築の研究」建築雜誌昭和7年8月號）

室内の日照と人口密度

ルードウイツヒ・ヒルベルサイマー
田中彌一譯

まへおき

轉近都市計畫並に建築計畫に屢々此の“日照の問題”が俎上にのぼり、同時に此の問題が各方面の識者を刺戟し、時を追つて益々組織的な研究と實驗とが行はれる様になつたのは誠に慶賀に耐えぬと思ふのである。今此處に紹介せんとする Ludwig Hilberseimer 氏による“室内の日照と人口密度”(Raumdurch sonnung und Siedlungsdichtigkeit) は日照問題が人口問題への解決の一データーとして論じられてあるもので此の點に相當暗示に富んだ資料を藏して居ると思ふが故に工學士田中彌一氏を煩し此處に譯出したのである。

尙ほ本論は同氏の論文“室内の日照”(Raumdurchsonnung; moderne Bauformen : Jan. 1935) の結論の様なものである故之れも參照されて併讀されれば興味深からんと思ふ。(龜井生)

本論文は室内日照と人口密度との相關について一應の究明を試みたものであるがこれを實際の問題にあてはめて考へる場合には吾々は色々な點を注意しなければならない。先づ衛生上必要な日照量を何處に押へるかの問題が非常に大きい。この値のとり方によつて許容人口密度の値が全く變つてくるのである。その他色々あるが何よりも根本的に考へなければならないのは都市と云ふものは社會的存在であつて、自然的存在物ではないと云ふ點である。その點本論文の研究推理の方法に疑問があるが兎もあれ日照と人口の問題について一つの暗示を與へてくれるであらう。(譯者)

今日まで都市計畫問題の焦點となつて來たのは土地の利用と云ふ點であつて、衛生上の見地から考慮が加へられた事は殆んどなかつた。低層建物は育兒上最も好都合とされて居たのであるが、大都市の建築としては不向であると云ふので抑壓されて來た様な事情の下にあつた。取締法規も衛生上の考慮を都市構築のなかに取入れるためには、尙未熟で力がなかつたのである。それ故現在の都市は衛生上の要件を全く無視した不衛生な過密狀態にあり、都市住居者の肉體的並に精神的衛生條件を改良せねばならない機運に立至つたのである。が然し此處で言ふ處の人口密度とは何であるか？或はそれは何に依存してゐるか？それを規定する基準は何か？吾々は先づこれらの點から明にして行かう。(此の點に就いて L. Hilberseimer 氏は“Moderne Bauformen”の 1935. 一月號 29頁[註] に“室内日照に就いて”と云ふ論文を發表し、日照と室の方位の關係について多くの資料をあげて論

註・都市公論、1935、5 月號 p. 99 參照

述して居るが、同氏は今これと同じ出發點に立つて日照と都市面積との關係を明かにせんとし、興味ある論文を提供してゐる譯である。）

人口密度とはヘクタール當り（1 ヘクタールは3,025 坪）の居住者の數であると定義することが出來る。故に一戸當り乃至一敷地當りの人口と敷地の大さと、建物の間隔とを假定することによつて人口密度を算出することが出來る。この三つのうち建物の間隔を決定する要素として家内日照が考へられるのであつてこれは逆に考へれば陰影の人口密度に對する影響と言へよう。陰影の種類及大さは緯度、季節及一日のうちの時間によつて様々であつて次の式によつて計算する事が出來るのである。

高　度　$\sin\alpha=\cos\delta\cdot\cos\varphi\cdot\cos\tau-\sin\delta\cdot\sin\varphi$ …… ……（1）

方位角　$\cos\beta=\dfrac{\sin\delta+\sin\alpha\cdot\sin\varphi}{\cos\alpha\cdot\cas\varphi}$ ……（2）

δ ： 偏　差

φ ； 緯　度

τ ： 時　角

建物の間隔を計算するために ε なる單位を考へる。この ε は高 1m の建物が向側にある場合に窓に立體壁に投影を生ぜざる限度の距離である、（3 圖參照）

ε の値は南向のものは（3）、45° の方向のものに對しては（4）、東西向のものは（5）、南向傾斜地のものは（6）、により計算し得るのである。

南　向　$\varepsilon=\dfrac{\ccs\beta}{\tan\alpha}$ ……（3）

45° の方向　$\varepsilon=\dfrac{\cos(45°-\beta)}{\tan\alpha}$ ……（4）

東西向　$\varepsilon=\dfrac{\sin\beta}{\tan\alpha}$ ……（5）

南向傾斜地　$\varepsilon=\dfrac{\cos\beta}{\tan\alpha+\tan\gamma\cdot\cos\beta}$ ……（6）

γ ＝ 傾斜角、

第一表は 2 月21日冬至に於ける各異なりたる緯度に於ける種々の値を示すもので、第二表は同じく南向傾斜地の場合である。

ε の値がわかると建物間の距離を計算することが出來る。次いで吾々は ε を用ふることに依つて敷地の所要の大いさを計算し更に人口密度を求めんとするのであるが、そのためには階數、居室面積及その收容人員を定めねばならない。一敷地當りの人口がわかれば $1\square m$ 當りの人口がわかることになる。これを 10,000 倍してヘクタール當りの人口密度を得る

のである。此れを式に表はせば

$$S = \frac{10{,}000 \cdot n \cdot x}{l(\varepsilon \cdot h + t)}$$

S：人口密度　　n；1住家當り居住人數
x：階數　　ε：Abstandseinheiten（第一表、第二表）
l：住家の間口　　t：住家の奥行
h：高（3圖參照）

緯度	時刻	α	β	ε 南	ε 45°	ε 東西
48°	9	8.0	40.9	5.41	7.14	4.69
	9^{30}	11.0	34.7	4.22	5.05	2.92
ウイン	10	13.6	28.2	3.63	3.94	1.94
ミュンヘン	10^{30}	15.7	21.4	3.30	3.25	1.29
パリー	11	17.3	14.4	3.11	2.76	0.80
	11^{30}	18.2	7.2	3.01	2.40	0.38
	12	18.6	0	2.98	2.11	0
51.5°	9	5.3	40.7	8.18	10.75	7.02
	9^{30}	8.1	34.3	5.77	6.87	3.94
ワルソー	10	10.6	27.8	4.73	5.10	2.54
ベルリン	10^{30}	12.5	21.1	4.21	4.13	1.62
ロンドン	11	13.5	14.2	3.92	3.47	0.99
	11^{30}	14.7	7.1	3.77	3.02	0.50
	12	15.1	0	3.72	2.64	0
55°	9	2.6	40.6	16.47	21.00	14.09
	9^{30}	5.2	34.1	9.00	10.69	6.10
モスコー	10	7.5	27.6	6.78	7.29	3.54
ケーニヒベルグ	10^{30}	9.2	20.8	5.76	5.62	2.19
フレンスベルグ	11	10.5	14.0	5.23	4.62	1.30
	11^{30}	11.3	7.0	4.97	3.95	0.61
	12	11.5	0	4.87	3.46	0

第1表　日射角とεの値（平面）

緯度	傾斜					
	0°	2°	4°	6°	8°	10°
	0%	3.5%	7.0%	10.5%	13.9%	17.4%
48	3.63	3.22	2.91	2.63	2.40	2.21
51.5	4.73	4.05	3.55	3.16	2.84	2.58
55.	6.78	5.48	4.60	3.96	3.47	3.09

第2表　南向傾斜地のεの値

この式によつて吾れ々々は日照時間と家の方位が與へられさへすれば人口密度を求める事が出來る。但し此れは屋根の傾斜が 1/ε 以下の場合であつて、1/ε よりも大なる時には高 h は棟高となつて建物の中央で計るから、

$$\text{人口密度}\quad S = \frac{10{,}000 \cdot n \cdot x}{l\,(\varepsilon \cdot h + t/2)}$$

となる。第4圖及表は實際の場合に於ける種々の値を示したものである。以上は平地の場合であつて南向傾斜地の場合は第8圖に示される様な結果になる。これらの表や圖を見ると人口密度と云ふものは色々な要素によつて影響を受けるものであると云ふことがわかる。この要素のうちの一部分は自然的條件で如何とも出來ないものであるが、他の部分は設計の仕方によつて變へることが出來る。第7圖に示すのは緯度と人口密度との關係であつて、パリーに適當して居る計畫をそのまゝモスコーには移せない事情も簡單に理解出來るであらう。又北向、南向によつて最大限人口密度も變つて來ることもあわせて理解して欲しい。

緯度の他に地形も亦外部的に與へられた條件と見ることが出來る。此の條件は土地が平地か、傾斜地かによつて違つて來るもので、第8圖及表は南向傾斜地の場合である。これは南側に傾斜してゐる場合を示したのでこのときは階數も多くとれて許容人口密度は非常に增大するが、反對に北側に傾斜してゐるときは減少する。

設計に依存する要素のうち一番重大なのは家の方位である。方位の許容人口密度に對する關係は 4, 5, 6 表により知られる。又此れらの表から日照時間及階數の許容人口密度に對する關係も同時に理解出來るが、一般的に概括的に言つて日照時間を減じ階數を增すことによつて許容人口密度を增加することが出來る。

東西向のものは、南向のものと大いに異り12月21日に4時間の日照を得ることは殆んどなく、又これを3時間にして考へて見ても南向のものや45° の方向のものよりもその許容人口密度は、はるかに少ない。緯度が高くなるにつれて許容人口密度は益々小となり例へば北緯 48° のパリーに於ては日照時間を3時間とすると一階建に於て密度は 329、20階に於て 433、となるに對し、同じく北緯55° のモスコーでは一階建で 161、20階にして 148 となつて階數を增すと許容人口密度は却つて減少すると云ふことになる。

圖表を通見すると階數が增えると初めは許容人口密度も著しく增へるのであるが、段々階數が增して行くと密度の增加の割合が遞減することがわかる。遂には階數を增しても密度は增加しない様になる。即ち建物の高が非常に高くなると人口密度は建物の高に無關係となる。

次に密度に影響する要素として擧げられるのは敷地の形狀即ち間口と奥行との關係であ

る。同じ敷地面積でも間口、奥行の關係で土地の利用狀態が良くも悪くもなるものである。

北緯48°のパリーで間口 125m 奥行 84m (105□m) 南向の敷地で階高 2·9m 階數4の建物を建てるとして日照必要時間を4時間 (12月21日に於て) とすれば4表に依つてその許容人口密度は 409 人/ヘクタール となる。面積は同じでも間口と奥行との關係を變へて間口を 10m 奥行を 10.5m とすると許容人口密度は

$$S = \frac{10.000 \times 6 \times 4}{10\ (3.63 \times 10.0 + 10.5)} = 490$$

になつて 81人增えることになる。

尙この際 ε の値と奥行とが一致すれば密度は階數に無關係に一定であることに注意して欲しい。

例へば北緯55° (モスコー)に於て、12m×9m の家で收容人口 6、一階建、高 3m、ε を 9 とすると、

$$S = \frac{10.000 \times 6 \times 1}{12\ (9 \times 2 + 9)} = 185$$

同じ條件で10階建とすると

$$S = \frac{10.000 \times 6 \times 10}{12\ (9 \times 29 + 9)} = 185$$

ε の値が奥行よりも小さいと階數が增すにつれて密度は增加し、反對に ε の値が奥行よりも大きいと、階數が增すにつれて密度は却つて減少する。

第12圖は階高と密度との關係をあらはすもので、階高を低下して、階數を增せば密度も亦從つて增加するのは自明である。屋根の形狀と密度との關係に就いては 9 圖を參照せられたい。同圖に就いて見ると陸屋根のときは登り屋根の倍になり、しかも影の生ずる關係は同じである。

偖て人口密度に於て衞生的要件を滿足させるためには人口密度が依據する要件を滿足させねばならない。今此の衞生的要件を檢討する前に都市構築に於ける人口密度の基準を概觀するために人口密度の高いベルリンについてその現狀を調べて見るならば、ベルリン都市年鑑によるとベルリンの面積は 88,348 ヘクタール、人口 4,024.165である。即ち 1 ヘクタール當り 45.8 人である。建築地(一庭園、街路、廣場を含ます一) 1 ヘクタール當りにすると 300.8 人となつて居る。密度の一番高いのはプレンツラウエルベルク區で建築地 1 ヘクタール當り 948.6 一番低いのは同じく 57.9 人のツエーレンドルフ區である。

第10圖は 1 ヘクタール當りの人口を、舊市は區別毎に、新市は地方別に示したものである。第11圖は同じく建算面積に對する人口密度である。一都市の中でもその人口密度の相

異の著しいのに驚かされる。此れを更に大住宅、中住宅、小住宅の類別に分類すると人口密度の高い都心部に於て多數の小住宅を發見するのである。

小住宅、　居室4室以下　　82%　（居室には居間、臺所、寢室を算入せず）

中住宅、　5 ～ 6　　12.7%

大住宅、　7 以上　　5.3%

居住者數について考へると一室當りの居住者は室面積の小さい程反對に增大して居る。

26.6%　（ベルリン全人口中）は2室以下の家に住む

36.6%　（　　〃　　）は3室以下の家に住む

7.7%　（　　〃　　）は7室以上の家に住む

過密住家を調べて見ると、戸數にして大住宅は0.01%、中住宅は0.13%にすぎないが、小住宅は6%が過密住家で、ベルリンの總人口の12%に當つて居る。此處に過密住家とは居住者を室數で割つたものが2以上のもの、即ち1室2人以上の居住者のあるものを指すので、前述の過密住家のうち多數のものは高度の過密狀態にあることを注意しなければならない。

第5表に依つて見ると南向家屋が12月21日に4時間の日照を得るためには人口密度を

1　階建なれば　　277 人/ヘクタール

3　階建なれば　　322　　〃

にとればよいことになる。然るにベルリンの平均密度は 300.8 人/ヘクタール であるから現在のベルリンの儘で都市面積を廣げたり、交通輸送を增設したりすることなしに、すべての住家に4時間の日照を可能ならしめ、しかも住家の最小限の大さを居間1室、寢室3室、臺所1室、浴室1室の廣さにまで高めることが出來る譯である。

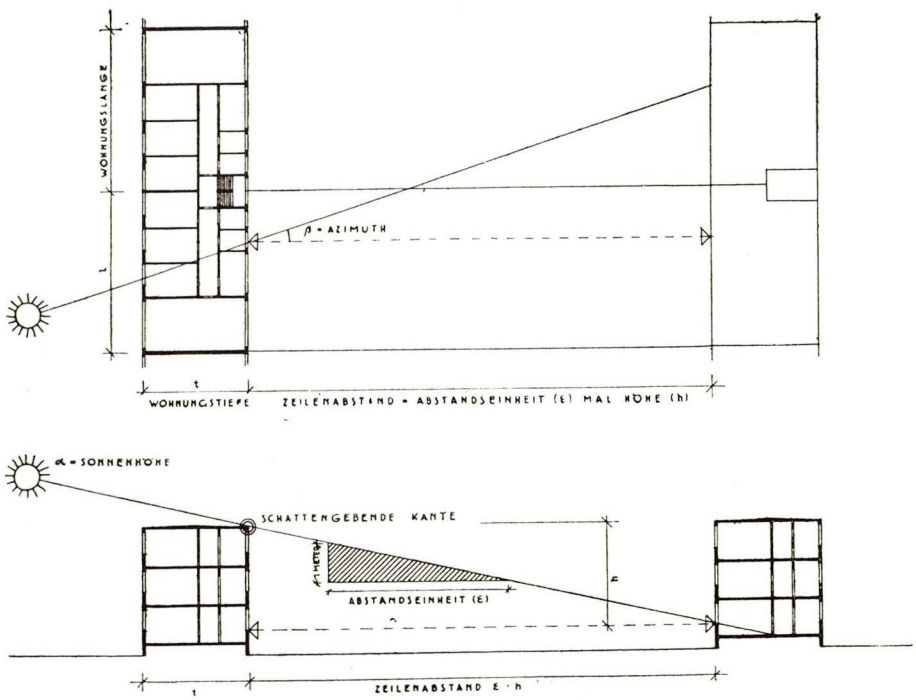
ベルリンの建物の高層化、即ち一般に貸家の高層化はその根底を19世紀に於ける都市の狹隘とそれによつて生ずる土地の高度の利用と云ふ點によるのである。然し現在はベルリンもパリーと共にロンドンのやうな低層建築を建築することによつて解放的都市の建設の機運に立至つてゐるのである。高層過密狀態を是正するには、若し高層建築を許すとすれば建物の間隔を增大する以外には道がない。

建築法規の作用は消極的であつて最惡のものを抑壓するにすぎず、地域制の如きも住宅狀態を何等向上せしむるものでない。むしろ此れは土地の利用の高度化の線に沿ふものである。現在すでに過密狀態にあるものを土地利用の高度化を計つて一層はげしくするのは不合理と云はねばならない。法規は現實に個々の敷地に作用して敷地分割の情勢を助長し小區劃を集合して大敷地を形成せんとする傾向にある社會的現狀に逆行してゐるのである

現在の不完全な地域制度にかゝはらず、すべての住家の衞生條件を向上せしめる途を確

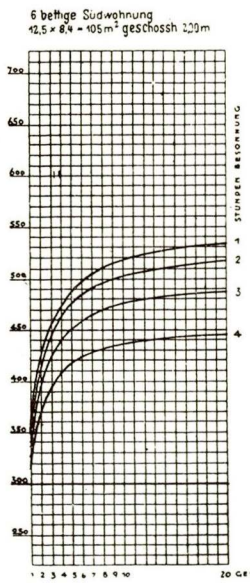
立しなければならない。然るに日照は衛生條件中の主要な要件であるから、住家の衛生條件を確立する最短路は日照を充分ならしめ、特に冬期に於ける日光の利用を高めるにあると云へよう。その爲めには人口密度の最高限を限定することが最も賢明な方法ではなからうか。同時に一人當りの住室の最低限を規定する事が必要になつて來る。以上の如く衛生條件を取入れる事によつて從來の土地利用の高度化も、より進歩した、深い意味に於て達せられることになり、從つて高層建築と低層建築との優劣の問題も一般的な結論を下し得ない譯である。何故かと云ふと日照時間の長短こそ衛生條件を決定するのであつて、建物の樣式などは場合によつて高層の方がよい場合もあれば、低層の方がよい場合もあるからである。こゝで結論された結果を現在のベルリンの狀態と比較して見たのであるが、吾々の主張する衛生條件を具備した都市たらしめるのに市域の擴張(密度を低下させるために)をしたり交通機關の增設をしたりしないですむと云ふ結果を得るのである。

將來の人口密度の狀態を考察するためには衛生條件の他に經濟の問題を忘れてはならないのであるが、兎もあれこの衛生條件と云ふことが、一基標をなすことは疑のない所である。

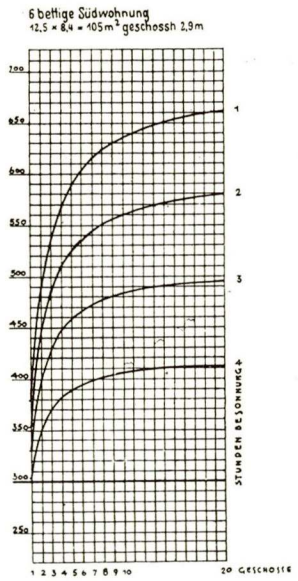


第 3 圖　人口密度に影響する要素を圖示せるもの

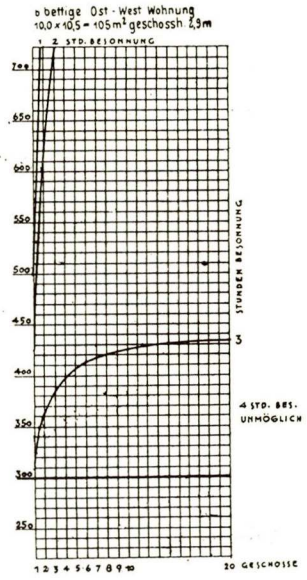
南　向



45° の方向



東西向



	時間	日照 X	時間	日照 S	日間	日照 X	日時	日照 S
南向	1	314	1	327	1	336	1	340
南側居間	2	372	2	396	2	412	2	421
12,5×8,4=105□m	3	396	3	426	3	445	3	457
	4	409	4	442	4	464	4	476
	5	418	5	452	5	476	5	489
	10	437	10	476	10	502	10	519
	20	446	20	487	20	517	20	533
45° の方向	1	302	1	329	1	352	1	378
南側居間	2	352	2	400	2	444	2	482
12,5×8,4=105□m	3	372	3	431	3	486	3	536
	4	3·3	4	448	4	509	4	567
	5	390	5	459	5	525	5	589
	10	405	10	483	10	560	10	635
	20	412	20	496	20	579	20	661
東西向	1	—	1	329	1	424	1	498
東西居間	2	—	2	365	2	606	2	836
10,0×10,5=105□m	3	—	3	386	3	708	3	1081
	4	—	4	399	4	774	4	1265
	5	—	5	407	5	818	5	1409
	10	—	10	424	10	928	10	1825
	20	—	20	433	20	992	20	2138

階高　2.9m,　　窓下　1 m

X ＝ 階數、　　S ＝ 許容人口密度

日照時間は12月21日の場合をとる

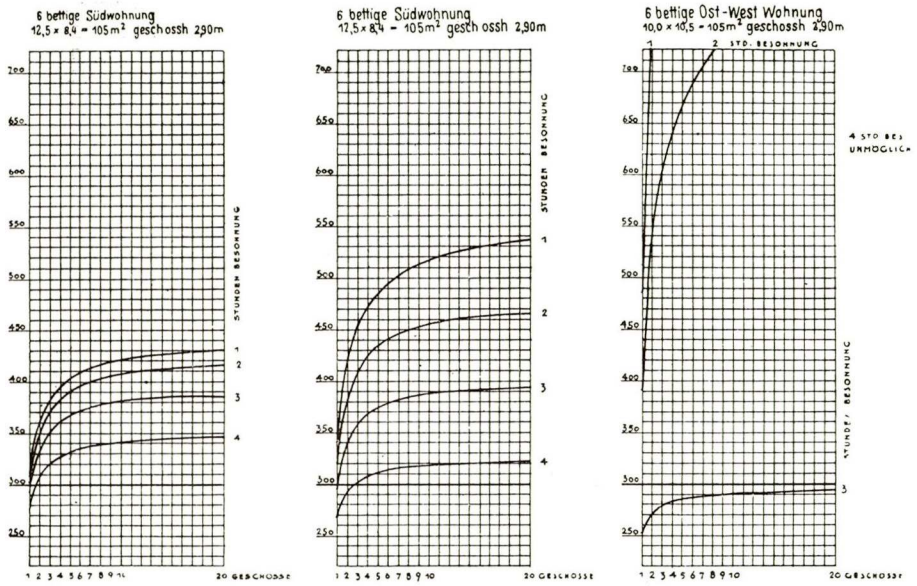
1　南　　向

2　45° の　向

3　東　西　向

第4圖及表　緯度48°(約ウイーン、ミユンヘン、パリに當る)に於ける許容人口密度

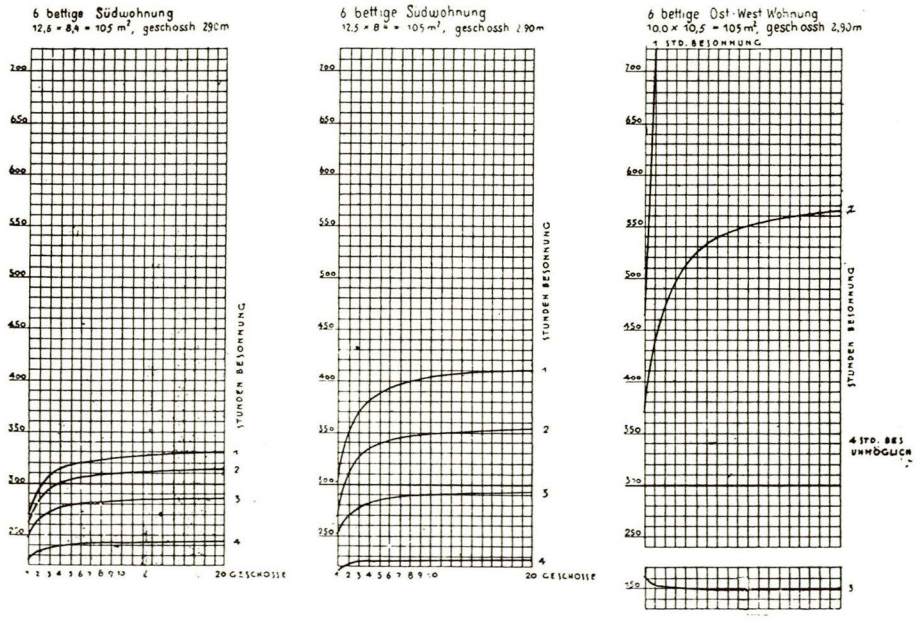
南　向　　45° の方向　　東西向



	時間日照 X	S	時間日照 X	S	時間日照 X	S	時間日照 X	S
南　向 南側居間 12,5×8,4=105□m	1	277	1	293	1	303	1	309
	2	309	2	336	2	353	2	362
	3	322	3	352	3	374	3	384
	4	328	4	362	4	384	4	397
	5	332	5	368	5	391	5	404
	10	341	10	381	10	407	10	422
	20	346	20	386	20	415	20	430
45° の方向 南側居間 12,5×8,4=105□m	1	268	1	296	1	320	1	340
	2	292	2	340	2	383	2	419
	3	302	3	358	3	410	3	457
	4	308	4	368	4	425	4	476
	5	311	5	375	5	435	5	489
	10	318	10	387	10	455	10	516
	20	321	20	393	20	466	20	537
東西向 東西居間 10,0×10,5=105□m	1	—	1	252	1	391	1	485
	2	—	2	272	2	533	2	788
	3	—	3	279	3	600	3	994
	4	—	4	283	4	642	4	1143
	5	—	5	285	5	670	5	1258
	10	—	10	290	10	735	10	1570
	20	—	20	293	20	773	20	1795

第5圖及表　緯度 51.5°（約ワルソー、ベルリン、ロンドンに當る）に於ける許容人口密度。　條件は 4 と同じ

南　向　　45° の方向　　東西向

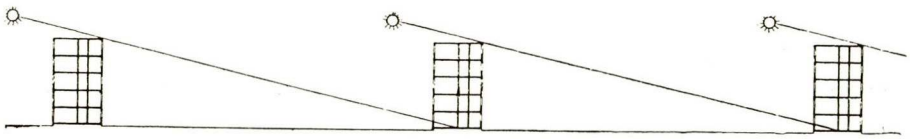


	時間日照 X	S	時間日照 X	S	時間日照 X	S	時間日照 X	S
南向	1	225	1	248	1	262	1	269
南側居間	2	235	2	266	2	287	2	298
12,5×8,4=105□m	3	238	3	273	3	296	3	308
	4	239	4	277	4	301	4	315
	5	240	5	279	5	304	5	318
	10	242	10	283	10	310	10	325
	20	243	20	285	20	313	20	329
45° の方向	1	216	1	252	1	269	1	302
南向居間	2	222	2	271	2	314	2	351
12,5×8,4=105□m	3	223	3	279	3	327	3	371
	4	224	4	282	4	335	4	382
	5	225	5	285	5	339	5	389
	10	226	10	290	10	349	10	404
	20	227	20	292	20	353	20	411
東西向	1	—	1	161	1	370	1	463
東西居間	2	—	2	153	2	437	2	717
10,0×10.5=105□m	3	—	3	151	3	477	3	879
	4	—	4	750	4	497	4	989
	5	—	5	150	5	514	5	1077
	10	—	10	148	10	548	10	1280
	20	—	20	148	20	566	20	1419

第6圖及表　緯度55°（約モスコー、ケーニヒスベルグ、フレンスブルグに當る）に於ける許容人口密度。　條件は4と同じ

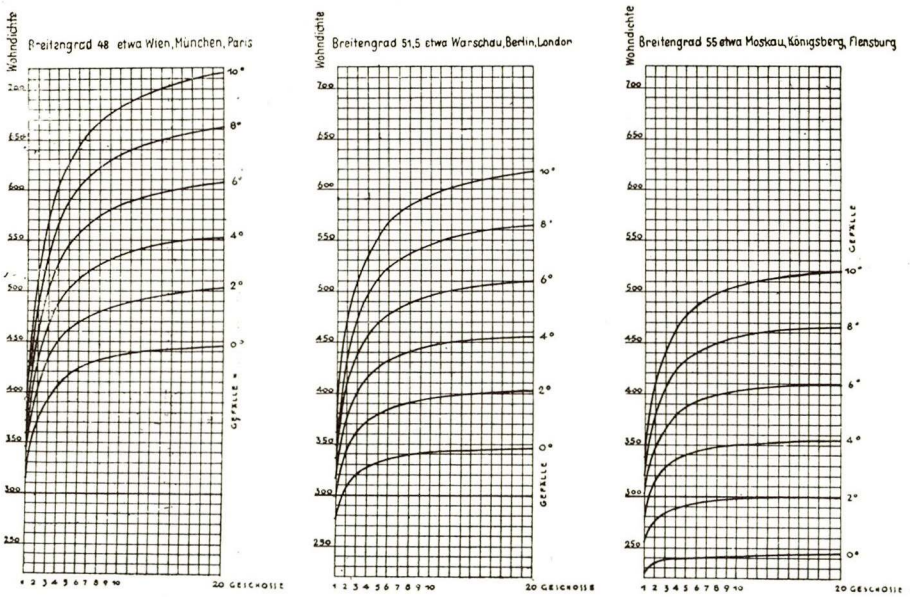


緯度 55° (モスコー)



緯度 45° (パリー)

第7圖　許容人口密度に對する太陽高度の影響

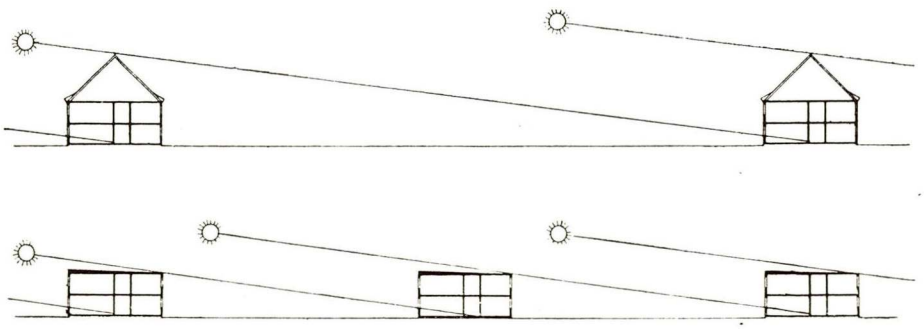


緯度 48°	0° 傾斜角		2° 傾斜角		4° 傾斜角		6° 傾斜角		8° 傾斜角		10° 傾斜角	
(約ウイーン、ミュンヘン、パリーに當る)	X	S	X	S	X	S	X	S	X	S	X	S
	1	314	1	331	1	345	1	358	1	371	1	381
	2	372	2	403	2	430	2	457	2	482	2	505
	3	396	3	434	3	468	3	503	3	536	3	567
	4	409	4	452	4	489	4	529	4	567	4	603
	5	418	5	463	5	504	5	546	5	589	5	627
	10	437	10	487	10	534	10	585	10	635	10	684
	20	446	20	502	20	552	20	606	20	661	20	716

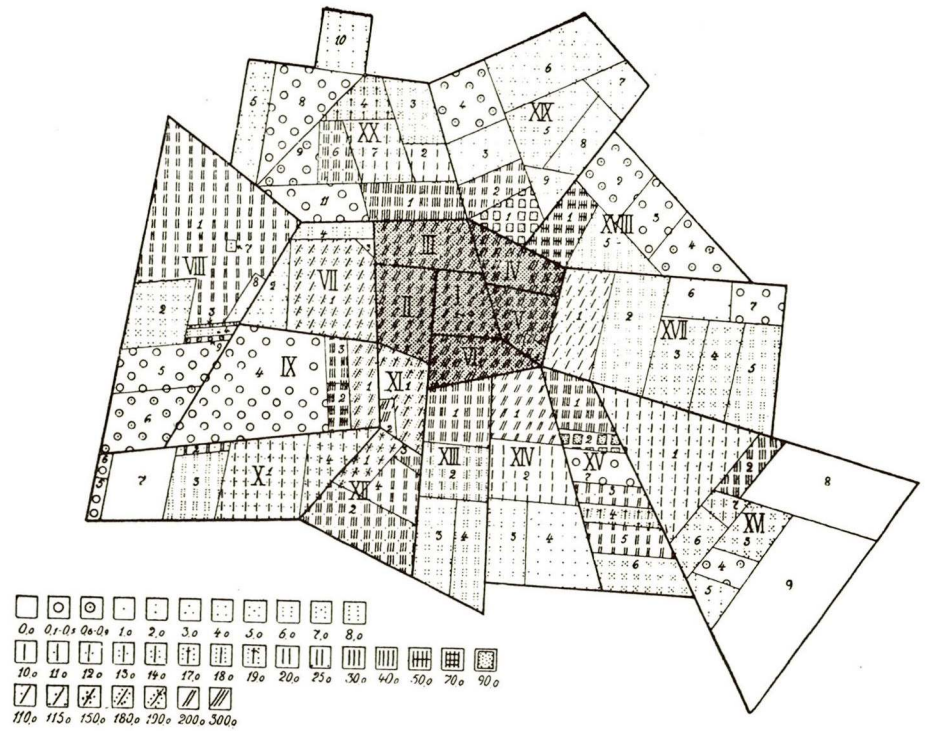
緯度 51.5°	1	277	1	298	1	317	1	334	1	348	1	361
(約ワルソー、ベルリ	2	309	2	345	2	378	2	407	2	435	2	461
ン、ロンドンに當る)	3	322	3	464	3	403	3	440	3	476	3	510
	4	328	4	374	4	418	4	460	4	499	4	537
	5	332	5	380	5	427	5	470	5	515	5	555
	10	341	10	394	10	446	10	496	10	546	10	595
	20	346	20	402	20	455	20	510	20	564	20	618
緯度 55°	1	225	1	256	1	280	1	302	1	320	1	336
(約モスコー、ケーニ	2	235	2	277	2	315	2	350	2	383	2	413
ヒスベルク、フレン	3	238	3	285	3	329	3	370	3	410	3	447
スベルクに當る)	4	239	4	289	4	336	4	381	4	425	4	466
	5	240	5	291	5	340	5	388	5	435	5	479
	10	242	10	297	10	350	10	403	10	455	10	506
	20	243	20	299	20	355	20	410	20	466	20	520

室の大さ 12.5 × 8.4 = 105□m 階高 2.9m
窓 下 1m
X = 階數 S = 許容人口密度
日照時間は12月21日に於て4時間

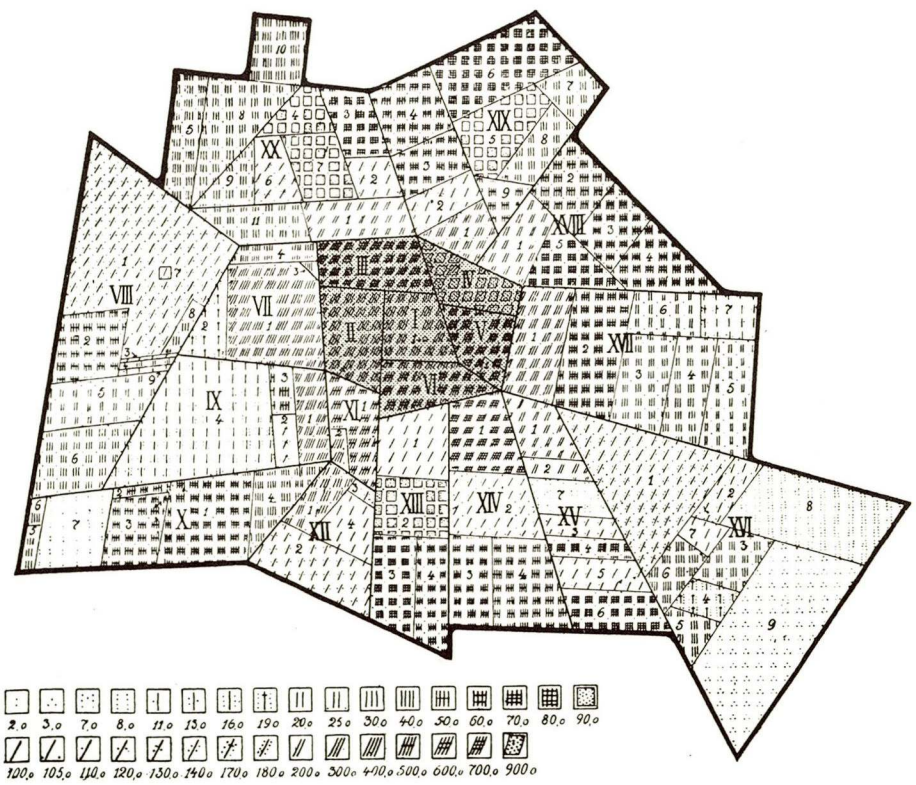
第8圖及表 南向傾斜地の場合の許容人口密度



第9圖 屋根の形狀の許容人口密度に對する影響



第10圖　1925年に於けるベルリン人口の全面積に對する割合（各行政區別による）



第11圖　1925年に於けるベルリン人口の建築面積に對する割合（各行政區別による）

Geschosse	Wohndichte	Zeilenabstand
1	253	8,0
2	329	20,8
3	343	33,6
4	350	46,3
5	355	59,1
6	358	71,8
7	360	84,6
8	362	97,4
9	364	110,1
10	365	122,9
20	372	250,5

Geschosshöhe 2,7

Geschosse	Wohndichte	Zeilenabstand
1	277	9,0
2	309	22,7
3	322	36,4
4	328	50,1
5	332	63,8
6	335	77,5
7	338	91,2
8	339	104,9
9	340	118,6
10	341	132,4
20	346	269,4

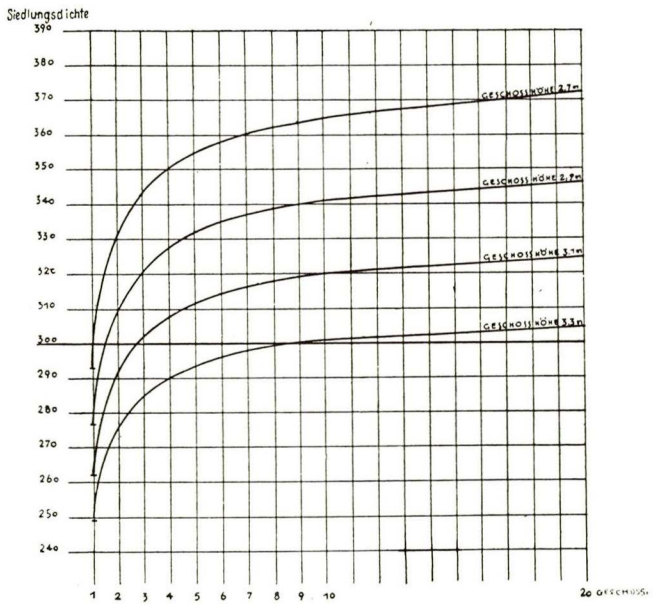
Geschosshöhe 2,9

Geschosse	Wohndichte	Zeilenabstand
1	262	9,9
2	292	24,6
3	303	39,2
4	308	53,9
5	312	68,5
6	314	83,2
7	316	97,8
8	318	112,5
9	319	127,1
10	320	141,8
20	324	274,3

Geschosshöhe 3,1

Geschosse	Wohndichte	Zeilenabstand
1	249	10,9
2	277	26,5
3	285	42,1
4	290	57,7
5	294	73,3
6	296	88,9
7	298	104,5
8	299	120,1
9	300	153,7
10	301	151,3
20	304	307,3

Geschosshöhe 3,3



條件は 4 と同じ。階高が高くなれば許容人口密度は減少する、
縦軸は人口密度、横軸は階數。

第12圖及表　階高の許容人口密度に對する影響

昭和11年2月21日大阪府下震災調査報告

災害强度委員會

序

昭和11年2月21日午前10時8分5秒9發震時、
初期微動繼續時間　3秒
最大震幅　水平 20mm、上下 7mm
總震動時間　10分
震源地大阪を去る南東20粁　　大阪測候所發表
第二回餘震最大
發震時午前—11時10分
初期微動繼續時間　3秒
總震動時間　4分30秒
最大震幅　水平 0.3mm　　〃　〃

以上の如き地震動は城崎奥丹後の震災以來此の數年間忘れられて居た。大阪市民にとつては不計意外の激動を與へた。

震動の身體に感じた經路は相當大なる地鳴と共に上下動を傳へ、爾後水平動を數分繼續した。

地鳴は遠雷の耳朶を打つ如く始め低音より數秒を出ず最高潮に達し、同時に其頂點の附近に於て 34 回、間渦的斷續性の上下動を餘韻なき低音と共に傳達し、其半ば以後に於て水平動を生じ、上下動に遲るゝ事數秒或は數分の後に最高震動を數回繰返し、然る後徐々に減衰せる如く感ぜられた。襲來より減衰に到る最强動の時間は、相當長時間に渉る如く感ぜられたるも、事實は23分を出でざるものと思はれる。然も其最高震動時は僅々數秒乃至拾數秒であらうと推定せらる。

當時の天氣、概況は西北の微風にして密雲に掩はれ、霧塵低迷し、僅かに東南の雲の間隙より陽光が條線をなして照射してをつた。氣溫 6°C 內外、氣壓の低い陰慘な曇天であつた。

本委員會としては調査が緊急を要するを以つて、翌22日午後委員長と共に一行3人を以つて取敢へす震源地附近の調査を敢行した。

時間の關係上、震央と見做される二上山の周圍に就き充分なる調査は不可能であつたが富田林、新堂村、磯長村、飛鳥、駒ケ谷、古市、道明寺、柏原の順序を以つて大略の調査をなした。

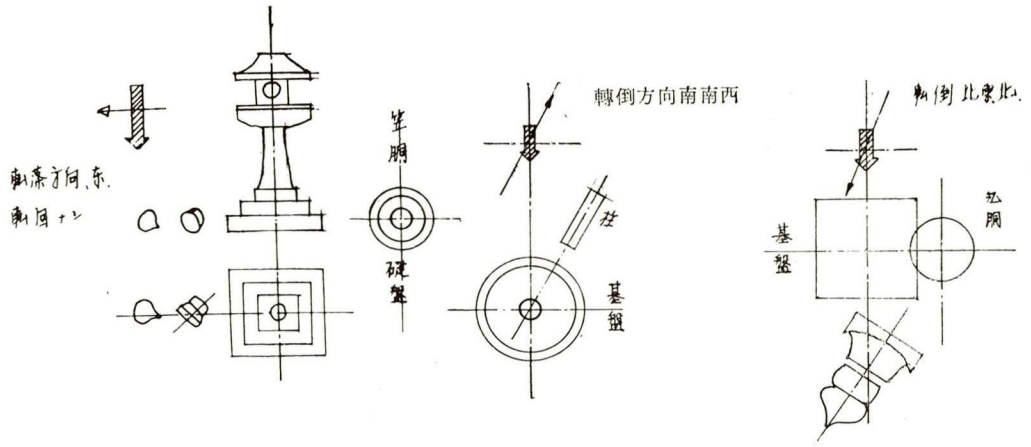
調 査 報 告

1 富 田 林

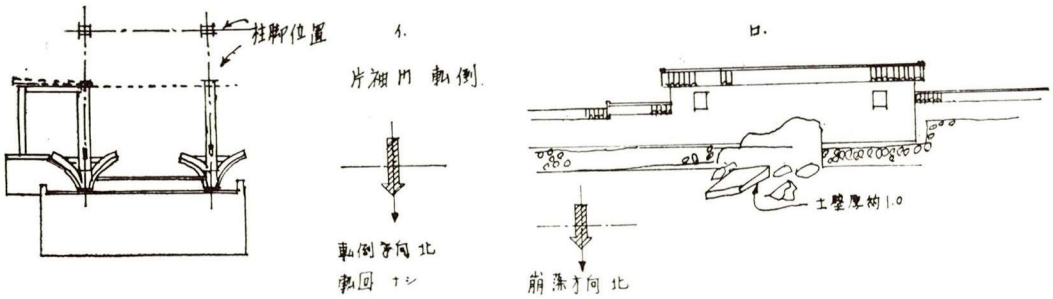
建物無被害、土塀棟瓦一部破損

A 淨 谷 寺

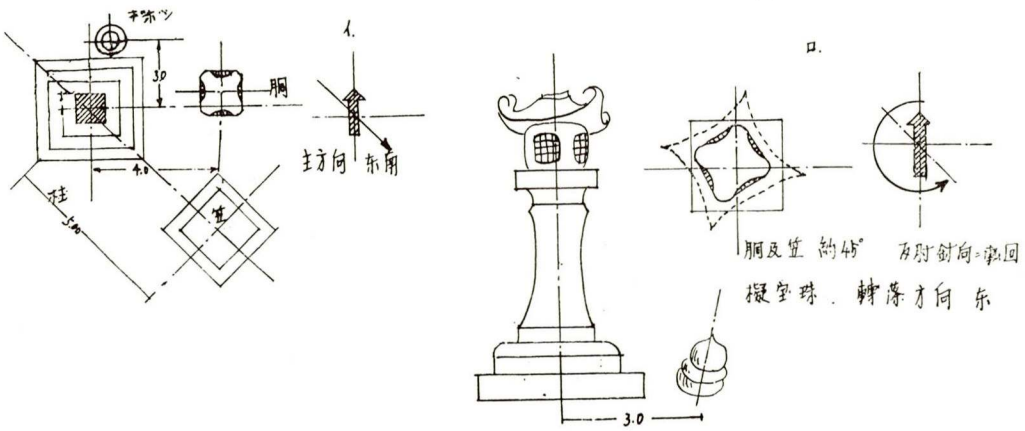
イ、 石燈擬寶珠轉落 1 個
ロ、 同 轉倒 1 個
ハ、 墓 石 轉倒 2 個



B 西 方 寺 本堂無被害、 イ、 寺門倒壞 ロ、 土塀崩落

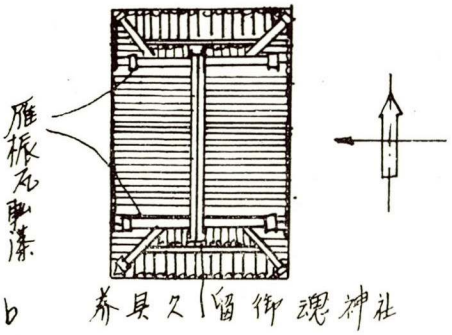


C 興 正 寺 建物無被害、土塀棟瓦一部破損 イ、 石燈轉倒 1
ロ、 同 擬寶珠轉落 1

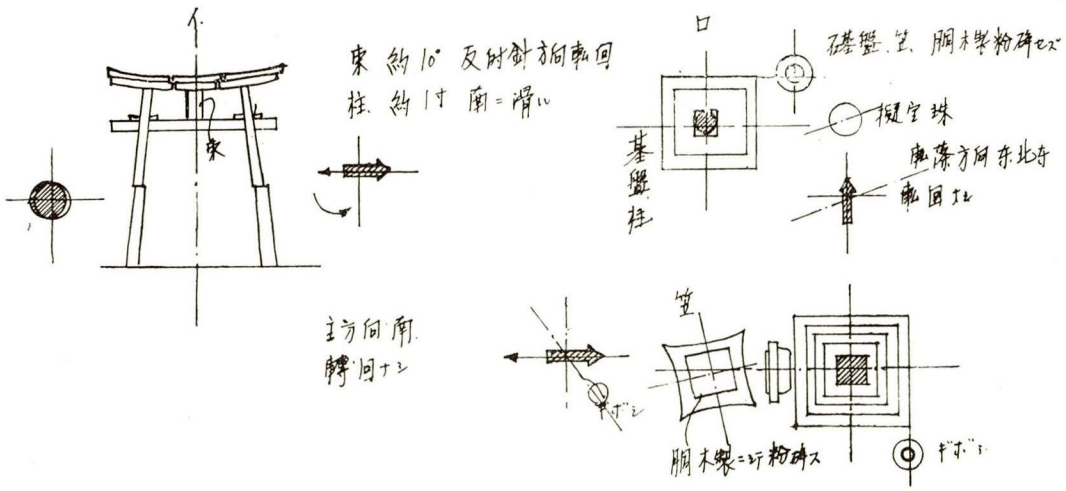


2 新 堂 村

A 中野 西德寺　　本堂・西面下り棟雁振瓦のみ崩落



イ、 鳥居、滑り出し　　1
ロ、 石 燈 轉 落　　2



3 磯長村 太 子

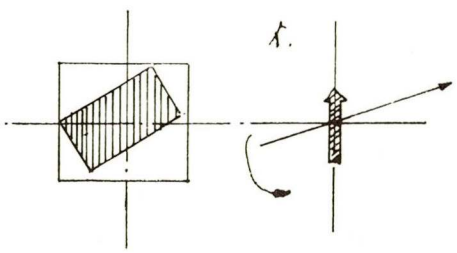
A 民　　家　　イ、 屋根瓦轉落　　ロ、 土塀崩落

イ、瓦は裏板に對し、最上列と最下列のみ釘止とし他は止めてなき爲、中央部の土留の部轉落せるもの多し。

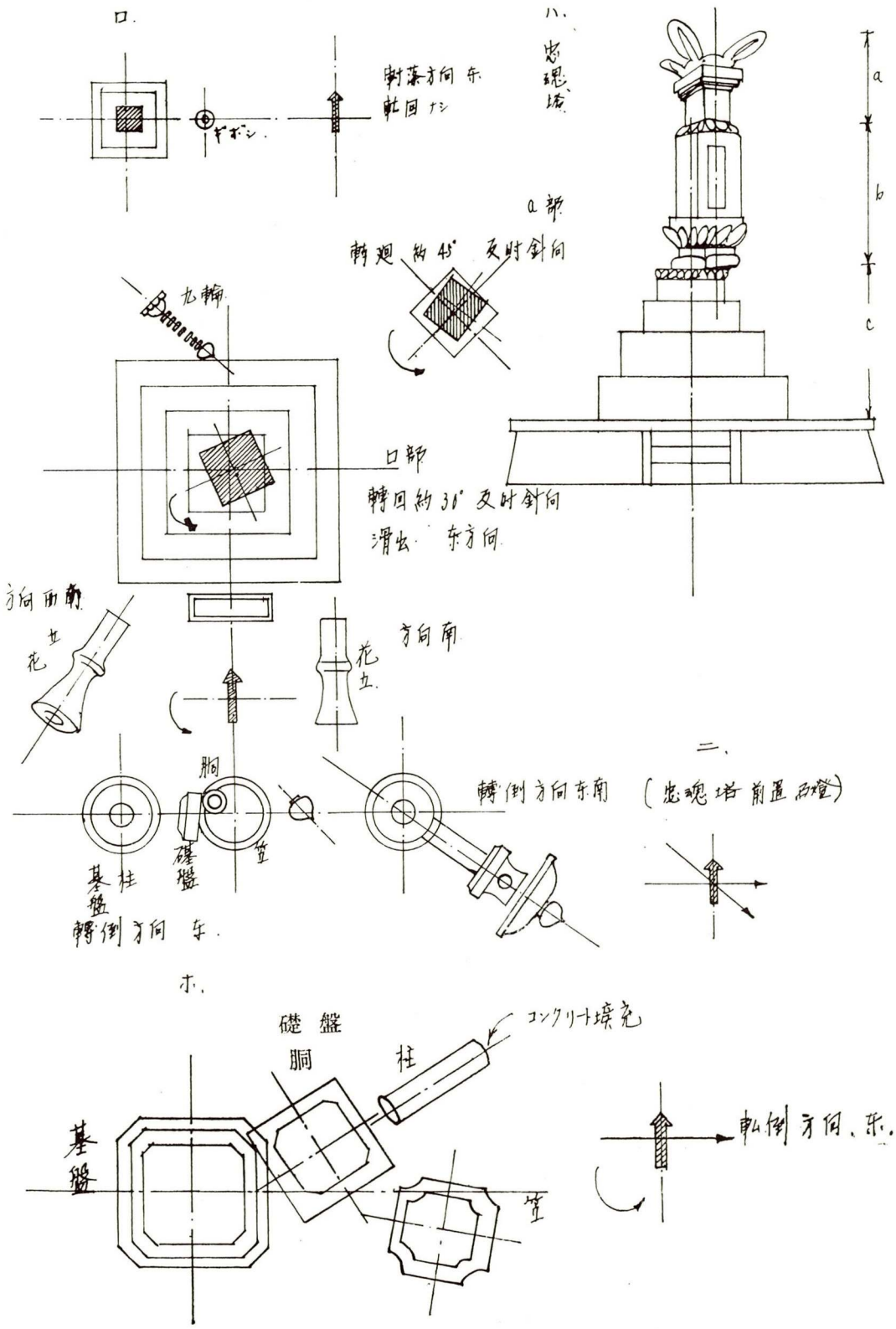
ロ、土塀は東西方向に直角のもの大部分崩落し、他の方向のものは龜裂を生ず。

B 太 子　陵、建物無被室、(倉庫出入に屋根壞滅)　(土塀一部破損)

イ、 石碑の廻轉　　1
ロ、 石燈擬寶珠轉落　　多數
ハ、 石燈軸部廻轉、頭部轉落　　多數
ニ、 石燈倒壞　　多數
ホ、 青銅燈籠倒壞　　1

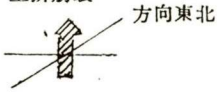


東北東約20°反時針向轉回

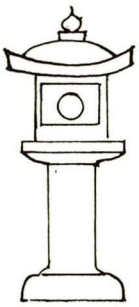

ロ.
軸藻方向 东
軌回 ナシ
ギボシ.
八.
忠魂塔.
a
b
c
a 部
轉廻 約 45° 反时針向
九輪
口部
轉回約 31° 反时針向
滑出 东方向
方向南
花立
方向南
花立
二.
胴
礎盤
笠
基柱
基盤
轉倒方向东
轉倒方向东南
(忠魂塔 前置西燈)
ホ.
礎盤
胴
柱
コンクリート填充
基盤
笠
軋倒方向、东.

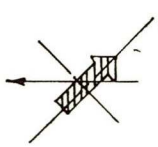
4 駒ケ谷村

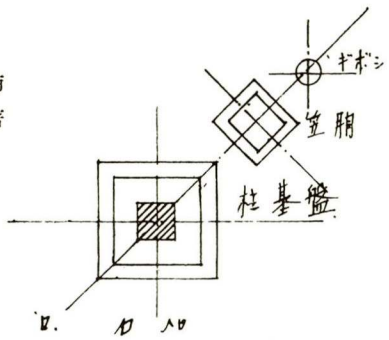
A 民家、　壁の孕みしもの多し　土塀崩壊

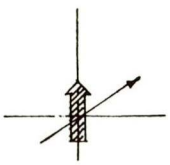


B 杜木神社　イ、石燈移動
ロ、石燈倒壊

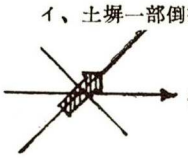








C 西方寺　建物無被害　イ、土塀一部倒壊及破壊

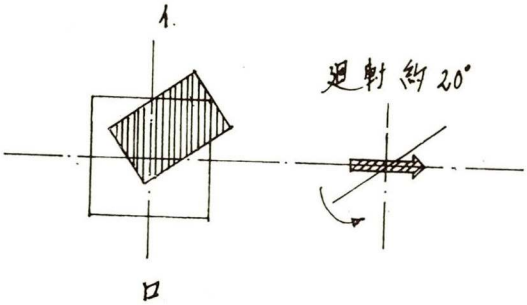


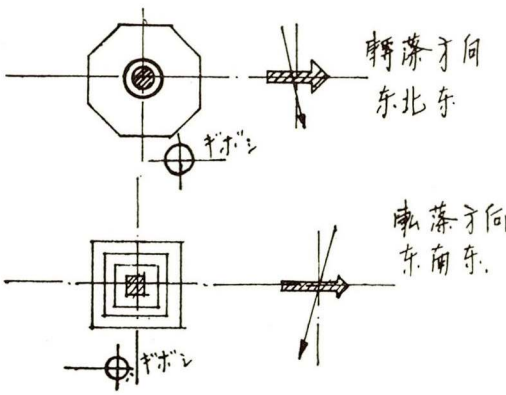
D 願永寺
本堂被害を認めず　イ、庫裏倒壊　頗る古き建物にして構法も簡單にして腐朽の跡著し

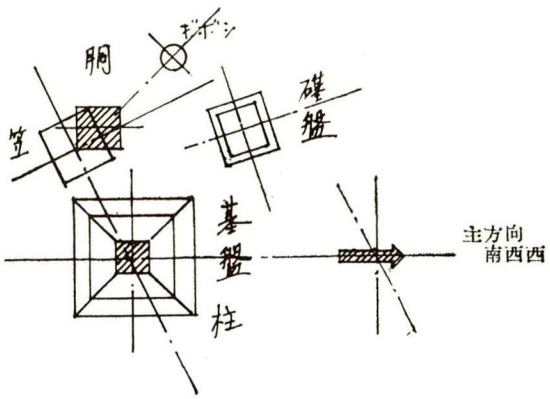
5 古市

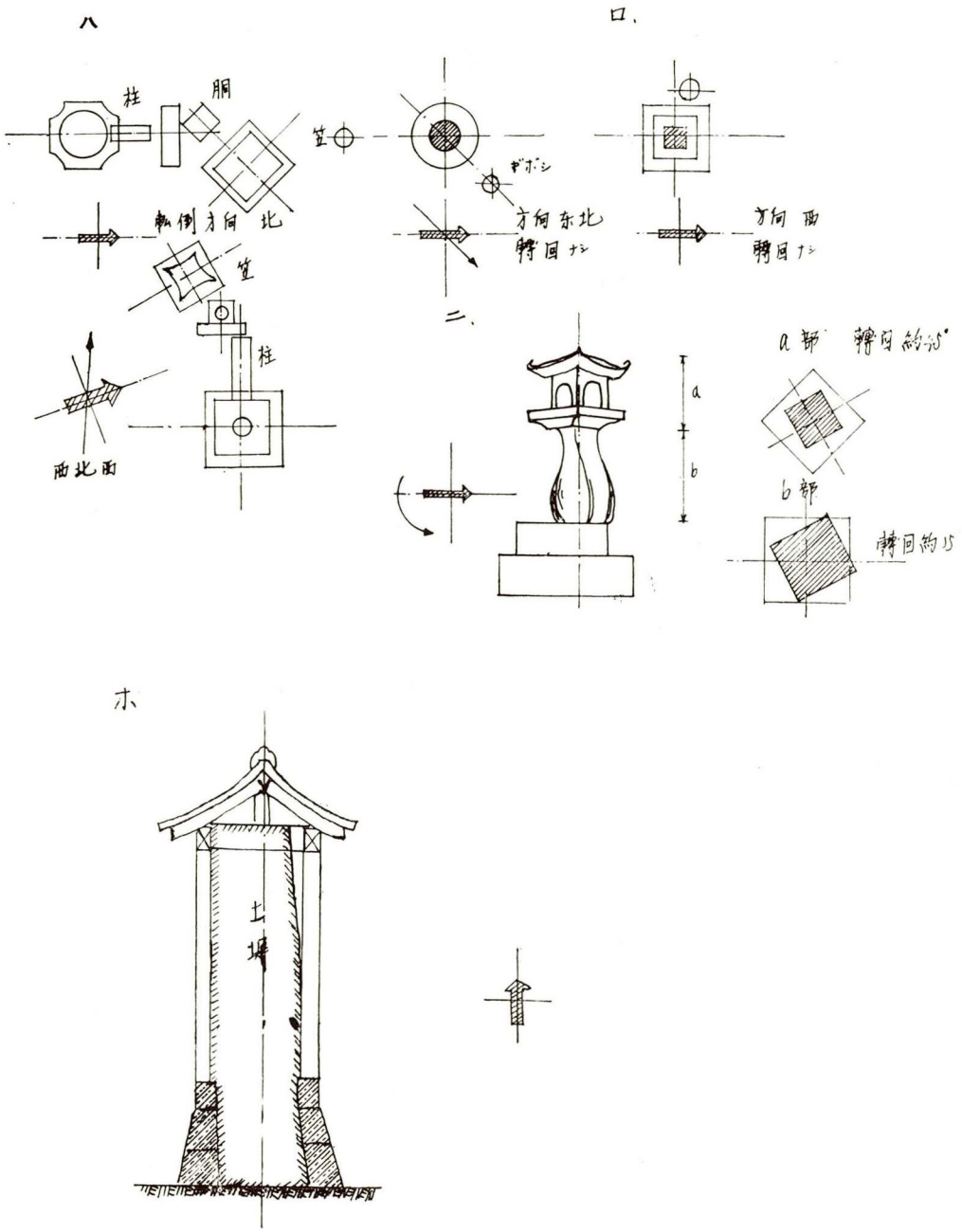
A 譽田八幡　建物無被害

イ、石碑廻轉
ロ、石燈擬寶珠轉落
ハ、同　倒壊
ニ、同　轉回
ホ、土塀の龜裂、破損









6 道 明 寺 町

被害殆んど見當らず、水、其他の液體の動搖氾濫あり。

A 道 明 寺　　建物其他無被害

7 柏 原 町　　同 上

上2ケ町は薄暮迫れるを以て調査を略す。

結

本調査は短時間の內に成せるを以つて、奈良方面、和歌山方面並に大阪市內の調査に間に合はず、此點誠に遺憾なるも是等の方面に就きては聽合せ其他の研究報告に俟ち取合へず調査範圍內に於て得たる結果を茲に報告す。抑々此度の地震に於て震幅相當大（20mm）なりしに關らず家屋の倒壞せるもの頗る少なく、且石燈、墓碑の如きものゝ轉倒も著しからず、擬寶珠の轉落、又は軸の回轉に止まり、轉倒せるものに付きては其位置の移動を認めず、轉回せるものに多少の移行を認めるのみである。

建物に付いても、農家の頗る粗雜なるもの及社寺の頗る腐朽せるものに於ても猶且つ殘存し、被害の程度も又頗る少なく、餘程條件の悪きもの、例へば、地盤の脆弱、構法の不備、腐朽の程度大、震力に對する方向の最惡なる、震動周期の一致、等の諸條件の殆んど大部を具有せる如きものゝみが崩壞せる樣である。今次の調査に於て石燈、墓碑の如きものにつき主として研究せるは、家屋に付き材料を採る事の頗る少なく其經濟的損失に於ても又些少なるを思はせる結果に外ならない。土塀の如きは藁すさを土にて粘合せて盛上げしものなれば、僅少の橫力にても龜裂、破壞するは當然である。

農家に於ても、同上の材料を荒き竹小舞に3寸厚位に塗付け、然も土臺のなきもの多き狀態なれば、是等の壁の龜裂、崩落は又當然であらう、民家の瓦葺屋根に於ては裏板の上に土を置き、土居葺を用ひず棟と軒先の一列のみ釘止めとし、瓦は引掛桟を用ひず平の波瓦を用ひ、屋根土の上に置ける程度なれば、中間より拔出で轉落せるものが所々に見受けられる。

石燈、墓碑に於ては轉回せるものを檢するに其回轉は反時針向に15°乃至45°近く迄及び、多少水平力の方向に移動してをる事を認め得る。擬寶珠の轉落は大體其震力の方向を知る根據となり得るも母體の形狀及地盤に對する傾斜周圍の狀態等により、又轉落の場合にぶつかり合ふ事等より其位置方向は相當不正確なるを避けられない。

轉倒の場合に於ても、略同樣の事が云ひ得樣。只此に質量の大なるものは相當震動の高潮に達せる時即最大震幅の附近に於て轉落したものと認め得るも同時に上下動による轉回變位も介在するものとし實際の水平力方向より多少反時針的に振れのあるものと考へらるゝ。

質量少なるものは初期の上下動又は小震幅時に轉落したものもあり、又運動量の大なる部分の個有震動の爲と、其在位の狀態等により、任意方向に轉落する事は大いにあり得る事である。

轉回に於ても、二物體間の材質及仕上方法等により、回轉摩擦及個有震動の相違を來し其角度に於て又多樣なるは避けられぬ。今是等の諸條件を捕へて調査材料の個々に就き論じて見よう。

1. 富田林　A　淨谷寺　イ…寺庭に立てる石燈にして其擬寶珠のみ眞東に向ひ轉落す。其母體には何等の變位を認めず。

ロ…高2尺許の壇上に立てる石燈にして其柱は南々西に倒る。笠胴は壇下に落ち、轉倒と同時に轉り落しものと思はる。

ハ…供養塔形の墓石にして之も運動量の大なる部分は北北東に轉倒す。

ロ、ハ、……は共に同一方向を採るも、轉倒中又は後に轉旋の多少ありしものと思はれる。

方向、東西　1、南々西—北北東、　2

B　西　方　イ…寺片袖門にして土塀により挟まる。轉倒の方向を制限されたる狀態にあり。

ロ…土塀の一部を利用せる物置にして桁行東西に沿ふ。上と同様の制限を受く。

轉倒方向、東北—2

C　興正寺　イ…寺庭にあり、運動量の大なる笠は東南に轉落す。

ロ…同　上、　反時計向45°近く轉回す。擬寶珠東に落つ、多少反時針向に回轉力を以つて落たる如し。

方向、東南—西北　1、東西—1

2. 新堂村　B　美具久留御魂神社

イ…鳥居、柱の中間繼手南に滑行す。

ロ…運動量大なる礎盤、笠、東北東に轉落。

他の1基は南に轉落但し前者は木製胴の粉粹して正確を缺く

方向、南北—2、東北東—1

3. 磯長村太子

A　民　家　ロ…土塀、東西に崩落

B　太子陵　イ…反時針向約轉20°轉回、移行を認めず。

ロ…石燈擬寶珠の轉落多數あり、大體東に落。

ハ…忠魂塔、母體反時針向 30°～40° の回轉と共に基壇より東に滑行す。

東　西 — 3

東　南 — 1　九輪北北西に落ち、花立は南々西、及南に倒る。

東南東 — 1　運動量最大なる母體の移動方向を採れば大約東南東となる花立は頭部大なる不安定の石柱にして大石壇上にあるものなれば、其轉倒は任意方向をとりしものと思はる。

ニ…一基は東、一基は東南。

ホ…大質量のものゝ位置により主方向は東。

4. 駒ケ谷村　A　民　家　土塀、東北に崩落

B　杜木神社　イ…西南に向ひ、胴及笠が礎盤上に移行す。

東北—西南—4　ロ…質量の大なる部分、東北に落つ。

C　西方寺　土塀　東北に崩落。

D　願永寺　イ…方向不明

5. 古　市　　A　譽田八幡　　イ…石碑回轉約 20° 但し一方土塀に支へられたれば其角度及移行の程度は不明。

東　西 — 2　　回轉方向反時針向
東北東 — 2
東南東 — 2
東　北 — 1　　ロ…擬寶珠轉落、東北東—1、東南東—1、
南　北 — 2　　東西—1、東北—1
ハ…石燈轉倒、主方向、西南西—1、北—1、西北西—1、
ニ…石燈回轉、15°～45° 反時針向、移行　北、
ホ…土塀、東西に傾く、

以上の諸方向を統一すれば次の如き結果を得る。之は大體震央よりの震波傳達の方向を知り得ると共に、其集中點附近に震央を求め得るものであるらう。

然し前述の如く、同一地域内に於ても其の轉倒方向は區々にして其間雜多なる條件が介在し、其一つ一つに就き嚴格なる研究は頗る至難の事となり其正確度又極めて薄弱なる事はいなめない。

富田林	主方向	北東—南西	
新堂村	〃	東北東—西南西	
太　子	〃	東西	
駒ヶ谷	〃	東北—西南	二上山塊を震央とせばこの土地は震力に右廻りの回轉力大いに働きて、殆んどが震力に直角に倒れしものならんか。
古　市	〃	東西	

此に反時針向の角回轉の多く生ぜる事と轉倒方向の相當困亂せる事は、上下動の多量含有せる震動なる事震源の接近せる事を正確に確め得る。

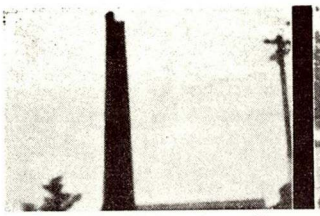
今次の震幅の比較大なりしに關らず被害程度の驚べき程僅少なりしは震央附近の町村の地盤良好なりしによる點もあらうが、又震央の頗る地表に近く運動量の少なる爲ならんか

震央と認めらるゝ二上山塊は死火山にして、調査當日も音響を伴ふ餘震數多ありて住民の危惧大なるものありしと聽く。

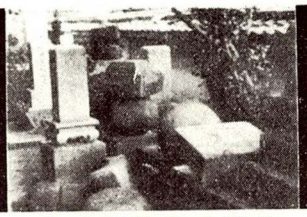
抑も大陸浮動說、地塊運動說等は地震學の根本をなすものならん。又、地殼の相剋により斷層火山の噴火等又基本的理論となるは疑はぬ所であるが、今次の地震は夫等大系に屬する極少部分の出來事にして、又自ずと特有の小節を以つて解決し得る點もあらんかと思はれる。即、震央が死火山に生じ、運動量小に、頻發する餘震、音響を伴ふ事等より、火山たりし山塊の淺部溶岩の移動落磐に起因するものゝ如く考へらる。

此落磐を生ずる原因は又種々あらんが、近因としては氣候の激變により地壓の急激なる變位、歪曲、或は帶電位の不均等等であらう。從つて這裏に於ける光芒の如きものも、此の帶電現象として見られぬ事もあるまい。此等の研究は夫々專門學者の努力を俟つ事にし、取敢へず調査考研の結果を纏めて報告とする。　　以　上

（昭和11年2月26日）



富田林驛前某工場



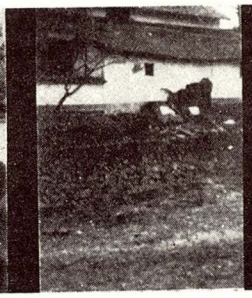
富田林淨谷寺墓地



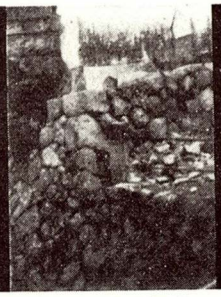
富田林淨谷寺墓地



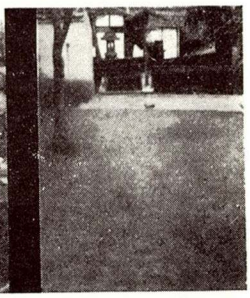
西方寺倉庫



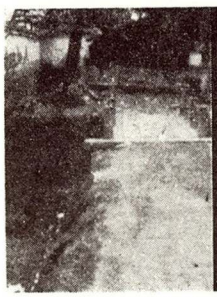
富田林西方寺



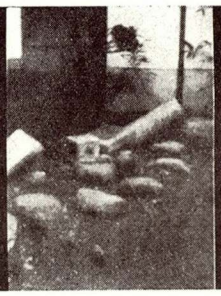
富田林西方寺門前



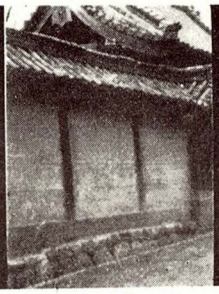
富田林西方寺門倒壞



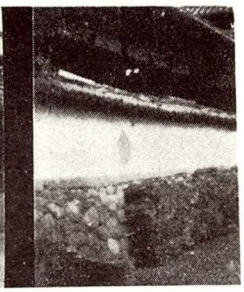
富田林西方寺門前



西方寺裏庭



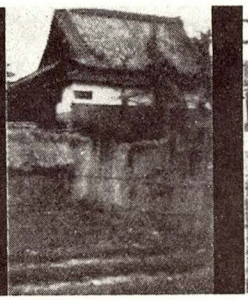
興正寺門前土塀



興正寺土塀



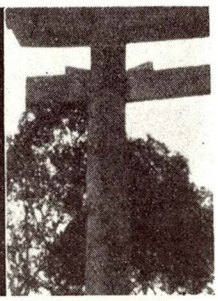
新堂村正德寺



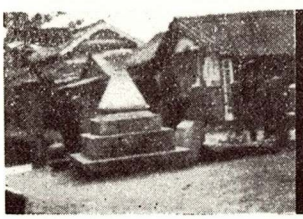
新堂村西德寺



新堂村御魂神社



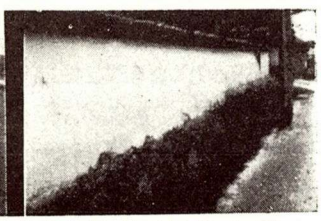
新堂村神社鳥居



新堂村神社



二上山遠望・新堂村より



磯長村（太子）土塀


磯長村土塀


磯長村家屋


磯長村土塀

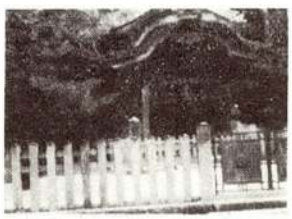

太子堂石段下石塀


太子堂門前


太子堂境内


太子堂境内


太子堂境内


太子堂太子廟


太子堂境内


太子堂境内


太子堂倉庫

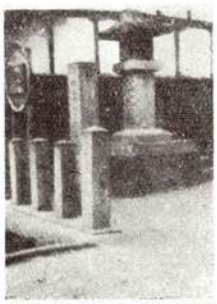

太子堂忠魂碑前




太子堂忠魂碑


駒ケ谷村


駒ケ谷村願永寺庫裏


駒ケ谷村杜木神社門前


駒ケ谷村家屋


駒ケ谷村



駒ケ谷村外れ



譽田八幡倉庫



譽田八幡拝殿前



譽田八幡境内



奈良街道アスファルト舗道



古市譽田八幡



古市譽田八幡



古市譽田八幡土塀



古市譽田八幡塀



新堂村中野美具久留御魂神社



新堂村中野美具久留御魂神社



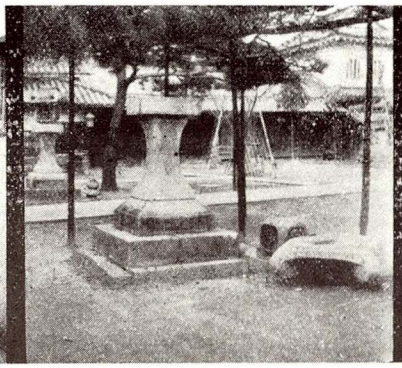
新堂村中野西徳寺



駒ケ谷願永寺裏手



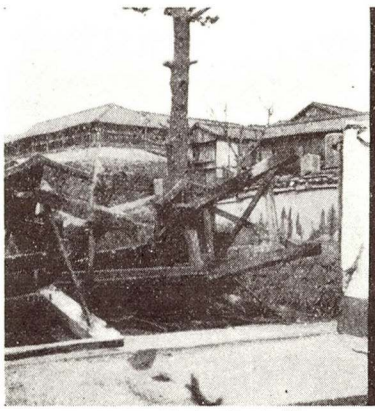
駒ケ谷願永寺庫裏



富田林興正寺



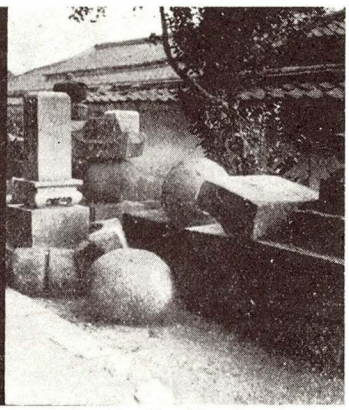
富田林西方寺山門



富田林正方寺山門



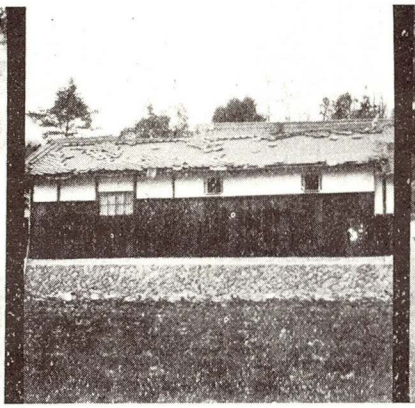
富田林西方寺



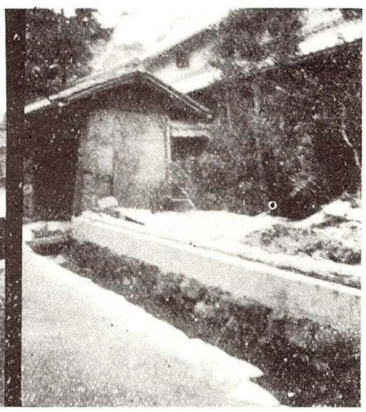
富田林清谷寺



富田林清谷寺



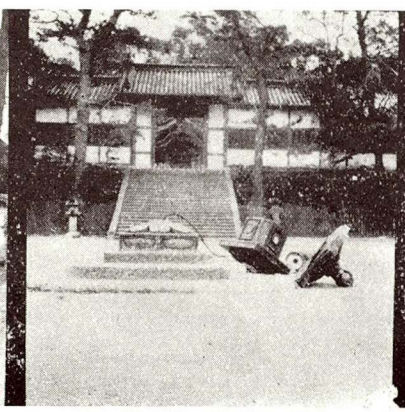
磯長村太子民家



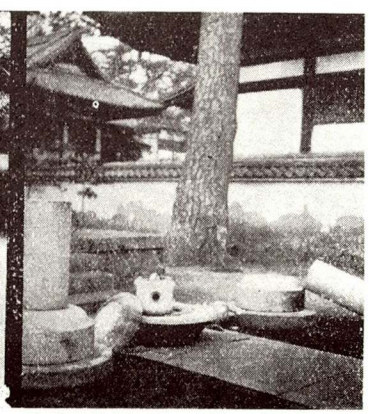
磯長村太子民家土塀



太子陵



太子陵青銅燈



忠魂塔前置石燈、2基、磯長村太子

災害忘備錄

（昭和10年8月10・11日の豪雨）

龜井幸次郎

まへおき

客年夏二度目の豪雨による被害に關しては既に本誌（1935・12）に調査の結果が工學士中井新一郎氏によつて手際によくグラフイカリにまとめられ報告されてあるので、今更改めて同じ事を報告するのは甚だ愚の骨頂と謂はねばならないが、筆者は水害隨筆と云ふ程度で、いさゝか都市計畫に於ける住宅地の宅地造成上の資料を提供したいと云ふ氣持でペンを起たしたのであるが、萬一本記述が今後の災害に備へ得る資料となれば望外の幸福と思ふ。

調査の目標

如何なる調査をなすにも、豫め調査の方針と目標を定めて出發せざれば、短い時日と限られた人員の到底よくするものでない。筆者は大略下の方針と目標を以つて本調査をなした、即ち

イ、 浸水區域とその深さの程度。

ロ、 主として建築物及その敷地の影響。

ハ、 住宅の經營地と川河流域との關係

調査方法

所轄警察署の報告を土臺として現地調査を13日より15日までの間に踏査したのである。その方法は次の如き手段によつて之れを行つた。

イ、 寫眞による建築物の現狀撮影。

ロ、 陸地測量部の地圖へ浸水區域と浸水深さを記入。

ハ、 特種參考事項を註釋を加へておく事。

ニ、 調査ケ所は、下記の所に限定する事。

1　箕面川流域、阪急石橋驛附近

2　千里川流域、千里園住宅地及その下流。

調　査　概　要

8 月13日は箕面川流域を中心とし資料蒐集に努め、同14日は千里川流域を調査なせり。

但し一般に水害地の調査は、特別の場合を除いた外、大體水の引いた跡へ行き、當時の浸水の深さを、壁體又は其の他の工作物等へ描かれたしるしを唯一のものとして調べるのであるから“大體此の邊であつたらう”と云ふ程度より調べ様のないのは止むを得ないと思ふが、此度の調査に於て建築敷地造成又は一團の住宅の計畫地或は經營地の位置選擇と云ふことに就て相當有力なる資料を得たと確信する、治水に關する問題は土木行政の立場より一般論的には容易に結論に達し得らるゝと雖も、前記の如く其の現地に行き、調査して得た結果は、いづれも都市は郊外に伸び行くと云ふ前提より考へれば府の全區域に建築警察の發動の必要を痛感したのである。今現地調査の結果をその場所に從つて撮影せる寫眞を添へて詳記せん。

箕面川流域石橋附近

箕面川は中國山脈の餘勢が南に伸びて能勢、箕面、龍王の諸山となつて居る內の箕面公園及六個山等より發し、石橋を經て猪名川にそゝぐ川である。

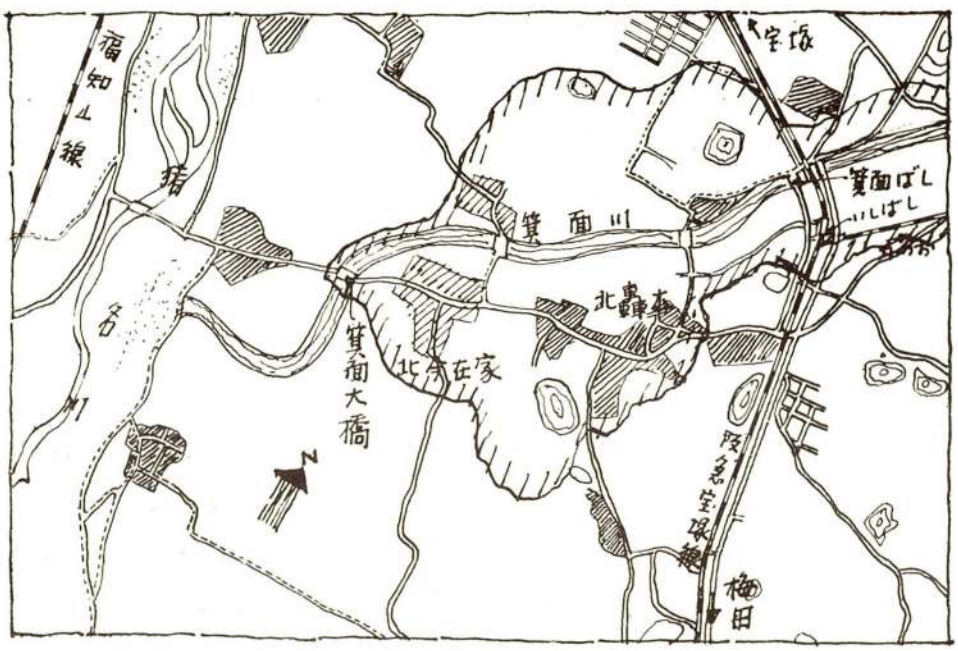
8 月10日より11日の曉方にかけての大降雨はたちまち川河の氾濫を招來し、前記の山々より集まつて來た水は非常な勢ひを持つた所謂奔流と云ふ狀態になつたのである。ところが石橋附近に到り、道路がたまたま此の箕面川と交叉する地點にあるので之れに架せられて居る橋が自然流出物を堰止めると云ふ結果になつたのである。木橋の場合には、之れが或る程度に達すると自然破壞し押し流され、附近への浸水も此の爲め幾分でも輕減される事になるが、北豐島村北今在家に架せられてある鐵筋コンクリート造りの箕面大橋は容易に破壞點に達せず、爲めに標流物の益々滯積することゝなり、その結果此の附近一圓の增水甚だしく、流失家屋又は破壞家屋等を出すに到つたのである。通常此の川は殆んど水もちよろちよろの程度で、自然に川が曲りくねつて流れて居るのである、此の爲めに急なカーブのケ所では奔流の勢ひ物凄く、自然堤防等の決潰を來たしたのである。そして之等の堤防の下に存在した住宅及び其他の工作物等は勢ひ水害の影響が甚大であつたと云ふ譯である。

池田署調査にかゝる同署管内被害家屋は下表の如し

第 1 表

町名	浸水床上	浸水床下	倒壊家屋	流失家屋
池田	10	480		
北豊島	117	581	半 1/5	2
細川	4	6		
箕面	4	36	半 5	4
止々呂美		13		
菅野		22	半 1	
計	135	1.138	半 1/11	6

10. 8. 11 報告



浸水区域　箕面川流域浸水区域

Fig. 1



第 1 圖　10. 8. 13撮影
阪急電鐵寶塚線石橋附近箕面橋流出跡

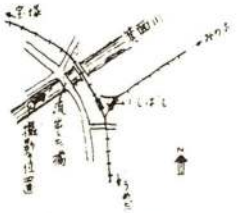
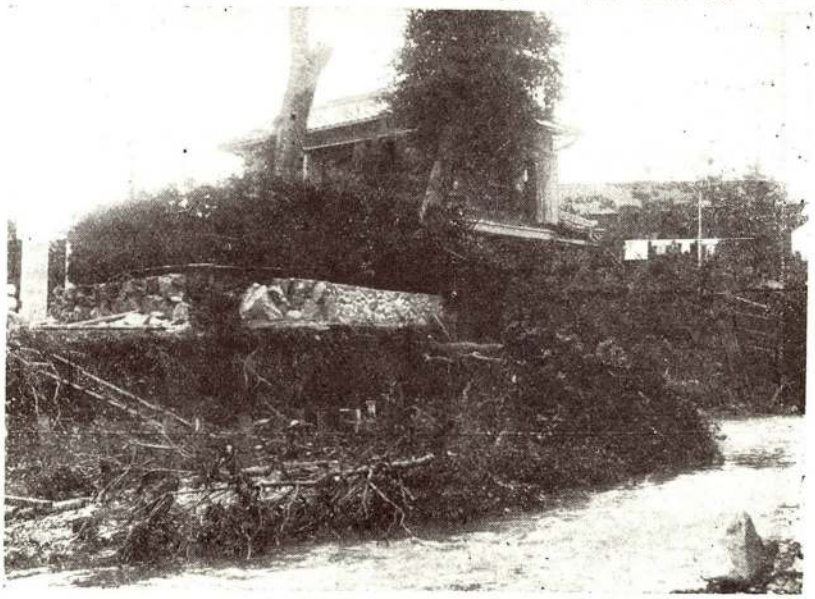
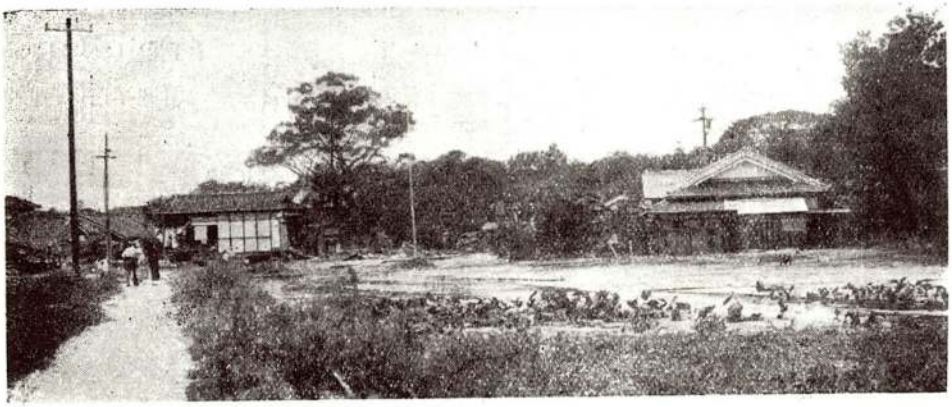


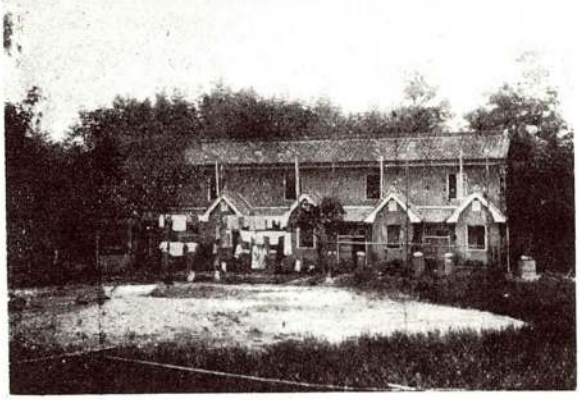
Fig. 2　阪急石橋附近圖

第 2 圖　10. 8. 13 撮影
阪急石橋停留所附近箕面橋下流箕面川北岸の決潰による住家の危險に瀕せるもの





第 3 圖　　10. 8. 13撮影
箕面川下流流域箕面大橋附近(東側)
浸水跡田畑に土砂の泥濘せるもの、



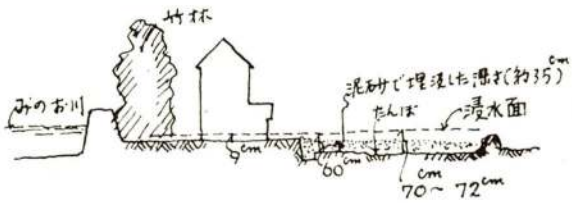
第4 圖　　10. 8. 13撮影
箕面川流域字轟木47番地住家前泥砂の
泥濘により田畑が埋沒せるものを示す

箕面川の增水に際し、鐵筋コンクリート造の箕面大橋に多くの漂流物が停滯せしため奔流を遮斷し、その結果附近一帶に浸水禍を招致したのである。

此の附近の浸水程度は1米乃至1.6米にして場所によつては床上相當高まで浸水せる住家もあつた。

第4圖の場合は、堤防の決潰したケ所は、此の堤防と接續して巾約5米乃至6米位の竹林がありて決潰の恐れなき場所であつたが、道路工事用砂利採集の爲め、堤防の一部が切り取つたのであるが、復舊完全ならざるため、此の部分を奔流が押流し堤防の決潰となり附近に水禍の害を與へたものである。(Fig. 3 參照)

Fig. 3　轟木附近の水深を示す圖



此のヶ所は川が急にカーブして居るところなるを以て、奔流は此のカーブに突き當り漸次堤防の岸を洗ひ流して行き遂に決潰したものである。
住宅の敷地をかゝるヶ所に選擇するのは頗る不得策であらう。



第 5 圖　　10. 8. 13撮影
北豐島村、阪急石橋停留所より數町西
堤防の決潰による住家の被害

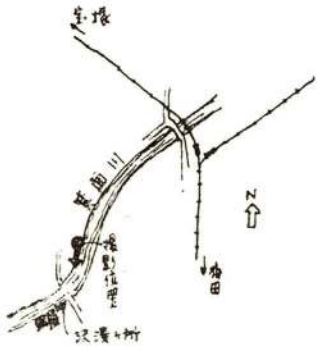


Fig. 4　阪急石橋附近圖(2)

第 6 圖　10. 8. 13撮影
箕面大橋堤防右岸の決潰による
附近住家への被害



箕面大橋は橋脚低き爲め（或は土砂で橋脚埋沒によるものならん）奔流を此のヶ所で堰止めるが如き作用をなし、此の橋一帶の附近へ泥流が氾濫し甚大な被害を與へたるものなり(Fig. 1 參照)



↑ **第7圖の1**　10.8.13撮影箕面大橋の破壊作業（鐵筋コンクリート）

第7圖の2　10.8.13撮影

此の橋の存在が附近への浸水區域を擴大した爲め、木橋に代るべく破壊作業をしてゐるもの

箕面大橋の破壊作業 ↓



千里川流域とその被害

千里川は、その水源地を櫻井谷村に發し、通常は水量の尠ない川である。然るにひと度豪雨烈しい暴風雨襲來するや、周圍の丘地への降雨はたちまち此の丘の谷間を流るゝ千里川へ流れ込むと云ふ譯で、勢ひ通常殆んど水のない川もその增水は非常なものになつて仕舞ふので、現在の川巾を以つてしては到底その水量を收容し得ぬと云ふことが屢々繰り返されて來たのである。その結果泥水の氾濫により附近地へ甚大な影響を及ぼして來たのである。(Fig.5參照)

斯くの如き狀態にある千里川が彼の本年最初の大降雨に際し、此の川の流域への大洪水の原因を作つて居つたことは當然の事であつた。然るに本年第1回の出水による被害跡未だ復舊に至らざるに再び、去る8月11日の豪雨により水禍の見舞ふところとなつたのは洵に悲慘の極みであると同時に、將來河川附近地への住宅地計畫へ一大警告を與へたものと見做し得る。今調査の結果を詳述すれば次の如くである。

イ、箕面街道春日橋附近

此の附近の增水は春日橋上に於て約4米に達し、街路上端より約1.5米にも達する程度であつた。(第8圖 Fig: 6 參照)

橋の傍にある住家は勿論床上1.5米程度の浸水を見たのである。此の橋より下流に川の屈曲も甚だしきヶ所2.3あり、その附近より下方に住家が建ち並んで居るのであるが、此のヶ所の堤防の決潰は奔流の流れる道を變へて、一時に此の住宅地一圓へ浸水禍を來らしたのである。浸水の程度は全く驚く程で、大抵2.0米 乃至3.0米に及び、人々は2階へ避難する樣な有樣で、平家建の住家にありては、前回の災害に鑑みて徹宵警戒し、いづれも家をあとにし、丘地へ避難したと云ふ有樣であつた。之れより下流へ下つて行くと千里川橋である。此の橋の下に所謂千里園住宅地があるので、此の住宅地も前回の水害以上に甚大な被害を受けたのである此の千里園住宅地一圓の地盤高は大略川底と同じ高さにある故浸水の程度も又非常なもので、一般に 2.5米乃至 3.0米以上にも及ぶと云つた調子であつた。之れに加ふるに上流の川の屈曲急なるヶ所に於ける堤防の決潰は、此の住宅地一園を泥土の奔流する泥海と化したのであつた。各住家の內部はいづれも床下へ流れ込んだ泥土砂が座敷一面に噴出して、之れが措置の方法が付かざる狀態であつたのは實に氣の毒以上のものであつた。

ロ、千里橋産業道路附近

千里園住宅地入口附近千里川流域には堤防の上に、眞に粗末な鮮人の小屋が數軒建ち並んで居るが、護岸の崩潰に隨つて危險に瀕して居つたのであるが倒壞に到らなかつたのは不思議と思はれる位であつた。然し橋詰にある飮食店は裏部の土臺潔はれ、一部傾きつゝあつた。

此の千里橋より下流に養豚場あり、豚舎がいづれも千里川堤防の上に建築してあつたので、堤防の崩潰と共に自然危険に瀕し遂に柱下が奔流に洗滌られると同時に倒壊するに至つたのである。（第11圖參照）

ハ、麻田村箕輪附近

千里川は麻田村箕輪及南豊島村等を經て猪名川にそゝぐのであるが、麻田村箕輪附近川の屈曲するケ所で前記同様堤防の決潰があり藁葺の農家1棟及その附屬屋の倒壊と損傷の被害を受けるに至つたのである。

其の他箕輪大橋附近は、橋が鐵筋コンクリート造りであつた爲め上流よりの漂流物を此の場所で堰止めかへつて附近地へ洪水を來たしたと云ふところもあつた。

以上調査の結果、次の如く計畫並に施工上の注意要項を擧げ得ると思つた。

1. 斯くの如き河川の護岸工事は特に最大



第 8 圖　10.8.13撮影
千里川箕面街路春日橋

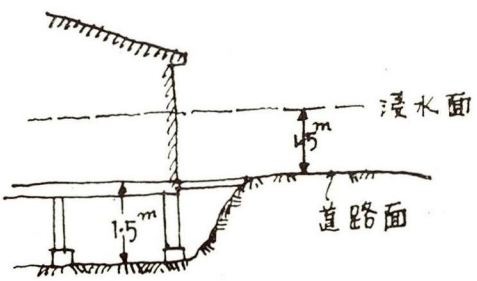


Fig. 6　春日橋々詰の水深

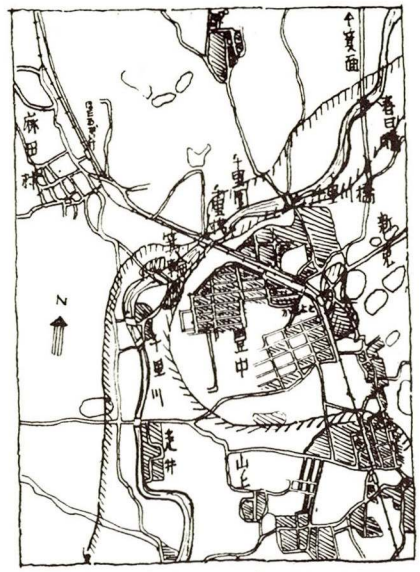


Fig. 5

雨水量の場合を考慮に入れて堤防等を築く要あり。充分なる礎基（深く）工事を行ひ、護岸の崩潰せざる様工夫する事。

2. 河川の屈曲甚だしいケ所の護岸用石垣工事は、積石に際し、後部に充分なるコンクリートの下地を造つておき、石垣の目地等は、目地モルタルを入念に引き水の隙間より入らざる様工夫する事が必要である。

3. 住宅地經營地の位置の選擇は附近の河川及丘地との關係を充分考慮してなす事。

4. 住宅敷地の地盤高は既往の出水の水深を調べそれに從つて地盤等をなすにあらざれば、家を建てざる様になす事。

以上、外にその立場によつて注意すべき事の多くあるのは勿論であるが、都市計畫上よりは特に上記の4點に留意する事の必要を痛感つた。

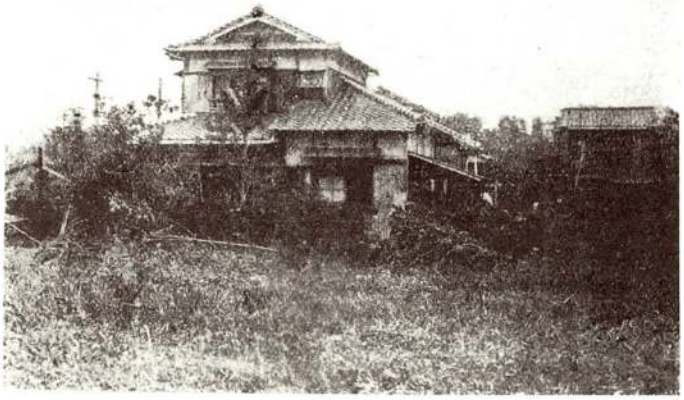
第 9 圖　　1ᑭ8. 13撮影
千里川北詰、2 階家商店

千里川上流60m前後に堤防の決潰せる箇所あつたので奔流は直接當該の家屋に向つて突流して來、たちまち木塀を倒壞して仕舞つたものである。然し此の奔流により押流されて來る材木類の激突などをさける爲めに「しがらみ」を組でそれに備へ、家屋への被害を輕減し得たのが此の實例である。此の附近の水深は 1.5 m乃至2m 位であつた。



第10圖　　10. 8. 13撮影
千里園住宅地の被害

此の附近の水深は 2m 乃至 2.5m に及び 2 階建以外の低い住宅にありては、いづれも家を出て他へ避難するの止むなきに到つたところである。寫眞は比較的被害の輕微なものを代表するのであるが、それでも第1階床は泥土で全部埋れて居つたのである。



第11圖　　10. 8. 13撮影
千里橋（能勢街道）附近護岸塀工事不完全なる爲め兩岸崩潰致し豚舍を傾斜に到らしめたもの。





第12圖　10.8.13撮影

千里川下流箕輪村方面の被害

箕輪村北部に於ける堤防の決潰により全村の過半數が浸水（床上30m～乃至60cm）による被害を受け、道路は爲めに川の役目をなしたのである。寫眞は道路が川となつたもの。



第13圖　10.8.13撮影

豐能郡麻田村箕輪農家の被害



第14圖　10.8.13撮影

千里川箕輪橋附近

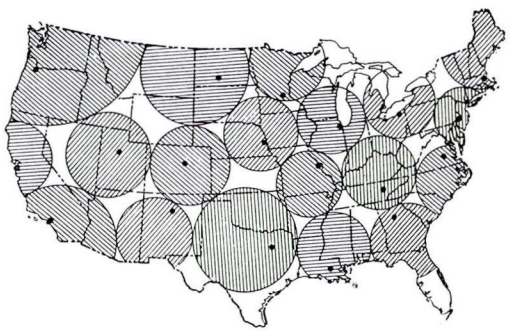
麻田村箕輪北部の大決潰の個所は此の橋より上流約100ところである。



大都市の影響の下で可能な地方計畫區域



數州をグループとして考へられた國家資源局の計畫區域



行政部の便宜の下で可能な地方計畫區域
圓弧は計畫に好都合なる故を以て暗示されてあつた略面積に拘泥して描いたもの



種々なる計畫問題の組合せに依る可能な地方計畫區域

國家資源委員會の報告で“國土の開發と計畫に關する地方的要素”(Regional Factor in National Development and Planning) と云ふものが先日公にされたが、之れに觸れた二・三の批評的且政治的美辭から考へると、我々は我が合衆國が 12 若くは自治權のある他の數個の主權に分割されるであるうと云ふ事に嚇かされて居るのではないかと云ふ事であつた。が然し此の考へは無用である。と云ふのは委員會は特に此の點に注意し、“アメリカをバルカン化するのではない”事を主張し、且つ計畫問題に就ては國家の補助的機關の基礎 (Sub-national basis) として州及聯邦の力の協力上一つ以上の州が聯合すべき事を注意してゐる。

地方的資料を蒐集してある此の報告書は最近發行された文獻の所謂州計畫 (State Planning) (註1) によつたもので、水の利用及統制、土地の利用、浸蝕或は又採鑛政策 (mineral policies) が州境界にまたがつて居る場合等、上記の諸問題に對して州の力のみでは是等の問題を統制しきれない事を示してゐる。國家資源委員會の意見に關しては、是等地方計畫問題が地方の分散的基礎 (decentralized

註 1 (本誌二月號に State Planning を國土計畫と譯せしは譯者の過失で、西村氏の御懇切なる御注意を感謝して居ります。
American City, Dec . 1935 p 61～62 及 Jan. 1936 p. 107 參照)

Basis) の上に論及されてあり、且つ此の委員會が推擧された地方計畫に關する原理の中には次の項目が含まれて居つた。

（1） 州計畫は聯邦行政廳（Federal Government）によつて繼續的に支持される事。

（2） New England 及 Pacific Northwest に於けると同樣に、地方計畫委員會の要求として設立された機關たる事。

（3） 地方問題を解決し得る手段として、何處でゞも實施し得るものとして、各州間に利用を奬勵し得る樣に簡潔にまとめること。

（4） TVA（註2）の如く、Sub-national problems の或る型式のものを取扱ふ手段として、地方的機能の性質（regional-functional nature）に就て聯邦當局（Federal authorities）の利益を考慮に入れる事。

（5） 包含的な計畫には開發計畫を先導すべき一般政策を採用する事。

（6） 計畫された提案の進歩發展に就て、計畫並に一般的政策を準備し且つ地方及州計畫を刺戟し又は奬勵し、且つ大統領に直接助言をなす義務を命じ得る、責任ある大統領への恒久的助言機關として、國土計畫局（National Planning Board）を設立する事。

（7） 公共事業、促進部（Works progress Administration）割當委員會（Allotment Committee）及聯邦職業安定局（Federal Employment Stabilization）等の爲め非常時行政部の力、義務及その機能等の基礎の上に、恒久的國土開發行政部を設立する事。

（8） 適當なる計畫が暗示し得る、或は開發行政部が、適當性又は有利性を發見し得るが如き地方計畫の構成及開發の爲めに變化ある手段を利用する事。

（9） 103 の異なりたる區域の數を引き下げる爲めに、地方的中心を制限された數になすべく聯邦行政部（Federal agencies）の所謂10乃至12であると稱へられて居るものを聯邦の政策として利用の可能性を指摘する事。

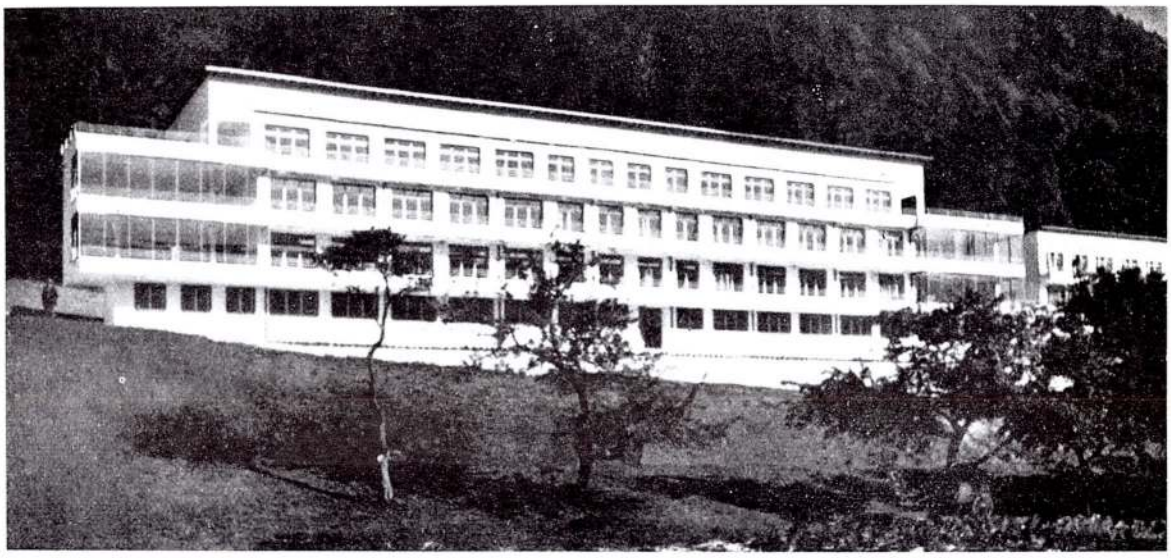
地方計畫區域として固定的な又は固着的な境界はない。（No Hard-and-Fast Boundaries）

地方計畫に關する技術的補助委員會の報道によれば、米國合衆國に於ける地方計畫區域と云ふものは、別に固定的又は固着的な境界を有することは出來ないのである。此の委員會に於て、各地方に於ける異なりたる型を示すべき一組の地圖を提供したのである。そして、その内の4枚を此處に再錄した

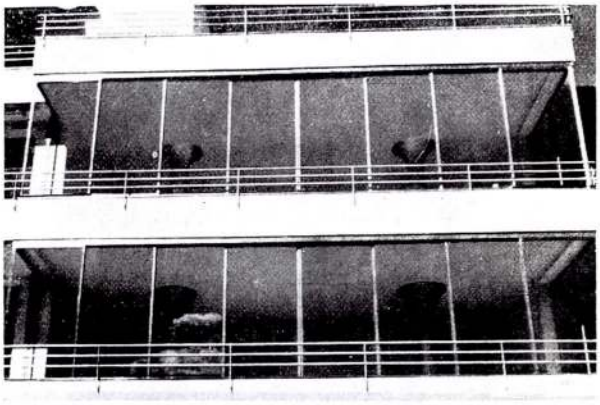
中心の位置に就て、その選擇を討論し、新聞の所謂地方の“キヤピタル”に關しては、次の樣に報告されてゐる。

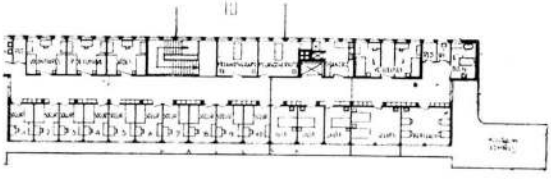
“地方計畫に對する組織の問題に關するあらゆる考察から、地方計畫局（Regional Planning Office）を設立し得る要點を選擇する上に最も重要なものとして確定的な標準に就ては恐らく偶然の事情と理論的應用の組合せより結果せねばならないであらう。そして田舍の或る部分の地方計畫を開始し得る機が熟したならば、州又は聯邦及公式にあらざるグループが計畫の同一化を計る爲め、州を代表する一般化された地方を決定すべく助言が與へられるのである。同一計畫として取扱はるべき機能、面積及本部の爲めに位置の選擇は、共働作業として、先導的要素の上に、接近し易く且便利なるそしてて此の中心が受諾さらるべき位置であると云ふ是等の基礎の上に於てなさるべきである。で若しも地方計畫がワシントンに於て開始されるものとしても、同樣な規準を應用する事が出來る。”

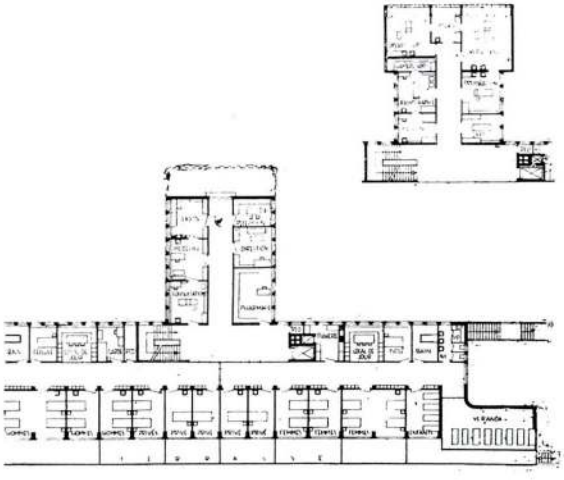
（American City, Jan. 1936 より龜井幸次郎）



全 景







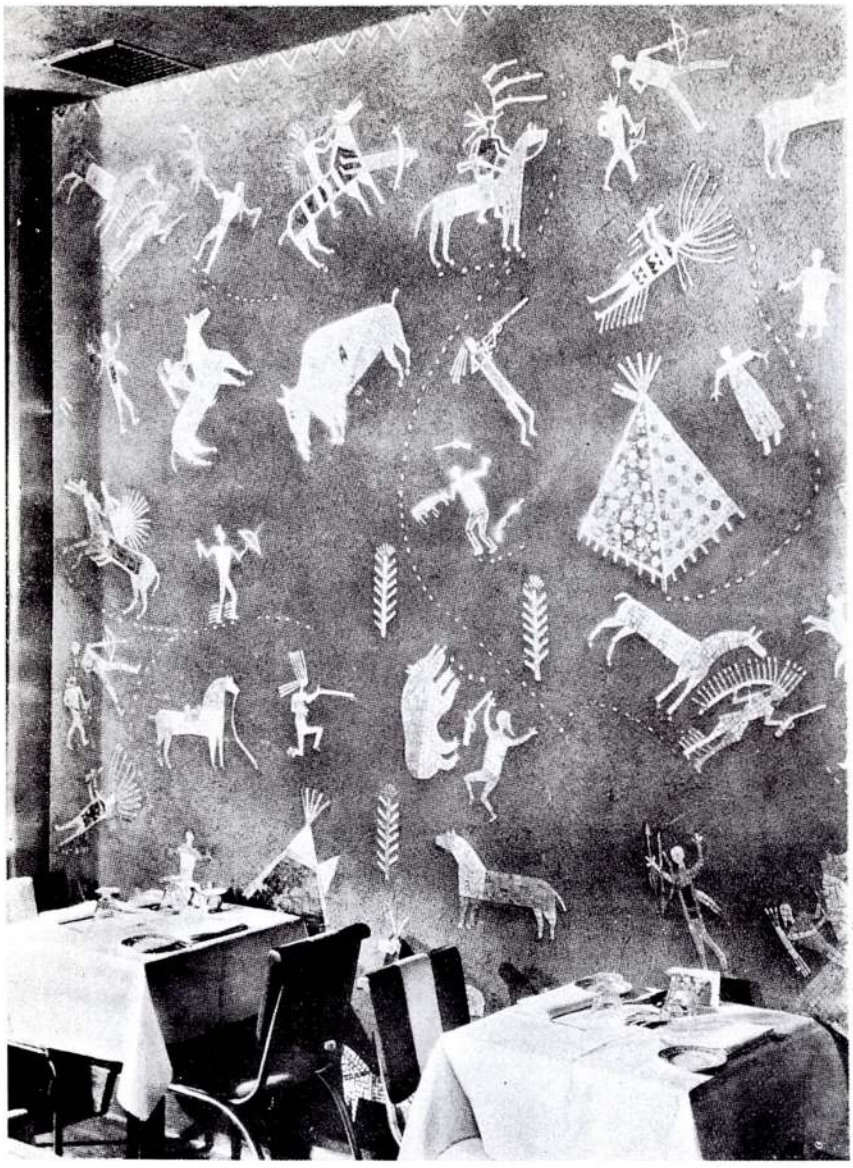
Salvisberg Brechbühle に依つて、懸賞募集を基礎として計畫された一般病院である。元來スイス山岳地方は特殊病院の多い所だが自動車道路の發達した今日に於いて、一般病院も有利な地形を求めて、分散されねばならぬといふ見界のもとに計畫されたものである圖中向つて右端の別棟は結核病舍、本館は第一階は內科關係及病室、第二階は外科、婦人科、關係及病室、第三階は病室。

Bed の數は本館が80、結核病舍が 42。病室は何れも南面し、Terass をもち日光、空氣、更に廣大なる眺望をほしいまゝにして居る。

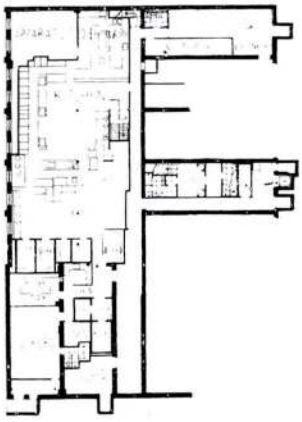
(Moderne Bauformen, Feb. 1936 より 和田登)

(スイス) 病 院

建築家 · O. R. Salvisberg 及 Otto Brechbühl







目に附き易い一定の型の外觀を有するといふことは、連鎖商店の建築として必要な條件の1つであつて、Western Union 事務所や A & P 及 Woolworthの兩系統の店などの統一ある外觀は、この種の効果的な建築廣告の中でもよく知られたものの1例である。寫眞は Longchamps レストランを特徴附ける獨特の行方として新しく試みられた設計（改造）で、從來の古いものは漸次この樣式に改造せられる筈である。Longchamps レストランは比較的上等な店として N. Y. で知られて居るレストランであるから、その外觀はスマ▲ートで或程度贅澤で而も厭味がなく▲して居ると思ふ。外部は黑色ビト◇モザイックを配してよき効果を收めて居る。この設計を多少變化することに依つて、特徴を失ふことなくこのレストランの他のチエインにも應用することが出來る。

小さな陳列窓は食料品の陳列に供して居る。内部の壁は主としてベニヤ板張、一部は暗赤色のプラスターにインデイアンの生活を表はした金銀のモザイックを嵌込む。

床はゴム・タイル、天井は酒場の部分は防音プラスター、レストランの部分は防音タイル張。照明は主として間接照明であるが、獨立柱の上部には管球を應用した直接照明を用ひて居る。空氣調整裝置附。

工費 160,000 弗。

（Architectural Forum, Feb. 1936 より 新名種夫）

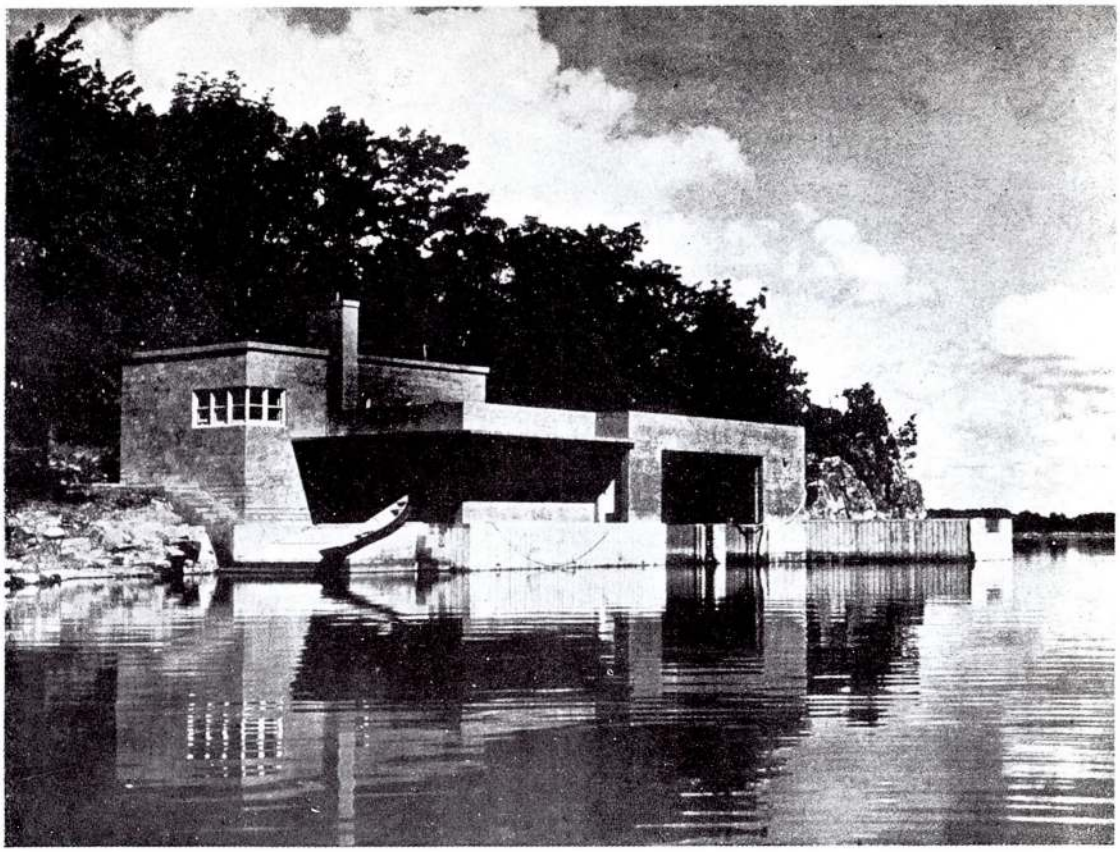
▲いといふことが必要であるが、この設計はその點充分成功

◇ロライトとホワイト・ブロンヅの文字に適量の赤及金色の

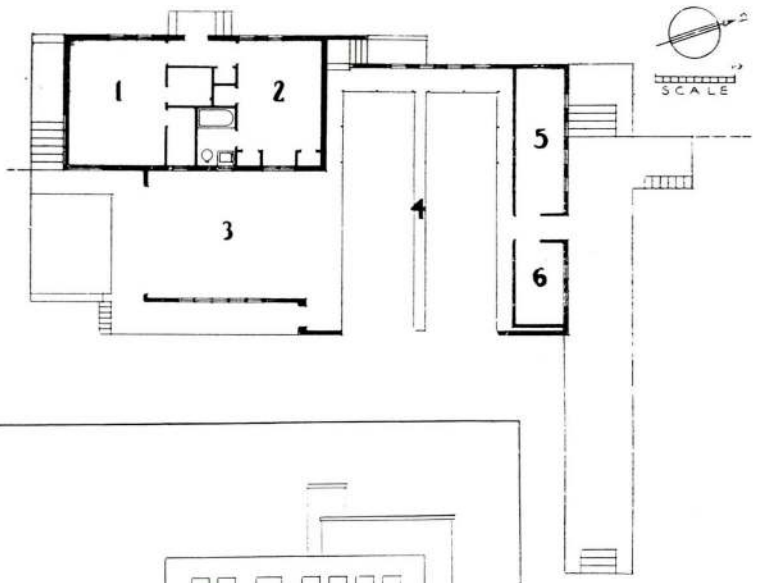


（アメリカ） Longchampsレストラン

建築家 Louis Allen Abramson
意匠裝飾家 Winold Reiss

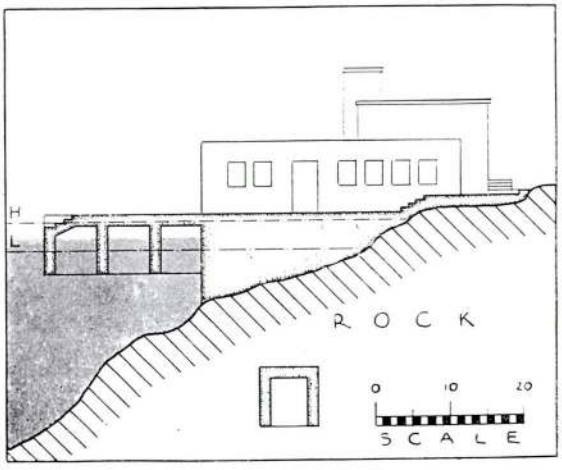


上階　1　臺所・居間
　　2　寢室
下階　3　ボート・カヌー
　　4　ランチ
　　5　作業室
　　6　倉庫



下圖のコンクリート製の隔板入空洞カンチレーバー式のドツグの利點に就いて、設計者の言に據れば「この方式だと水中作業が容易な上、このセントローレンス河の鉛直・水平の結氷壓力に對して抵抗力を增してゐるばかりでなく、他の方式によるものと較べると2割の材料で間に合ふ」と

(Architectural Record Jan. 1936
宮田秀穗)



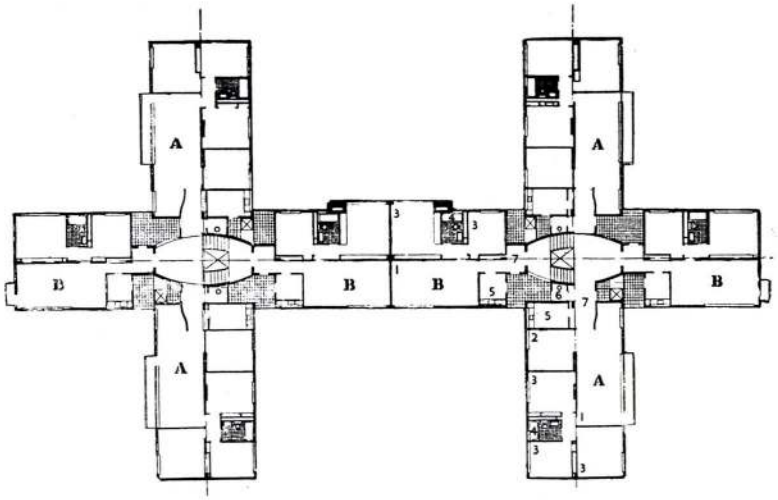
(カナダ) ボートハウス

建築家・John Walter Wood　81 IV



キ型の平面形をもつ8階建の鐵筋コンクリート造建物で、戸數60. 場所はロンドン中の最も高見にあるので屋上はおそらくロンドン中の最高點であらう。各戸は細長い大きな居間をとつたのが特色である。

(Architectural Review, Jan. 1936 より　本多正道)

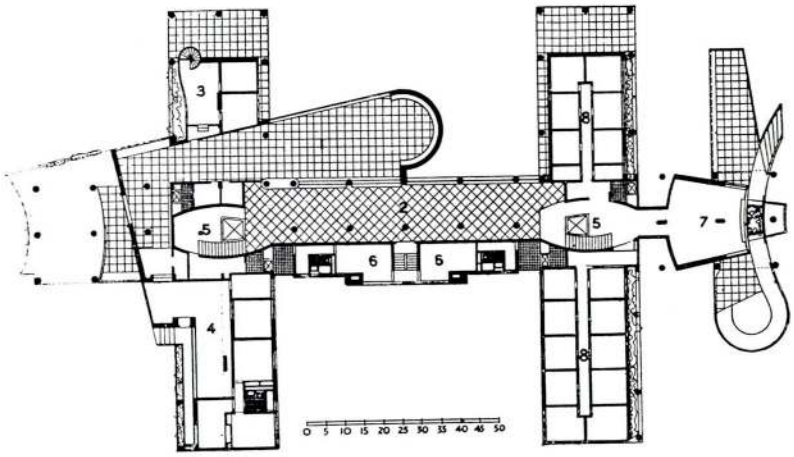


上階

1．居　室　5．臺　所
2．食　堂　6．便　所
3．寢　室　7．入　口
4．浴　室

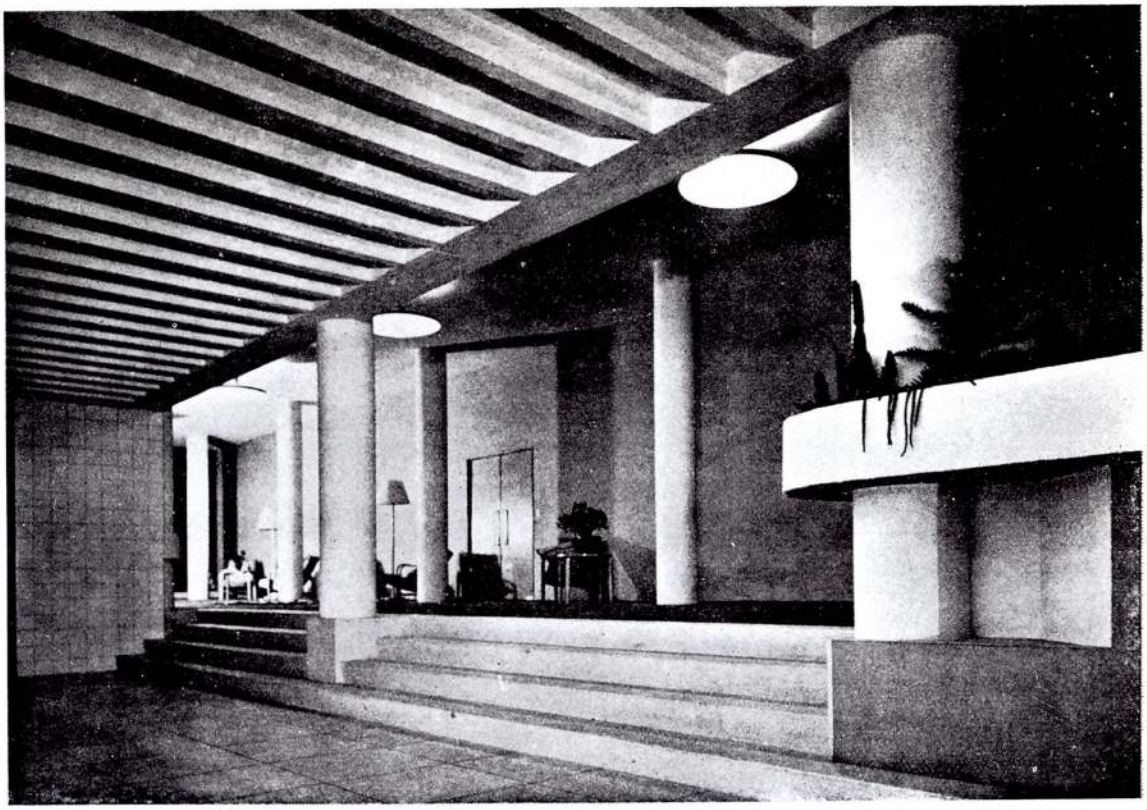
1階

1. 2. } ホール
3. 番人住居
4. 住居
5. エレベーター及階段
6. 一室住居
7. 喫茶室
8. 女中寢室



IV 82 （イギリス） ハイゲイトのアパート

建築家 Lubetkin 及 Tecton



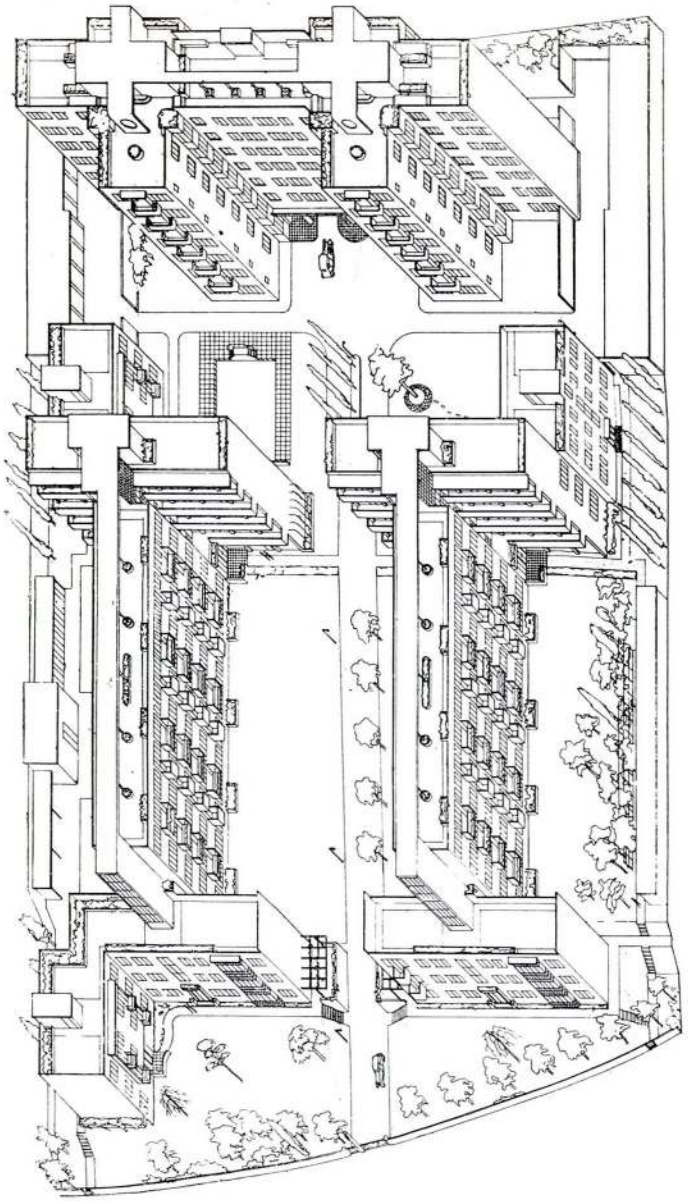




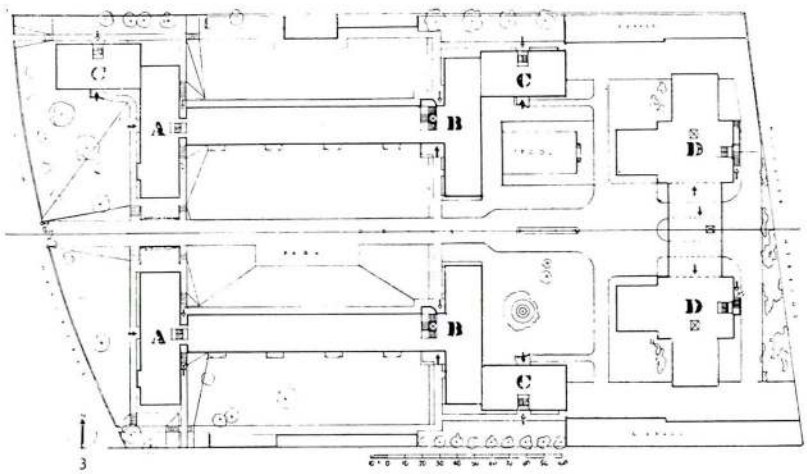
廣間の1部

（イギリス）ハイゲイトのアパート

建築家 Lubetkin 及 Tecton

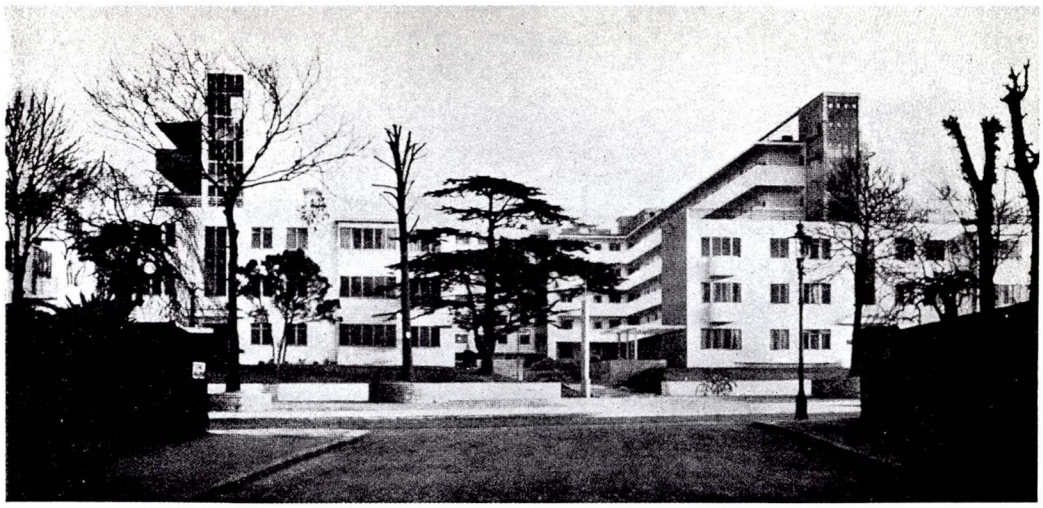


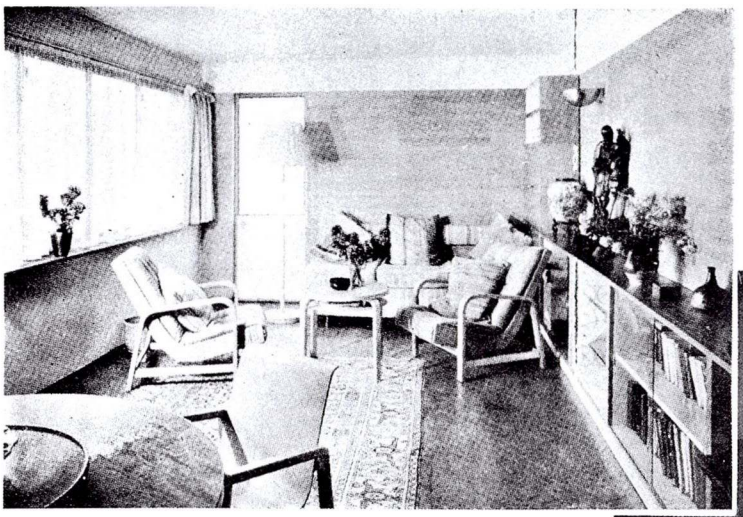
敷地 2.$\frac{3}{4}$ エーカー、三個のブロックは各々三段に段型となり、全部で218戸を有する鉄筋コンクリート造の大アパートである。
一室住宅、二室住宅、三室住宅の三種よりなる。
(Architectural Review, Jan. 1936 より本多正道)



IV 84 (イギリス) ストリートハム丘のアパートメント

建築家 Frederick Gibberd





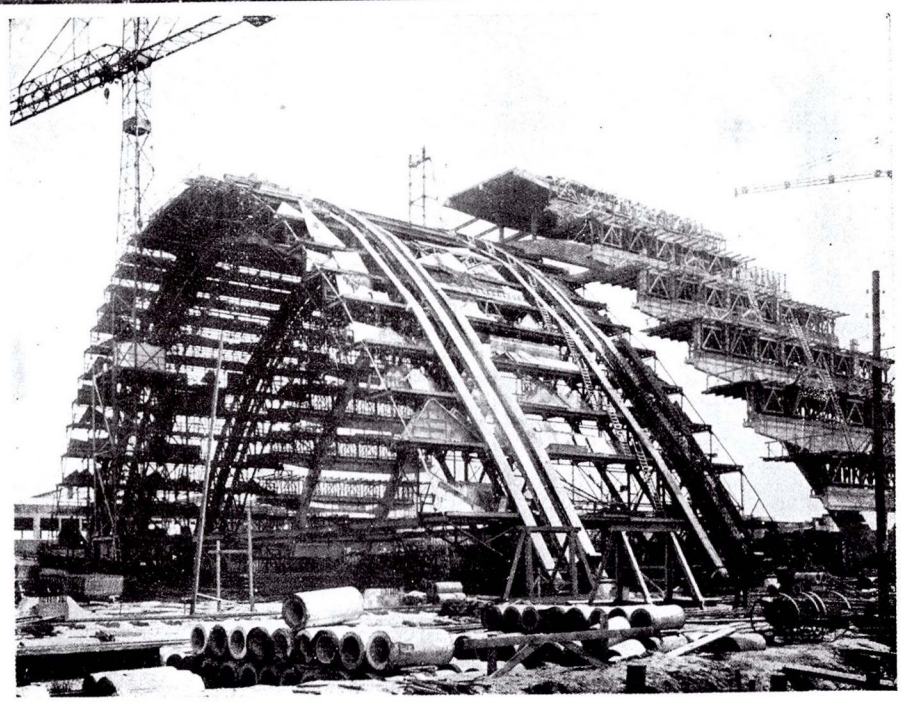


（イリギス） ストリートハム丘のアパートメント　　建築家 Frederick Gibberd　85 IV



この構造物の面積は 3.75 エーカーに亘るもので、長さ528呎に延びてゐる。コンクリートの床版で構成されてゐる屋上テレスとガラス窓は12のアーチで支へてゐてこのアーチは spacing 40呎 span は内部柱なしで282呎持ち放ちである。この 3 hinge arch の特異性は300噸のスラストの作用してゐる圓柱型の上部鉸と850噸の反力から計算された球型の脚部鉸にあると云へる。

(Architectural Record Jan. 1636 より 宮田秀穂)



IV 86 （ベルジウム） 工事中のブラツセル博覽會の中央館

建 築 家 J. Van Neck
構造技術家 Louis Baes

會　報

一月例會　（新年宴會）

時　　1月24日午後5時—9時
所　　綿業倶樂部
出席者　青木友一氏外82名

1 午後5時20分一同休憩室に集り餘興として花月亭九里丸君の漫談を聞く
1 午後6時餘興終了と同時に一同宴會場に入り各自指定の卓子に着席開宴す
1 次で食後片岡會長より一場の挨拶アリテーブルスピーチに入りて會長より下記各位を指名各々熱辯を振はれたり松室、龜井、島岡、山口、石田諸氏
1 午後9時會長の閉會の辭により本新年宴會は和氣靄々裡に滿場拍手を以て幕を閉づ

常設各委員會

時　　2月7日午後5時—8時
所　　協會倶樂部室
出席者　加藤善吉氏外44名

1 午後5時30分、各委員會毎に着席片岡會長開會を宣し委員會規定の改正要項を説明の上各委員共委員長及幹事を互選せられたき旨を述ぶ
1 委員長及幹事下記の如く決定す

都市計畫委員會
　委員長　鳥井信氏
　幹事　加藤善吉氏
　同　福知秀夫氏

法制委員會
　委員長　池田實氏
　幹事　今林彦太郎氏
　同　松井清之助氏

敎化委員會
　委員長　永澤毅一氏
　幹事　篠原太郎氏

材料委員會
　委員長　高橋榮治氏
　幹事　松久保敬三氏

災害强度委員會
　委員長　波江悌夫氏
　幹事　黒田茂氏

設備委員會
　委員長　小笠原祥光氏
　幹事　堺井敏克氏
　同　村田小一氏

住宅委員會
　委員長　石川純一郎氏
　幹事　伊藤和夫氏
　同　矢田鐵藏氏

住宅委員會　（第1回）

時　　2月14日午後6時30—8時50分
所　　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　石川
　幹事　伊藤、矢田
　委員　荒本、貴賓院、新名、玉置
協議事項　下記事項を研究することに決定

1. 住宅設備の問題
1. 集合住宅の問題
1. 不良住宅の問題
1. 借家住宅の標準

二月例會　（映畫試寫會）

時　　2月18日午後6時—9時
所　　瓦斯ビル講演場
出席者　無慮800名

1 池田都市武裝促進委員會委員長より一場の挨拶あり下記映畫を映寫盛會裡に午後9時閉會す
1. 朝日ニュース（大朝作品）2巻
2. 愛の設計圖（本協會作品）3巻
3. 女優と詩人（P.C.L作品）8巻

池田委員長挨拶の概要

池田委員長挨拶の概要

今夕は豫て本協會に於て作成中でありました武裝都市實現促進の映畫が完成しましたに就いてその試寫會を開催しました所、かく多數の御來會を得ましたことは主催者側として欣幸とする所であります。

抑、地震、風水害等の天災をはじめ、空襲火災等の人爲的災害に對して都市を安全ならしむると言ふことは、都市計畫に於ける最重要事項の一つでありまして、その實現の爲に努力することは我々建築家の最大の務でなければなりません。

扨今日我國都市の現狀を見ますと、この點誠に

寒心に耐えざる次第でありまして、遠くは關東の大震災、近くは關西の大暴風雨の慘害等に鑑み、更に最近國際情勢の逼迫に思ひを致す時、一朝空襲時の我國の都市を想像すると正に慄然たるものがあります。

我建築協會は創立以來、これ等災害に對する都市の防備促進に就いてあらゆる努力を拂つて來た次第でありましたが、今日我國都市の現狀としてこの理想の實現の一日も忽にすべからざることを思ひ、今回更に一大決心を以て、この「全ての災害に對して安全なる都市」の實現に向つて努力することになつた次第であります。

今回作成しました映畫は先づその第一歩として都市をかくあらしむることの必要を一般に普及宣傳するのが目的であります。

「全ての災害に對して安全なる都市」—これは都市の全體的計畫の完成に待つて、はじめてその實を擧げ得るのは勿論でありますが、同時に都市を構成する個々の建築をして堅牢安全なる構造たらしむることが、我國都市の現狀として目下の急務であります。

例へば、都市計畫事業に於ける防火地區の設定に就いて申しましても、同地區内の建築物のみを耐火的ならしむるだけで充分だと言ふわけでは決してないのであつて、防火地區以外の建築物も全て耐火構造となることに依つて、初めて充分にその効果を發揮し得るのであります。

「個々の建築の堅牢化はやがて全ての災害に對して安全なる都市實現の第一歩である。」——本映畫はこの點を主眼とし、安全なる都市實現の第一歩として、個々の建築の耐震、耐火、耐風的構造なることの必要を强調し、それが同時に空襲に對しても安全なる都市を形つくる要素であることを說明せんとしたものであります。週刊朝日の後援に依つて同誌上にて脚本の懸賞募集を行ひその一等當選を土臺として P.C.L に製作せしめて茲に完成を見たものであります。

製作費に制限がありました爲、3卷2500呎の中にいろいろの要素を盛ることを餘儀なくされましたので、筋に多少說明不足の點がないではないと思ひますが。此種の映畫としては先づ以て成功に近いものと信じて居ります。

去る昭和9年夏關西大防空演習參加に當つて、本協會は近畿の府縣市をはじめ、民間多數の有志者の後援を得て、都市武裝委員會を設置、當時の寄附金を以て引續き、武裝都市、安全都市實現の爲に調査研究を續けて來た次第でありますが、今回の映畫もその收獲の一つであります。講演に、地方遊說に、あらゆる機會に利用し、その効果を發揮する樣努める積りであります。

茲に、この事業の爲に多大の後援を賜つた各位脚本募集等に就いて貴重なる誌上を提供せられた週刊朝日關係の方々に深甚の謝意を表すると同時に、今後尙この事業の爲に一層の御後援を期待する次第であります。

臨時總會

1 昭和11年2月22日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルヂングに於て臨時總會を開會す

1 出席者左の通會員19名

池田　實	板井　公威	浦　英之助
加田　安彦	北垣熊之介	貴寶院　隆
作間日出生	設樂　貞雄	清水　榮二
鈴木　孫市	田川忠之助	坪井　誠一
中西　六郎	羽原　德衛	本田　長次
保園　源三	松井清之助	矢野　藤一
吉本政次郎		

1 午後6時開會片岡會長缺席に付設樂副會長議長となり本日の總會は再度の招集に付定款により定數を問はず成立の旨を宣し議事に入る

議案第1號昭和11年度更生豫算の件

設樂議長より議事に付簡單なる說明あり詳細は原案により主計より只今說明させます依つて清水主計より詳細說明あり

次で議長より質問の有無を問ふ

羽原氏より本案よりも自分は經營難なる建築倶樂部を本協會に合併することは反對なり但し是非合併するとなれば之れ迄の如き大名式即ち華美とも言ふべき倶樂部は改善することの條件を附して同意するものなりと反對說ありしも議長及役員側の說明により了解せられたるも擧手により採決の結果原案賛成大多數にして本案は可決したり。

議案第2號　細則一部變更の件

細則中「第四條」を「第四條ノ一」と變更し其次に下記の條項を追加すること

第四條ノ二　本會ハ有益ナル事業ヲ行フ爲幹事會ヲ設置スルコトヲ得

幹事ハ常務會ノ詮衡ヲ經テ會長之ヲ指名シ幹

事長ハ幹事中ヨリ之ヲ互選ス
幹事長ハ幹事會ヲ整理ス
貴衆院氏の幹事會の内容、委員會と幹事會との區別幹事會の仕事の範圍等の質問あり議長、主記、主計の説明あり
次に本田氏の幹事會規定の質問之に對する主記の規定朗讀あり議事進行捗らす
是に於て池田氏の本案賛成説あり依つて議長は採決する旨を宣言し擧手により賛否の數を採りたる結果本案賛成者大多數にして原案可決す
1 次て議長より本總會議事錄代表署名者を次の2氏に指名依頼し承諾を得たり
浦　英之助氏　　作間日出生氏
1 尙議長より本日の總會は之にて閉會する旨宣言あり解散す時に午後7時30分

法制委員會　（第1回）

時　　2月22日午後7時40分—9時10分
所　　協會倶樂部室
出席者　委員長　池　田
幹　事　松　井
委　員　板　井

協議事項
1 市街地建築物法令の改訂增補をなし第6版を出版すること
1 建築線指定申請に對し總ての地主の承諾を要せざる樣に取扱ひ得る樣規定若は取扱方を官廳に進言すること

材料委員會　（第1回）

時　　2月25日午後6時30分—8時30分
所　　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　高　橋
幹　事　松久保
委　員　楠瀨　作間　高岡

協議事項
1 木材市場品寸法規格案の實施促進方につき會長に建議すること
1 セメント防水劑に就いて調査研究すること

災害調査委員會　（第1回）

時　　2月26日午後7時45分－9時30分
所　　協會倶樂部室
出席者　淺野　龜井　黒田　篠原　玉置　鳥井
波江　内藤　宮脇　矢田　山口　山田
渡部

協議事項
1 委員長及幹事の互選を行ひ下記の通當選
委員長　波江悌夫氏
幹　事　黒田　茂氏
同　　玉置豐次郎氏
1 編輯委員及分擔を下記の通決定
波江委員長　（編輯委員長）
黒田幹事　（近　　縣）
玉置幹事　（水害、統計）
淺野委員　（工場、獨立塔）
龜井委員　（學　　校）
篠原委員　（社寺、古建築）
中島委員　（緒論、結論）
山口委員　（輿　　論）
矢田委員　（都市設備編 住宅其他の建築）

都市武裝促進委員會　（第1回）

時　　2月27日午後7時25分—9時15分
所　　協會倶樂部室
出席者　池田　清水　鳥井　中澤　安井

協議事項
1 委員長及幹事互選の結果下記の通決定す
委員長　池　田　　實氏
幹　事　中澤誠一郎氏
同　　鳥　井　　信氏
1 今年度行ふべき事業計畫案
イ、防火地區の完成を促進すべき方法及其對策
ロ、重要都市巡廻講演
ハ、講演放送
ニ、簡單なる「パンフレツト」の作成
ホ、共同建築の調査及奬勵
ヘ、法令の改正

住宅委員會　（第2回）

時　　2月28日午後6時10分－8時
所　　協會倶樂部室
出席者　委員長　石　川
幹　事　伊藤　矢田
委　員　荒木　岡田　貴賓院
玉置　中野　宮脇

協議事項
1 家相に關する研究をなし其文献の蒐集に付協議す

常　務　會　（第5回）

時　3月2日午後5時5分—6時
所　協會倶樂部室
出席者　理　事　片岡　會長　安井副會長
常　務　北垣　主記　中澤　主記
中西　主記　内藤　主記
清水　主計　新名　編輯
島田　編輯　本多　編輯
堀口　編輯

議　事
1 3月例會に關する件
2 法制委員會より市街地建築物法令第6版出版に關し具申の件
3 災害强度委員會より委員3名增員方の件
4 災害强度委員會より地震調査現地出張に付旅費要求の件
5 材料委員會より木材市場品寸法規格案に關し經過照會の件
6 博多築港記念大博覽會土木建築館へ參考品貸與の件
7 近代建築畫譜卷末へ無料廣告の件
8 會員詮衡
9 編輯係雇採用に關する件
10 庶務細則一部變更に關する件

報　告
1 映畫作製費中間報告

災害調査委員會　（第2回）

時　3月3日午後6時—9時
所　協會倶樂部室
出席者　幹　事　黒田　玉置
委　員　淺野　龜井　佐野　篠原
中島　山田

協議事項
1 原稿整理の上拔書並に製版に着手すること

法制委員會　（第2回）

時　3月11日午後6時40分—9時10分
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　池　田
幹　事　松　井
委　員　板　井　本　田

協議事項
1 市街地建築物法令第6版出版に付編輯上の打合せ
1 建築物に關する法令施行に對する建議案の作製
1 建築に關する法令規定に基く各種統計の蒐集
1 建築に關する制度、法令、規定の社會的影響の調査

材料委員會　（第2回）

時　3月12日午後6時40分—9時5分
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　高　橋
幹　事　松久保
委　員　楠瀬　作間　高岡　道田

協議事項
1 木材市場品寸法規格案實施促進方に付會長に具申したるに對し常務會より其方法に付諮問あり之に對する回答案を協議
1 セメント防水劑に付其材料表を作成し各委員に配布し不足事項を調査すること

住宅委員會　（第3回）

時　3月13日午後6時—6時30分
所　建築材料陳列場
出席者　委員長　石川
幹　事　伊藤　矢田
委　員　荒木　新名　玉置　宮脇

協議事項
1 家相研究に對する參考書目錄を下記の通り作成蒐集すること
イ、方鑑大全
ロ、樂地準則
ハ、三才精義（天地人）
ニ、住宅の設計（主として家相の點から）

三　月　例　會　（講演會）

時　3月13日午後6時50分—8時30分
所　協會倶樂部室
出席者　田川忠之助氏外58名
1 午後6時50分片岡會長講演者を紹介の上一場の挨拶を述ぶ
1 次て講演者下記演題の下に約1時間餘の講演あり
地震の話
地震研究所　齋田時太郎氏
1 講演後質疑應答より中澤主記一同を代表して謝辭を述べ一同拍手を以て盛會裡に午後8時30分解散す

常　務　會　（第6回）

時　3月16日午後6時—8時
所　協會倶樂部室

出席者　理　事　安井副會長
　　常　務　北垣　主記　中澤　主記
　　中西　主記　作間　主計
　　清水　主計　島田　編輯
　　堀口　編輯

議　事
1 春季大會に關する件
2 3月例會講演者に對する謝禮の件
3 塗裝競技會審査員依囑の件
4 材料委員會より木材市場品寸法規格案實施促進に關する件回答
5「建築學研究」に關する件
6 會員詮衡
7 其他

報　告
1 2月分會計報告
1 博多築港博覽會に物品貸與の件

災害調査委員會　（第3回）

時　3月17日午後6時30分―8時30分
所　建築材料陳列場
出席者　委員長　波江
　　幹事　黒田
　　委員　中島　矢田

協議事項
1 原稿に付整理をなす

會員動靜

入會者

會員

下畑春太郎君　府下柏原町市村366（建築工務所）
弓達　修君　尼崎市東櫻木町144鹽田方（大阪市役所校園建設所）
石崎　卯藏君　府下豐中町新免1221（大阪帝大營繕課長）
田中　秀彦君　府下北河内郡九箇莊村下神田（大阪府建築課）
清水　清範君　天王寺區眞法院町11本田菊市方（大阪府建築課）
松森　修太君　旭區北清水町895河野益夫方（大阪府建築課）
辻　卯藏君　住吉區松虫通1ノ43角屋方（大阪市臨時校園建設所）
村山　三郎君　旭區新森小路北1ノ68（大阪市臨時校園建設所）
和田治郎市君　普通贊助員より變格
岸田　吉彦君　府下貝塚町字海塚稻本國雄方（大日本紡績株式會社貝塚工場）
佐藤　正二君　旭區野江49（横河工務所）
阪下　圭彌君　西宮市石在町36（西宮酒造株式會社營繕課）
清水　憲吾君　住吉區阿倍野筋8ノ88（橋本建築事務所）
須崎　幸次君　西成區粉濱本町4ノ66（東洋紡績株式會社營繕課）
竹花　末春君　市外吹田町3322（大阪市臨時校園建設所）
西崎辰之助君　京都市東山區山科廚子奥矢倉町
曳野　與藏君　北澤上江町6ノ50澤上江アパート（横河工務所）
三島　剛君　神戸市林田區池田上町明月館内（神戸市役所營繕課）
南　喜巧君　東區餌差町205（橋本勉建築事務所）
吉川　善彌君　旭區生江町712（戸田組）

地方會員

永澤　龍雄君　東京市豐島區巢鴨町1ノ8佐藤明方（石本建築事務所）
岩城　種三君　富山縣射水郡大門町錦町裏通リ合資會社勝呂組）
持田　亮治君　富山縣射水郡大門町呉羽紡績株式會社大門工場建築場（呉羽紡績株式會社建築係）
西田　義雄君　普通贊助員より變格

特別贊助員

小松　四郎君　普通贊助員より變格
菅谷　六郎君　普通贊助員より變格
板谷　厚志君　旭區森小路町83（工事資料社）
岩橋　省吾君　普通贊助員より變格
岩元　熊雄君　普通贊助員より變格
坂本　一男君　住吉區桑津町13（岩元工業株式會社）
原田　千歳君　普通贊助員より變格
横田喜一郎君　住吉區住吉町1381（株式會社工英社）
杉浦　重彦君　兵庫縣川西町雲雀丘（住友合資會社）

普通贊助員

原田彦太郎君　京都市中京區姉小路通太平通西入

東月光町（建築請負業）
奈良　久三君　北區善源寺町5ノ13(大阪臨時校舍建設所)
吉川　修一君　名古屋市中區下筏島町52
辻本　嘉男君　北區天滿橋筋2ノ30(荻田工務店)
川本隆之助君　神戸市兵庫區水木通8ノ9（神戸中島組）
河津　乙松君　米子市道笑町2丁目（米子保線事務所）
鈴木　　隆君　神戸市兵庫區松本通3ノ105（鴻池組）
田中　一郎君　神戸市須磨區北町3ノ1
竹中幾太郎君　東淀川區中津南通2ノ20保田ヌエ方(岩瀨工務店)
遠山　信造君　神戸市兵庫區湊町1ノ285（三菱重工業株式會社神戸造船所）
中西　武治君　神戸市葺合區生田町4ノ22(長谷部竹腰建築事務所)
船木　一郎君　府下池田町597（大阪市役所營繕課）
鹿田　久男君　神戸市林田區池田上町106（竹中工務店）
木村　　久君　神戸市湊區菊水町1ノ53
寺井　廣義君　神戸市葺合區二宮町4丁目8ノ15
和田　敏男君　神戸市灘區中原通5ノ15

退　會　者

會　員
岩根　藤一君
普通賛助員
河村利一郎君

轉　居　轉　動

會　員
飯干　君美君　北區善源寺町3ノ46小屋畑方
神前　良治君　大正區南恩加島町1ノ88春本鐵工所內
高村　　勝君　府下中河內郡彌刀村小若江341(東畑建築事務所)
米田光太郎君　旭區今福町53（電旭2968）
小泉嘉四郎君　住吉區阿倍野筋3丁目阪南莊
菅　　陸二君　住吉區住吉町1375交樂莊
大嶋太一郎君　堺市戎島2丁30(中西商店建築部)
橋岡　　昇君　府下吹田町札場712
池田　訓章君　兵庫縣武庫郡鳴尾村上鳴尾85
寺西　武吉君　住吉區山阪町1ノ19
八尾　良藏君　株式會社木村組（電南6006）
横山　章雄君　京都市上京區今出川通寺町西入ル三筋目上ル下塔之段町510

地方會員
守谷　　茂君　岡山縣倉敷市旭町509
北村　禎庸君　名古屋市南區昭和町8矢作工業株式會社工事場鴻池組作業場
南　　信君　新京浪速町2ノ4
伊藤　一市君　高知市江ノ口愛宕町伏石1009
大谷　　勳君　唐津市大名小路
吉原侑三郎君　鹿兒島市山下町1番地淸水組出張所
志岐　善吉君　八幡市東山町1ノ1113
永田庄右衛門君　滿洲吉林六經路鐵路代用局宅82

終身賛助員
上瀧　辨吉君　住吉區田邊東之町6ノ1

普通賛助員
前田佐太郎君　名古屋市東區德川町6ノ31
大倉　荒吉君　西淀川區浦江北1ノ37金蘭會女學校建築場大林組出張所
板垣　新平君　神戸市神戸區下山手通4丁目番外42畑田方
山原　正美君　西區靱北通1ノ8岩元工業株式會社
村田　繁規君　京都市東山區本町15丁目正覺 758ノ19
井上　　實君　天王寺區大道5ノ59
中橋　鐵二君　東成區南中濱町1ノ53
西村　　勳君　神戸市須磨區戶崎通2ノ166
山邊　政吉君　新京特別市昌平胡同166ノ6
田中新之助君　京都市中京區夷川通河原町西入田中工務店

社團法人 日本建築協會役員及委員（昭和十一年）

役員

常務會（定例日 第一第三月曜日）

會長　片岡安
副會長　設樂貞雄
副會長　安井武雄
監事　津田敏雄
監事　松本禹象
主記　北垣熊之介
主記　阪口芳三郎
主記　中澤誠一郎
主記　中西六郎
主記　內藤亮一
主計　加田安彥
主計　作間日出生
主計　清水榮二
編輯　新名種夫
編輯　島田良馨
編輯　本多正道
編輯　堀口甚吉

評議員會

評議員　今林彥太郎
同　猪瀨幸太郎
同　小川陽吉
同　大倉三郎
同　岡田孝男
同　片岡安
同　河合貞一郎
同　加田安彥
同　北垣熊之介
同　久保田種吉
同　黑田茂
同　兒玉廣太郎
同　阪口芳三郎
同　酒井勇三郎
同　作間日出生
同　設樂貞雄
同　清水榮二
同　新名種夫
同　島田良馨
同　志岐善吉
同　鈴木金太郎
同　園部泰文
同　谷民藏
同　瀧澤眞弓
同　鳥井信
同　鳥井捨藏
同　中澤誠一郎
同　中西六郎
同　中村義雄
同　內藤亮一
同　藤本賢太郎
同　本多正道
同　堀口甚吉
同　松井清之助
同　松浦松之助
同　三浦茂
同　安井武雄
同　保田虎太郎
同　山口久五郎
同　山田誠
同　吉本政次郎
同　渡實幸

委員

建築材料陳列場幹事會（定例日 第二月曜日）

幹事長　岡部顯則
幹事　今林彥太郎
同　浦英之助
同　北垣熊之介
同　高橋榮治
同　中西六郎

俱樂部室幹事會

幹事長　中西六郎
幹事　伊藤和夫
同　浦英之助
同　作間日出生
同　須賀藤五郎
同　三島圓四郎

都市計畫委員會

委員長　鳥井信
幹事　加藤善吉
同　福知秀夫
委員　龜井幸次郎
同　村井進
同　吉田信武

法制委員會

委員長　池田實
幹事　今林彥太郎
同　松井清之助
委員　板井公威
同　津田敏雄
同　本田林八

教化委員會

委員長　永澤毅一
幹事　篠原太郎
委員　伊東恒治
同　高木太作
同　姬野武
同　堀口甚吉

材料委員會

委員長　高橋榮治
幹事　松久保敬一
委員　楠瀨澈
同　作間日出生
同　高岡興三吉
同　道田泰治郎

災害强度委員會

同　谷　　隆　夫
同　坪　井　誠　一
同　中　澤　誠　一　郎
同　丹　藤　良　雄
同　姫　野　　武
同　富　士　岡　重　一
同　松　本　儀　八
同　宮　本　長　治
同　山　脇　友　三　郎

建築年鑑編輯委員會

委員　今　林　彦　太　郎
同　伊　東　恒　治
同　小　笠　原　祥　光
同　岡　田　孝　男
同　龜　井　幸　次　郎
同　桐　本　楠　雅
同　楠　瀬　　澈
同　新　名　種　夫
同　島　田　良　馨
同　篠　原　太　郎
同　高　橋　榮　治
同　棚　橋　　諒
同　瀧　澤　眞　弓
同　田　中　彌　一
同　鳥　井　捨　藏
同　永　澤　毅　一
同　中　井　新　一　郎
同　西　村　安　彦
同　坂　　靜　雄
同　藤　井　厚　二
同　藤　原　義　一
同　本　間　乙　彦
同　本　多　正　道
同　堀　口　甚　吉
同　松　井　清　之　助
同　宮　田　秀　穗
同　森　田　慶　一
同　森　　忠　一
同　横　山　章　雄
同　吉　田　信　武
同　渡　部　圭　吾
同　和　田　　登

同　波　江　悌　夫
同　村　野　藤　吾
同　安　井　武　雄

災害調査委員會

委員長　波　江　悌　夫
幹事　黒　田　　茂
同　玉　置　豊　次　郎
委員　淺　野　新　一
同　龜　井　幸　次　郎
同　桐　本　楠　雅
同　佐　野　俊　三
同　篠　原　太　郎
同　谷　　隆　夫
同　鳥　井　捨　藏
同　中　島　智　喜
同　內　藤　亮　一
同　本　多　正　道
同　松　井　清　之　助
同　宮　脇　晴　美
同　矢　田　鐵　藏
同　山　口　儀　三　郎
同　山　田　　誠
同　渡　部　圭　吾

會員委員會

委員　今　林　彦　太　郎
同　池　田　宮　彦
同　池　田　谷　久　吉
同　大　倉　三　郎
同　岡　部　顯　則
同　川　口　一　二
同　籠　田　定　憲
同　木　村　寬　一
同　古　宇　田　　實
同　小　西　一　良
同　酒　井　勇　三　郎
同　澁　谷　五　郎
同　島　田　良　馨
同　高　木　太　作

委員長　波　江　悌　夫
幹事　黒　田　　茂
委員　青　柳　貞　世
同　淺　野　新　一
同　佐　野　俊　三
同　篠　原　太　郎
同　谷　　隆　夫
同　鳥　井　捨　藏
同　中　井　新　一　郎
同　中　島　智　喜
同　山　田　　誠
同　矢　田　鐵　藏
同　渡　部　圭　吾

設備委員會

委員長　小　笠　原　祥　光
幹事　增　井　敏　克
同　村　田　小　一
委員　西　村　安　彦

住宅委員會

委員長　石　川　純　一　郎
幹事　伊　藤　和　夫
委員　矢　田　鐵　藏
同　荒　木　正　已
同　岡　田　孝　男
同　貴　賓　院　　隆
同　新　名　種　夫
同　玉　置　豊　次　郎
同　中　野　順　次　郎
同　宮　脇　晴　美

都市武裝促進委員會

委員長　池　田　　實
幹事　鳥　井　　信
同　中　澤　誠　一　郎
委員　小　笠　原　祥　光
同　清　水　榮　二
同　竹　腰　健　造
同　高　橋　榮　治

編輯後記

◆3月號の編輯を終つてからこの號の後記を書く今日までの1箇月は、我國に取つて何十年かに値する、歴史的な期間であつた。

◆この期間に起つた事件を契機として、我國は政治、經濟、教育等のあらゆる部門に渉つて急角度の變轉が豫想せられるからである。

◆各種産業機構の統制、對外防備の强化等に伴つて、都市計畫上、建築技術上にも新しい多くの問題が、齎らされるに相違ない。

◆航空航、豫備飛行場の增設、不良住宅地區の改善等は、既に實現の可能性を以て新聞紙上に取扱はれて居る。

◆この時この際、その設立の趣旨より見ても本協會の使命は甚だ重且大なりとは言はねばならない。

◆扨、本月號は具體的な題目を掲げず、都市及建築に關する時事問題に就いて、夫々の立場に於ける意見を徵した所、玉置豊次郎氏、大倉三郎氏、田中彌一氏、大内秀一郎氏、南信氏、川勝健二氏等久しく稿に接しなかつた方々、及初めて本誌の爲に稿を寄せられた方々の記事を得たことは稍もすれば執筆者の顔振のきまり勝な本誌に多く清新な氣を與へるものである。

◆本月號から、本文のほかに研究及調査報告の欄を設け、卷末挿繪の部分を、都市計畫欄及新建築欄の2つに分けることとした。

◆5月號からはその上に建築隨想欄を設けて、都市、建築等に關する短評を載せ度いと思ふ、御投稿を乞ふ次第である。

◆5月號は住居に關する特輯號の豫定である。都市の住居問題、住宅經營、住宅政策、住宅に關する法令、經營の設備、住宅一般等に關する記事を聚錄する筈である。原稿を依頼した所大に手應へがあつたから、5月號は相當に期待せられていいと思ふ。

（新名種夫）

建築と社會

第19輯第4號

毎月1回1日發行　定價　1册 .50圓(郵稅2錢)　12册 6.00圓(同 24 錢)

昭和11年3月25日印刷　昭和11年4月1日發行

發行・編輯　小板常男
印刷人
大阪市北區朝日ビル日本建築協會内

印刷所　大阪活版所
大阪市東區内淡路町1丁目7番地

發行所　財團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪 39.975番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀 2440番
振替口座大阪 2084番

禁轉載

本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

普通	1頁	1回	15.00
普通	1/2頁	1回	8.00
普通(前附第1頁)	1頁	1回	45.00
普通(前附第2頁)	1頁	1回	40.00
普通(後附第1及最終頁)	1頁	1回	25.00
アート(中挿)	1/2頁	1回	20.00
表紙2	1頁	1回	60.00
表紙3	1頁	1回	45.00
表紙4	1頁	1回	80.00
建築事務所錄	1欄	1回	1.50
(建築關係業者案内)	1欄	1回	5.00

廣告掲載御申込は本會直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

近日發行

第六版

（昭和十一年四月改訂）

美麗表紙
本綴
上質紙印刷
菊判截版

市街地建築物法令

日本建築協會版

本書は現行の**市街地建築物法を始め本年改正實施された“市街地建築物法施行令”・“同法施行規則”・“同法施行細則”**（大阪府、兵庫縣、京都府、警視廳〔東京府〕、神奈川縣、愛知縣）等々**その他“同法關係法令”**を全部網羅編纂したるものである。本書はその性質上校閲に最も力を費し關係官廳諸技師の援助を受けて出來得る限りの正確を期した。表紙は堅牢にして本綴となし又上質紙を使つて印刷の鮮明を計りその裝幀の美麗と携帶の至便とは多大の絶賛を博することゝ確信す。

建築家、建築業者、建築學生其他苟しくも建築に關係ある者の必要欠くべからざる定本として敢て本書を薦む。

●定價50錢　送料6錢●

日本建築協會發行

大阪.北區.朝日ビル4階
振替口座大阪39975

賣捌　九善本支店
柳々堂書店

各府縣改正市街地建築物法施行細則

神奈川縣廳

神奈川縣令第二十九號

市街地建築物法施行細則左ノ通改ム

昭和十年七月八日

神奈川縣知事　石　田　馨

市街地建築物法施行細則

第一章　總　則

第一條　本令ニ於テ法ト稱スルハ市街地建築物法、施行令ト稱スルハ市街地建築物法施行令、施行規則ト稱スルハ市街地建築物法施行規則、耐火構造規則ト稱スルハ市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則ヲ謂フ

第二條　法、施行令、施行規則、耐火構造規則又ハ本令ニ依リ提出スル申請書、願書又ハ届書ハ其ノ建築線又ハ建築物ノ所在地所轄警察署長ヲ經由スベシ但シ本令第四十七條第三項ニ依リ提出スル届書ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　法、施行令、施行規則、耐火構造規則又ハ本令ニ依リ申請、願出又ハ届出ヲ爲ス者法人ナルトキハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名ヲ記載スベシ申請書、願書又ハ届書ニ記載スベキ者法人ナルトキ亦同ジ

第二章　地　域

第四條　施行令第一條第十號ニ依リ指定スル建築物左ノ如シ但シ住居ノ安寧ヲ害スル虞ナシト認ムルモノ又ハ公益上已ムヲ得ズト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　左ニ揭グル事業ヲ營ム工場

イ　鋼板ノ槌打加工

ロ　木材ノ挽割、機織、燃糸、組物、編物又ハ裁縫ニシテ常時使用スル原動機馬力數ノ合計一ヲ超過スルモノ

二　舞踏場

第三章　建築線及壁面ノ位置

第五條　法第七條但書ノ規定ニ依リ建築線ヲ指定スルコト左ノ如シ

一　幅員六尺以上九尺未滿ノ通路ニ在リテハ其ノ中心線ヨリ各々四尺五寸ヲ後退シタル線ヲ以テ建築線トス但シ河川、斷崖、鐵道敷地ノ類ニ接シテ竝行スルモノニ在リテハ其ノ境界線及之ヨリ九尺ヲ距ツル線ヲ以テ建築線トス

二　道路又ハ通路ノ街角ニ在リテハ法第七條又ハ前號ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號ニ依リ建築線ノ隅角ヲ等邊ニ剪除シタル線ヲ以テ建築線トス但シ隅角百二十度以上ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

イ　建築線間ノ距離夫々4メートル未滿ノトキハ剪除長1.5メートル

ロ　建築線間ノ距離夫々4メートル以上ニシテ6メートル未滿ノトキハ剪除長2メートル

保安上、交通上又ハ市街ノ計畫上必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ別ニ建築線ヲ指定ス

第六條　建築線ノ指定（變更又ハ廢罷）ヲ願出ムトスル者ハ現況圖及計畫圖ヲ添附シ別記樣式第一號ニ依ル願書ヲ提出スベシ但シ輕微ナルモノニ在リテハ摘要圖ヲ以テ現況圖及計畫圖ニ代用スルコトヲ得

前項ノ願出ニ付支障ナシト認ムルトキハ建築線ヲ指定(變更又ハ廢罷)ス

第七條　前條第一項ノ現況圖ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ（縮尺六百分ノ一、千二百分ノ一又ハ三千分ノ一）

一　關係地區內ノ道路、通路及既存建築線ノ位置

二　既存、工事中及設計アル建築物ノ位置

三　河川、斷崖、下水、側溝等ノ位置

四　高低ノ差著シキ場合ニ在リテハ等高線

第八條　第六條第一項ノ計畫圖ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ（縮尺六百分ノ一、千二百分ノ一、又ハ三千分ノ一）

一　關係地區內ノ道路、通路及建築線ノ位置

二　下水竝側溝ノ位置（暗渠、開渠ヲ區分シ流水方向ヲ指示スベシ）

三　道路及通路ノ構成方法及關係建築線ノ標示方法

四　關係土地ノ地名、番號竝境界線

五　關係土地ノ所有權者又ハ管理人ノ連署（連署ヲ得ラレザルトキハ其ノ理由ヲ附記スベシ）

第九條　第五條第二項又ハ第六條第二項ノ規定ニ依リ建築線ヲ指定（變更又ハ廢罷）シタルトキハ之ヲ告示ス但シ輕微ナリト認ムルモノニ在リテハ關係土地ノ所有權者又ハ管理人ニ對スル通知ヲ以テ告示ニ代フルコトアルベシ

第十條　建築線ノ指定（變更又ハ廢罷）ヲ願出タル者ハ前條ノ告示又ハ通知前第八條ニ揭グル事項ニ變更アリタルトキハ關係圖書ヲ添附シ五日以內ニ其ノ旨屆出ヅベシ

第十一條　建築線ノ指定（變更）アリタルトキハ其ノ指定（變更）アリタル日ヨリ三月內ニ關係土地所有權者ニ於テ石、煉瓦又ハ「コンクリート」ノ類ヲ以テ之ヲ標示スベシ但シ側溝其ノ他ニ依リ其ノ位置明カナルトキ又ハ土地ノ狀況ニ依リ標示シ難キトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル建築線ノ標識ヲ設置シタルトキハ當該官吏又ハ吏員ノ承認ヲ受クベシ之ヲ移動セムトスルトキ亦同ジ

第十二條　建築物ノ壁面ノ位置ヲ指定シタルトキハ之ヲ告示ス但シ輕微ナルモノニ在リテハ關係土地ノ所有權者又ハ管理人ニ對スル通知ヲ以テ告示ニ代フルコトアルベシ

第四章　建築物ノ敷地及高

第十三條　路地狀部分ニ依リ道路敷地ニ接スル建築物ノ敷地ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニ在リテハ施行規則第四條第一項ノ２メートルヲ1.5メートルトス但シ土地ノ狀況ニ依リ支障アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　二戶建以內ノ住家ノ用ニ供スルモノナルコト

二　路地狀部分ノ奥行10メートル未滿ノモノナルコト

第十四條　施行令第十條ノ規定ニ依リ別段ノ定ヲ爲スコト左ノ如シ

一　建築物ノ敷地ニシテ公園、廣場、河、海ノ類ニ接スルモノニ在リテハ其ノ幅員又ハ對側迄ノ距離ヲ施行令第七條ノ高ノ限度トス但シ土地ノ狀況ニ依リ支障アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二　建築物ノ敷地ニシテ前面道路ノ對側ニ公園廣場、河、海ノ類アルモノニ在リテハ其ノ幅員又ハ對側迄ノ距離ト前面道路幅員トノ和ヲ超エザル限度ニ於テ施行令第七條第一項ノ一倍四分ノ一ヲ二倍ニ同項但書ノ一倍二分ノ一ヲ二倍二分ノ一トス

三　建築物ノ敷地ニシテ其ノ地盤面ガ前面道路ヨリ１メートル以上高キモノニ在リテハ其ノ地盤面ノ高ノ二分ノ一ヨリ0.5メートル低キ位置ヲ以テ前面道路ノ位置ト看做ス

四　建築物ノ敷地ニシテ高低ノ差１メートルヲ超ユル二以上ノ道路ニ接スルモノニ在リテハ一ノ道路ノ境界線迄ノ水平距離ガ其ノ道路幅員ノ一倍二分ノ一以內ニシテ且25メートル以內ノ區域ノ外ニ在ル建築物各部分ノ高ニ付テハ制限ノ緩ナル道路ヲ前面道路ト看做ス

五　建築物ノ敷地ニシテ道路ノ終端ニ位スルモノニ在リテハ其ノ道路幅員ヲ前面道路幅員ト看做ス

建築物ノ敷地ニシテ前項各號ノ一ニ該當スルモノニ在リテハ土地ノ狀況又ハ建築物ノ用途若ハ構造ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ前項各號ノ規定ニ拘ラズ其ノ制限ヲ緩和スルコトアルベシ

第十五條　施行令第十四條但書ノ規定ニ依リ指定スル角地其ノ他ノ地區左ノ如シ但シ土地ノ狀況ニ依リ支障アリト認ムルモノヲ除ク

一　左ノ要件ヲ具備スル建築敷地

イ　幅員６メートル以上ニシテ其ノ和14メートル以上ノ二ノ道路ニ接スルコト但シ道路ノ對側ニ公園、廣場、河、海ノ類アルトキハ幅員ノ限度ヲ低下スルコトアルベシ

ロ　周邊五分ノ二以上道路ニ接スルコト

二　公園、廣場、河、海ノ類ニ接スル建築物ノ敷地ニシテ前號ニ準ズト認ムルモノ

第五章　建築物ノ構造設備

第一節　一般構造設備

第十六條　汲取便所ニ在リテハ窓其ノ他ノ開口部ヲ金網張ト爲スカ又ハ之ニ代ルベキ適當ナル防蠅設備ヲ爲スベシ但シ土地ノ狀況又ハ構造設備ニ依リ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條　井戶ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ土地ノ狀況又ハ構造設備ニ依リ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　閉鎖式又ハ之ニ代ルベキ裝置ト爲スコト

二　導水管及周壁ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ構成シ地盤面下３メートル以上ノ深ニ達セシムルコト

第十八條　建築物ノ防鼠設備ハ左ノ規定ニ依ルベ

シ但シ建築物ノ用途若ハ構造又ハ土地ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルモノ又ハ一時ノ使用ニ供スル建築物ニシテ己ムヲ得ズト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　外壁ニハ石、煉瓦又ハ「コンクリート」ノ類ヲ以テ築造セル基礎ヲ設クルコト

二　天井裏若ハ床下ニ於ケル換氣孔又ハ浴室、臺所其ノ他ノ流口ニハ簀鐵又ハ金網ヲ設置スルコト

三　軒面戸其ノ他ノ空隙ハ板又ハ漆喰ノ類ヲ以テ塡塞スルコト

第十九條　物干、物見臺等屋上工作物ニシテ其ノ高4メートル又ハ其ノ面積10平方メートルヲ超過スルモノハ不燃材料ヲ以テ構成シ又ハ被覆スベシ但シ土地ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條　一棟ノ建築物ニシテ建築面積夫々330平方メートル以上ノモノノ間隔3メートル未滿ナルトキハ其ノ對向壁ヲ準耐火構造又ハ之ト同等以上ノ耐火的効力ヲ有スルモノト爲スベシ但シ建築物ノ用途、構造又ハ配置ニ依リ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條　長屋ニ在リテハ各戸ノ境界ハ地盤面上ヨリ屋根面下ニ達スル迄塗壁、金屬板其ノ他防火上有効ナルモノヲ以テ區劃スベシ

第二十二條　汽罐、營業用風呂竈其ノ他多量ノ燃料ヲ使用スル設備ニ附屬スル煙突ニ在リテハ、別段ノ定ヲ爲サザル限リ其ノ高之ニ接着スル地盤面ヨリ度リ15メートル以上其ノ口徑25センチメートル以上ト爲スベシ但シ燃料ノ種類、量及土地ノ狀況ニ依リ其ノ增加ヲ命ジ又ハ其ノ低下ヲ許可スルコトアルベシ

第二十三條　防火地區內ニ建築スル建築物ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ施行規則第百十九條乃至第百三十五條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

一　工事用ノ足代、棧橋、下小屋、材料置場、監督事務所ノ類

二　建築工事期間內ノ使用ヲ目的トスル假營業所、假事務所ノ類

三　其ノ他一時ノ使用ニ供スル建築物ニシテ己ムヲ得ズト認ムルモノ

第二節　構造强度

第二十四條　建築物ノ强度計算ニ於ケル地震ノ水平震度ハ地盤面上高15メートルを超過スル煙突物見塔、廣告塔、無線電信用電柱ノ類ニ在リテハ0.15以上ト爲スベシ

前項ノ水平震度ハ建築物ノ形狀又ハ土地ノ狀況ニ依リ其ノ增加ヲ命ジ又ハ其ノ低下ヲ許可スルコトアルベシ

第二十五條　强度計算ニ適用スル風壓力ノ最小限ハ建築物ノ垂直平面1平方メートルニ付左ノ如シ

一　高10メートル以下ノ建築物ニ在リテハ100キログラム

二　高10メートルヲ超過スル建築物ニ在リテハ120キログラム

三　高15メートルヲ超過スル煙突、物見塔、廣告塔、無線電信用電柱ノ類ニ在リテハ200キログラム

前項ノ風壓力ハ建築物ノ形狀又ハ土地ノ狀況ニ依リ其ノ增加ヲ命ジ又ハ其ノ低下ヲ許可スルコトアルベシ

第二十六條　十二月ヨリ二月ニ至ル期間內ニ施工スル「コンクリート」ニ付テハ施行規則第百二條ノ二第三項ノ規定ノ適用ニ關シ其ノ應壓强度ヲ十分ノ二以內低減ス

第六章　工事執行

第一節　建築手續

第二十七號　施行規則第百四十三條第一項第五號ニ依リ指定スル建築物左ノ如シ

一　罹災地ニシテ別ニ指定スル區域內ニ於テ罹災後三月內ニ建築スルモノ

二　學校、病院、集會場、常設展覽會場、百貨店、勸工場、劇場、活動寫眞館、演藝場、觀物場、舞踏場、公衆浴場、共同住宅、工場、自動車車庫、市場、倉庫業ヲ營ム倉庫、危險物品ノ處理場若ハ貯藏所、火葬場、產穢物處理場、屠場、死畜處理場又ハ塵芥若ハ汚物ノ處理場

三　建築面積660平方メートル又ハ床面積1000平方メートル以上ノモノ

第二十八條　施行規則第百四十四條ノ二ノ規定ニ依リ別段ノ定ヲ爲スコト左ノ如シ

一　施行規則第百四十三條第一項第二號ノ內本令第二十三條第一號又ハ第三號ニ該當スルモノヲ除ク

二　施行規則第百四十三條第一項第三號ノ內其

ノ高4メートル（煙突ノ類ニ在リテハ9メートル）且其ノ床面積35メートルヲ超過セザルモノヲ除ク

三　施行規則第四十四條第一號及第二號ノ內左ノ各號ニ該當スルモノヲ除ク

イ　木造建築物ニシテ其ノ高4メートル且其ノ床面積10平方メートルヲ超過セザルモノ

ロ　木造ニ非ザル建築物ニシテ其ノ高2メートル且其ノ床面積10平方メートルヲ超過セザルモノ

ハ　工事用ノ足代、棧橋、下小屋、材料置場、監督事務所ノ類

ニ　一季節ノ使用ニ供スル假設建築物

ホ　物干、物見臺等屋上工作物ニシテ其ノ高4メートル且其ノ面積10平方メートルヲ超過セザルモノ

ヘ　罹災地ニ建築スル假設建築物ニシテ罹災後三月內ニ除却スルモノ

第二十九條　施行規則第百四十三條ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ摘要書、設計書及建築圖面ヲ添附シ別記樣式第二號ニ依ル建築申請書正副二通ヲ提出スベシ

他ノ法令ニ依リ知事ノ許可、認可又ハ承認ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ許可證、認可證又ハ承認證ノ寫ヲ添附スベシ但シ申請中ノモノナルトキハ其ノ申請者氏名及申請年月日ヲ附記スベシ

施行規則第百四十九條ノ二第一項ノ規定ニ依リ內務大臣ノ指定スル區域內ニ於テ建築物ヲ建築セムトスル場合ニ在リテハ第一項ノ設計書ハ之ヲ要セズ但シ施行規則第三章ノ規定ノ適用アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條　前條第一項の摘要書ニハ別記樣式第三號ニ依リ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　建築敷地ノ地名、番號

二　建築敷地ノ用途及面積

三　申請ニ係ル建築物及既存建築物ノ建築面積

四　申請ニ係ル建築物ノ建築要旨（要途、工事種別、構造種別、高、軒高及各階床面積ヲ明示スベシ）

五　起工期日及竣功期日

六　建築工事請負人、建築工事管理者、建築設計者及建築敷地所有權者ノ住所、氏名

七　特殊の建築物ニ在リテハ其ノ使用要旨（第二十七條第二號ノ內學校乃至共同住宅ニ在リテハ其ノ收容人員、工場ニ在リテハ其ノ製品ノ種類、作業ノ概要及原動機馬力數、自動車車庫ニ在リテハ其ノ室面積、市場乃至汚物處理場ニ在リテハ其ノ取扱品ノ種類、數量及處理狀態ヲ明示スベシ）

第三十一條　第二十九條第一項ノ設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ輕微ナル事項ヲ除ク

一　圖面ニ示シ難キ構造設備、材料ノ種類及寸法

二　鐵骨造、鐵筋「コンクリート」造ノ類ノ强度計算

三　油槽、水槽、汚物處理槽、昇降機及排水、換氣、消火、避難、避雷、煖房等ノ裝置ノ構造設備

第三十二條　第二十九條第一項ノ建築圖面左ノ如シ

一　配置圖（縮尺五十分ノ一、百分ノ一、二百分ノ一、三百分ノ一又ハ六百分ノ一）

方位、敷地ノ境界線、四隣道路ノ位置副員及公私ノ別、四隣建築線ノ位置及建築線間ノ距離、敷地地盤面ト道路面トノ高低、建築物、井戶、排水設備等ノ位置ヲ明示スベシ

二　各階平面圖（縮尺五十分ノ一、百分ノ一又ハ二百分ノ一）各室ノ用途及床面積、各居室ノ有効採光面積及天井高等ヲ明示スベシ

三　斷面圖（縮尺二十分ノ一、五十分ノ一、百分ノ一又ハ二百分ノ一）

建築物ノ高、軒高、階高、床高、基礎寸法及道路、建築線、隣接建築物等ノ位置ヲ明示スベシ

四　立面圖、基礎平面圖、各階床伏圖及小屋伏圖（縮尺五十分ノ一、百分ノ一又ハ二百分ノ一）

五　構造上主要ナル部分ノ詳細圖（縮尺十分ノ一又ハ二十分ノ一）

六　前條第三號ノ構造設備ノ圖面

前項ノ建築圖面ニ構造種別ヲ異ニスルモノアルトキ又ハ既存ノ建築物アルトキハ着色其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ區別スベシ

施行規則第百四十九條ノ二第一項ノ規定ニ依リ內務大臣ノ指定スル區域內ニ於テ建築物ヲ建築セムトスル場合ニ在リテハ第一項第三號乃至第六號ノ圖面ハ之ヲ要セズ但シ施行規則第百四十九條ノ二第二項ノ規定ニ依リ施行規則第三章ノ

規定ノ適用アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十三條　規模大ナル建築物又ハ特殊ノ用途ニ供スル建築物ヲ建築セムトスル場合ニ於テ設計書及建築圖面ヲ全部具備シ難キ事情アリト認ムルトキハ其ノ建築申請ニ付前二條ノ規定ノ一部ノ適用ヲ留保スルコトアルベシ

第三十四條　施行規則第百四十四條ノ届出ヲ爲サムトスル者ハ摘要書、設計書及建築圖面ヲ添附シ別記樣式第二號ニ依ル建築届書正副二通ヲ提出スベシ但シ木造平家建ニシテ建築面積35平方メートル以下ノモノニ在リテハ設計書ハ之ヲ要セズ

前項ノ場合ニ於テハ前五條ノ規定ヲ準用ス但シ木造建築物ニ在リテハ第三十二條第一項第三號乃至第六號ノ圖面ハ之ヲ要セズ

第三十五條　建築申請又ハ建築届ニ付特ニ必要ト認ムルトキハ前六條ノ規定ニ拘ラズ他ノ圖書ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第三十六條　建築申請ニ付支障ナシト認ムルトキハ申請書ノ副本ニ別記樣式甲號ニ依ル建築認可證印ヲ押捺シ建築主ニ交付ス

第三十七條　建築届ニ付支障ナシト認ムルトキハ建築届書ノ副本ニ別記樣式乙號ニ依ル建築届濟證印ヲ押捺シ建築主ニ交付ス

第三十八條　法、施行令、施行規則（第百四十三條ヲ除ク）、耐火構造規則又ハ本令ニ依リ許可、認可又ハ承認ヲ受ケムトスル者ハ關係圖書ヲ添付シ別記樣式第四號ニ依ル願書正副二通ヲ提出スベシ

法適用區域ノ設定若ハ變更、地域若ハ地區ノ指定若ハ變更其ノ他ノ場合ニ於テ施行令第二十六條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ現任地ニ建築スルヲ得ザルニ至リタル日ヨリ三十日内ニ願出ヅベシ

施行規則第百四十三條ニ依ル認可又ハ第百四十四條ニ依ル届出ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ建築申請書又ハ建築届書ニ第一項ノ許可、認可又ハ承認ヲ受ケムトスル事項ヲ併記シ第一項ノ願出ニ代フルコトヲ得

第一項ノ願出ニ付支障ナシト認ムルトキハ願書ノ副本ニ別記樣式丙號ニ依ル許可（認可又ハ承認）證印ヲ押捺シ建築主ニ交付ス

第三項ノ場合ニ於テハ本令第三十六條又ハ第三十七條ノ規定ニ依ル副本ノ交付アリタルトキハ第一項ノ許可、認可又ハ承認ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十九條　第三十六條ノ建築認可證ノ交付ヲ受ケタル建築工事竣功シタルトキハ別記樣式第五號ニ依ル竣功届書正副二通ヲ提出スベシ竣功セル部分ニ對シ建築物使用認可證ノ交付ヲ受ケムトスルトキ亦同ジ

前項ノ竣功届ニ付支障ナシト認ムルトキハ届書ノ副本ニ別記樣式丁號ニ依ル建築物使用認可證印ヲ押捺シ建築主ニ交付ス

第四十條　第三十七條ノ建築届濟證ノ交付ヲ受ケタル建築工事竣功シタルトキハ別記樣式第五號ニ依ル竣功届書正副二通ヲ提出スベシ

前項ノ竣功届ニ付支障ナシト認ムルトキハ届書ノ副本ニ別記樣式戊號ニ依ル建築工事竣功届濟證印ヲ押捺シ建築主ニ交付ス

第四十一條　建築申請又ハ建築届ヲ爲シタル建築物ニ付建築物使用認可證又ハ建築工事竣功届濟證交付前第三十條ノ摘要書（第一號、第五號乃至第七號ヲ除ク）第三十一條ノ設計書又ハ第三十二條ノ建築圖面ノ内容ヲ變更セムトスルトキハ施行規則第百四十三條又ハ第百四十四條ノ規定ニ準ジ建築申請又ハ建築届ヲ爲スベシ但シ輕微ナル變更又ハ建築認可證若ハ建築届濟證交付前ニ於ケル變更ニシテ當該官吏又ハ吏員ノ承認ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ建築申請又ハ建築届ニ關シテハ第二十九條乃至第三十八條ノ規定ヲ準用ス

建築申請又ハ建築届ヲ爲シタル建築物ニ付建築物使用認可證又ハ建築工事竣功届濟證交付前建築主（代理人）ノ住所、氏名又ハ第三十條第五號乃至第七號ノ事項ニ變更アリタルトキハ五日内ニ其ノ旨届出ヅベシ

第一項ノ規定ニ依ル建築申請書若ハ建築届書又ハ前項ノ規定ニ依ル届書ニハ其ノ建築物ノ建築認可又ハ建築届濟ノ番號竝年月日ヲ附記スベシ

第四十二條　建築認可證、建築届濟證又ハ許可（認可若ハ承認）證ノ交付ヲ受ケタル建築物ノ建築ヲ廢罷シタルトキハ五日内ニ別記樣式第六號ニ依ル廢罷届書ヲ提出スベシ

前項ノ届書ニハ交付ヲ受ケタル建築認可證、建築届濟證又ハ許可（認可若ハ承認）證ヲ添付スベシ

施行規則第百四十三條第一項第三號ノ建築物ヲ除却セムトスルトキハ三日前ニ除却工事仕様書ヲ添附シ前二項ノ規定ニ準ジ除却届書ヲ提出スベシ

第二節　工事監査

第四十三條　施行規則第百四十四條ニ依リ届出ヲ要スル建築物ニ付本令第三十七條ニ依ル副本交付前其ノ建築工事ニ着手セムトスルトキハ當該官吏又ハ吏員ノ承認ヲ受クベシ

第四十四條　建築主建築工事ノ管理ヲ爲ス能ハズト認ムルトキハ建築工事ノ管理者ヲ定メシムルコトアルベシ

第四十五條　建築工事請負人又ハ建築工事管理者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

一　法又ハ法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

二　其ノ他建築工事ノ管理、監督ヲ爲スニ不適當ト認メタルトキ

第四十六條　建築認可證又ハ建築届済證ノ交付ヲ受ケタル建築物ノ建築工事場ニハ外部ノ看易キ場所ニ別記様式第七號ニ依ル標札ヲ掲グベシ

前項ノ工事場ニハ許可、認可又ハ届済證印ノアル副本ヲ備ヘ當該官吏又ハ吏員ノ要求アリタルトキハ之ヲ提示スベシ

第四十七條　建築申請又ハ建築届ヲ爲シタル建築物ノ建築工事ニ付施行規則第百四十六條ニ依リ左ノ工程ヲ指定スルコトアルベシ

一　鐵骨又ハ鐵筋「コンクリート」工事ニ附帶スル基礎ノ杭打ニ着手シタルトキ

二　鐵骨建方ニ着手シタルトキ及「リベット」打終了セムトスルトキ

三　鐵筋「コンクリート」工事ニシテ基礎、各階及屋根ノ配筋ヲ終了セムトスルトキ

四　木造ニシテ上棟シタルトキ

五　其ノ他特ニ必要ト認メタルトキ

前項ニ依リ工程ヲ指定シタルトキハ建築申請書又ハ建築届書ノ副本ニ之ヲ記載ス

前項ノ工程ニ達シタルトキハ其ノ都度別記様式第八號ニ依ル工程届書ヲ提出シ當該官吏又ハ吏員ノ檢査ヲ受クベシ

第四十八條　施行規則第百四十八條第二項ノ規定ニ依ル臨檢者ノ證票ハ別記様式第九號ニ依ル

第三節　工事保全

第四十九條　建築工事請負人又ハ建築工事管理者ハ建築工事場ニ於テ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一　足代、棧橋、山留其ノ他ノ工事用工作物ハ保安上危險ノ虞ナキ構造設備ト爲スコト

二　材料ノ運搬、構材ノ鉄打其ノ他ノ作業ニ在リテハ保安上危險ノ虞ナキ附帶裝置ヲ爲スコト

三　火氣ヲ使用スル場合ニ在リテハ火災豫防上竝煤煙防止上適當ナル施設ヲ爲スコト

四　電氣瓦斯又ハ水道等ノ工作物ニ付保安上危險ノ虞アルトキハ當該管理者ニ通知シ適當ナル措置ヲ求ムルコト

五　工事ニ依リ死傷其ノ他ノ事故ヲ生ジタルトキハ直ニ其ノ部分ノ作業ヲ中止シ所轄警察署ニ届出ヅルコト

第五十條　建築工事場ニ於ケル壓搾空氣ヲ用フル鉄打作業、動力ヲ用フル杭打作業ノ類ニシテ著シキ騒音又ハ震動ヲ發スル虞アルモノハ其作業ニ付時間ノ制限其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトアルベシ

第五十一條　潜函工法ノ類ニ依ル基礎工事ニ着手セムトスル場合ニ在リテハ作業摘要書ヲ添附シ基礎工事主任者ノ住所、氏名及經歷ヲ具シ三日前ニ其ノ旨届出ヅベシ

建築工事用トシテ規模大ナル杭打機、起重機ノ類ヲ設置セムトスル場合ニ在リテハ設置摘要書ヲ添附シ機械取扱主任者ノ住所、氏名及經歷ヲ具シ三日前ニ其ノ旨届出ヅベシ

前二項ノ届出ニ關シテハ第四十一條第四項ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ基礎工事主任者又ハ第二項ノ機械取扱主任者不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第五十二條　前條第一項ノ基礎工事主任者ハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一　從業員ニ付テハ豫メ醫師ノ診斷ヲ受ケシムルコト

二　作業室内ノ換氣ニ留意シ適當ナル信號裝置及照明裝置ヲ爲スコト

三　適時作業室内ノ瓦斯檢査及從業員ノ携行品檢査ヲ爲スコト

第五十三條　第五十一條第二項ノ機械取扱主任者ハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一　工事用機械ハ獨立シ得ル構造ト爲スカ又ハ

適當ナル支柱若ハ支線ヲ設クルコト

二　工事用機械ハ其ノ性能ノ範圍ヲ超エテ使用セザルコト

三　捲揚機ニハ有効ナル制動裝置竝操作業必要ナル信號裝置又ハ之ニ代ルベキ施設ヲ爲スコト

第四節　雜　則

第五十四條　本令ニ依リ建築手續ヲ爲シタル建築物左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ許可、認可又ハ承認ヲ取消スコトアルベシ

一　申請書、願書又ハ届書ニ虚僞ノ事項ヲ記載シタルトキ

二　起工期日ヲ經過スルコト百日ニシテ仍工事ニ着手セザルトキ

三　竣功期日ヲ經過スルコト百五十日ニシテ仍竣功セザルトキ

第五十五條　建築工事左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ建築工事ノ中止其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトアルベシ

一　保安上危險ト認ムルトキ

二　衛生上有害ト認ムルトキ

三　法又ハ法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第五十六條　法適用區域ノ設定又ハ變更アリタル場合ニ於テ建築工事ニ着手セザルモ設計アル建築物ヲ建築セントスル者ハ其ノ設定又ハ變更アリタル日ヨリ三十日内ニ其ノ旨届出ヅベシ

附　則

本令ハ昭和十年七月二十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ規定ニ基キ建築手續ヲ爲シタルモノハ本令ニ依リ建築手續ヲ爲シタルモノト看做ス

様式第二號

本

建築申請（届）書

建築敷地ノ地名、番號

申請（届出）ノ要旨

許可（認可、承認）事項

建築主ノ住所
氏名及生年月日　㊞　電話　番

右代理人ノ住所氏名
申請（届出）年月日　㊞　年月日生　電話　番

神奈川縣知事　殿

（美濃版）

様式第一號

建築線指定（變更、廢止）願書

願出ノ事由

關係土地ノ地名、番號

願出人ノ住所氏名
及生年月日　㊞　年月日生　電話　番

願出年月日

神奈川縣知事　殿

（美濃版）

様式第三號（表）（美濃版）

摘要書

地域及地區別	地域　地區	建築敷地	地番號		建築面積	申請（届出）ニ係ル建築物	平方米
			用途			既存建築物	平方米
			面積	平方米		合計	平方米
空地面積率		建築物ノ	構造種別		各階床面積	第一階	平方米
起工期日			工事種別			第二階	平方米
竣功期日			用途			第三階	平方米
			高	米		軒高	米
			階数			合計	平方米

申請（届出）ニ係ル建築物ノ建築要旨

| | | |

様式第八號

（美濃版）

工程届書

建築敷地ノ地名、番號

認可（届濟）ノ年月日及番號

建築工事ノ工程要旨

建築主（代理人）ノ住所氏名　　㊞　電話　番

届出年月日

神奈川縣知事　殿

様式第六號

（美濃版）

廢罷（除却）届書

建築敷地ノ地名、番號

認可（許可又ハ届濟）年月日及番號

届出ノ要旨

建築主（代通人）ノ住所氏名　　㊞　電話　番

届出年月日

神奈川縣知事　殿

様式第七號

昭和　年　月　日

（　）建第　號

神奈川縣認可（届濟）

建築主氏名

建築工事請負人氏名

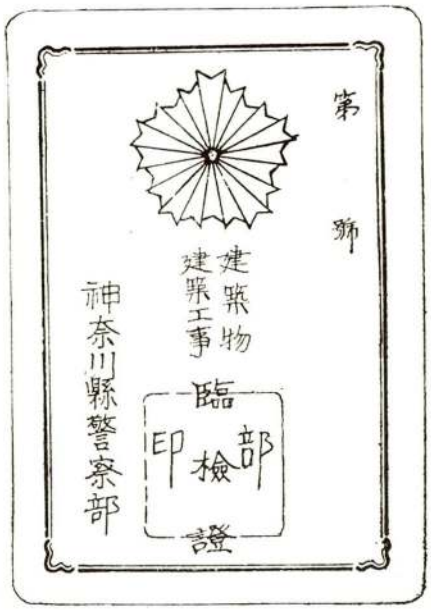
建築工事管理者氏名

50センチメートル

30センチメートル

様式第九號

（表）



（裏）

昭和　年　月　日交付

官職　氏　名

市街地建築物法施行規則第百四十八條　地方長官ハ當該官吏又ハ吏員ヲ派シ建築物及建築工事ヲ臨檢セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ臨檢者ハ其ノ證票ヲ携帶スベシ

第一項ノ場合ニ於テ建築主、建築工事請負人、建築工事管理者又ハ建築物ノ所有者若ハ占有者檢査ニ必要ナル準備ヲ命セラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項準備ノ費用ハ建築主又ハ建築物所有者ノ負擔トス

様式甲號（赤）



様式乙號（紫）



様式丙號（黒）



様式丁號（赤）



様式戊號（紫）



市街地建築物法施行細則改正要旨

第一條　市街地建築物法令ノ略稱用語ニ付同法令ニ關スル例規中ノ略稱用語トノ統一ヲ期スル爲現行規定ノ字句ヲ修正セリ尙市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則ノ略稱用語ヲ新ニ定メタリ

第二條　現行規定ニ於テハ工程届書モ所轄警察署長ヲ經由スルヲ要スル立前ナルモ建築工事ノ圓滑ナル中間檢査ノ實施ヲ阻害セル事例尠カラザルニ鑑ミ工程届書ニ限リ直接當廳ニ提出シ得ル樣改メタリ

第三條　現行規定ハ同第十四條第二項、第三十二條第二項及第三十三條第二項ニ於テ夫々本條ト同意義ノ規定ヲ爲セルモ關係條項ノ總テニ及ボスヲ要スルヲ以テ獨立條項トシ總則中ニ之ヲ一括規定セリ

尙現行規定第三條ハ申請、願出又ハ届出ヲ爲ス者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人、準禁治產者ナルトキハ其ノ保佐人、妻ナルトキハ夫ノ連署ヲ要求セルモ市街地建築物法令ノ適用上直接其ノ必要ヲ認メズ特別ノ事由アル場合ニハ第三十五條ヲ活用シ得ルヲ以テ手續ノ簡便ヲ期スル爲之ヲ削除シタリ

第四條　鋼板ノ槌打加工ヲ爲ス工場及舞踏場ハ住居ノ安寧ヲ害スル虞アルヲ以テ一般ニ住居地域ニ於ケル制限建築物ト爲スヲ適當ト認メ之ヲ追加指定シ之ニ伴ヒ現行規定第四條ノ字句ヲ修正補足セリ

第五條　現行規定第五條ヲ改正セルモノニシテ其ノ主要ナル點及其ノ理由左ノ如シ

一　建築線計畫ニ於ケル街角剪除ハ現行規定第五條第二項ノ規定ノ活用ニ依リ都市計畫ニ於ル街角剪除ニ關スル標準トノ均衡ヲ考慮シ之ヲケ實施シ來レル所ナルモ一般的ニ實施スルヲ要スル街角剪除ヲ個々ノ場合ニ付其ノ都度之ヲ指定公示スルハ事務ノ繁雜ヲ來シ適當ナルザルト且亦街角剪除ノ土地所有權者ニ及ボス影響ノ重大性ニ鑑ミ豫メ其ノ限度ヲ規定スル必要ヲ認メタルトニ依リ新ニ街角剪除ニ關スル規定ヲ設ケタリ

二　街角剪除ニ關スル規定ノ追加ニ伴ヒ項號ヲ改メ字句ヲ修正補足セリ

自第六條至第八條　現行規定第十四條第一項ヲ條文ノ配置上本條ニ移シタリ尙廣汎ナル建築線ノ指定（變更又ハ廢止）ハ其ノ影響スル所甚大ナルヲ以テ當該願書ノ審査ノ適確ヲ期スル爲願書ニ記載スベキ事項ヲ附加シ得ル樣改メ之ニ伴ヒ條項及字句ノ修正補足ヲ爲シタリ

第九條　現行規定第六條ト同意義ノ規定ナリ事務簡捷ノ爲通知スベキ範圍ヲ必要限度ニ縮少セリ

第十條　現行規定第十四條第二項ヲ條文ノ配置上本條ニ移シ之ニ伴フ字句ノ修正ヲ爲シタリ

第十一條　現行規定第七條ヲ改正セルモノニシテ其ノ主要ナル點及其ノ理由左ノ如シ

一　現行規定ニ於テハ總テノ建築線ノ位置標示ヲ要求セルモ指定建築線以外ノモノニ付其ノ位置標示ヲ要求スルハ妥當ナラズ且法第七條ノ改正ニ伴ヒ事實困難ナル場合アルヲ以テ之ヲ撤廢セリ

二　現行規定ニ於テハ建築線ノ位置標示ヲ爲スベキ義務者ニ付疑義アリ取扱上不便ナルヲ以テ之ヲ明確ナラシメタリ

三　指定建築線ノ位置ヲ適確ニ保持スルハ建築取締上緊要ナルヲ以テ新ニ第三項ヲ設ケタリ

第十二條　法第十條ノ規定ニ依ル壁面ノ位置ノ指定ハ關係土地所有權者ニ及ボス影響甚大ナルヲ以テ其ノ都度之ヲ告示スルカ又ハ關係土地所有權者ニ通知スルヲ妥當ト認メ新ニ本條ヲ設ケタリ

第十三條　施行規則第四條ノ改正ニ伴ヒ同條第一項ノ規定ニ依リ建築物ノ敷地ハ長2メートル以上道路敷地ニ接スルヲ要スルコトヽナレルモ一般住家ニ付此ノ原則ヲ適用スルハ事實上困難ナルベキ場合アルヲ以テ新ニ本條ヲ設ケ之ヲ緩和スル道ヲ開キタリ

第十四條　本條第一項ハ現行規定第八條ト同意味ノ規定ニシテ施行ノ經驗ニ鑑ミ字句ノ修正補足ヲ爲シタリ

尙土地ノ狀況其ノ他ニ依リ施行令第十條ノ主旨ニ鑑ミ現行規定第八條ニ拘ラズ更ニ緩和スルヲ要スベキ場合アルヲ以テ適宜斟酌シ得ル樣新ニ第二項ヲ設ケタリ

第十五條　現行規定第九條ト同意義ナリ同條第一號ニ於ケル道路幅員ノ限度ハ施行令第十四條ノ主旨ニ鑑ミ適當ナラザルヲ以テ都市計畫ニ於ケル街路幅員ノ標準ヲ照應シ之ヲ改メタリ

第十六條　衛生思想ノ普及ニ伴ヒ汲取便所ニ防蠅設備ヲ爲スヿ向尠カラザルモ家屋連擔セル土地ニ在リテハ可及的一般ニ之ヲ實施セシムルヲ適當ト認メラルヽヲ以テ新ニ汲取便所ノ防蠅設備ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第十七條　前條ト同樣ノ意味ニ依リ新ニ井戸ノ構造設備ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第十八條　第十六條ト同樣ノ意味ニ依リ新ニ建築物ノ防鼠設備ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第十九條　規行規定第十條ニ同ジ

第二十條　從來一構ノ建築物トシテ規模大ナル木造ヲ二棟以上相連續シテ建築スル場合ニ在リテハ火災ノ際危險ナルヲ以テ施行規則第二十九條ノ二ノ規定ヲ活用シ個々ノ場合ニ付施行規則第二十九條ノ規定トノ均衡ヲモ考慮シ其ノ對向壁ヲ相當防火的効力ヲ有スルモノタラシムルカ又ハ其ノ間隔ヲ適當ニ保有セシメ來レル所ナルモ施行ノ經驗ニ鑑ミ其ノ準據スベキ所ヲ規定スルヲ妥當ト認メラルルニ依リ新ニ本條ヲ設ケタリ

第二十一條　第十八條及現行規定第十一條ノ規定ノ主旨ニ鑑ミ「一階床面」ヲ「地盤面」ニ改メタルノ外現行規定第十一條ニ同ジ

第二十二條　現行規定第十二條ト同意義ノ規定ナリ

第二十三條　防火地區內ノ假設建築物ニ對シテハ個々ノ場合ニ付施行規則第百三十五條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ都度適當ナル措置ヲ講ジ來レル所ナルモ特ニ本條各號ニ該當スルモノニ付テハ防火地區ニ關スル規定ヲ適用スルハ事實上困難ナルノミナラズ寧ロ之ヲ適用セザルヲ妥當ト認メラルルヲ以テ新ニ本條ヲ設ケ事務ノ簡捷ヲ期シタリ

第二十四條　本條ニ揭グル建築物ニ對シテハ個々ノ場合ニ付本條ト同一標準ニ基キ震度增加ヲ命ジ來レル所ナルモ施行ノ經驗ニ鑑ミ其ノ限度ヲ規定スルヲ適當ト認メ新ニ本條ヲ設ケ事務ノ簡捷ヲ期シタリ

第二十五條　現行規定第十三條ト同意義ノ規定ナリ施行ノ經驗ニ鑑ミ同第一項ノ風壓力ニ關スル區分ヲ改メ之ニ伴フ字句ノ修正補足ヲ爲シタリ

第二十六條　寒冷ノ季節ニ施工スル「コンクリート」ノ强度ニ付現行規定ノ不備ヲ補ハンガ爲新ニ本條ヲ設ケタリ

第二十七條　施行ノ經驗ニ鑑ミ現行規定第二十條ヲ改正セルモノニシテ其ノ主要ナル點及其ノ理由左ノ如シ

一　施行規則第百四十三條第一項第一號ハ法第十四條ノ規定ニ基ク命令ノ規定ノ適用ヲ受クル建築物ノ意ナルヲ以テ現行規定ニ依レバ學校、病院、市場其ノ他ノ公共建築物ニシテ耐火構造規則ノ適用ヲ受ケザルモノハ建築認可ヲ要セザル立前ナルモ其ノ建築物ノ性質上審査ノ適確ヲ期スル爲要認可建築物ト爲スヲ適當ト認メ新ニ追加指定セリ尙現行規定第二項ヲ整理シ且規定ノ徹底ヲ期スル爲メ一括列示セリ

二　現行規定ハ木造ニシテ特ニ規模大ナル建築物ニ付届出ヲ要求スルニ止マルモ事前審査ノ徹底ヲ期スル爲要認可建築物ト爲スヲ適當ト認メラルルヲ以テ新ニ第三項ヲ設ケタリ

第二十八條　施行ノ實績ニ鑑ミ現行規定第二十二條乃至第二十四條ヲ改正シ本條ニ一括セルモノニシテ其ノ主要ナル點及其ノ理由左ノ如シ

一　現行規定ニ於テハ防火地區內ノ建築物ハ總テ建築認可申請ヲ要スル立前ナルモ第二十三條第一號及第三號ニ該當スルモノハ建築認可申請ヲ省略セシムルヲ妥當ト認メラルヽルニ依リ要認可建築物ヨリ之ヲ除キ建築手續ノ簡易化ヲ圖リタリ

二　現行規定第二十二條第一號ハ煙突ニ付均衡ヲ失スル虞アルヲ以テ之ヲ修正緩和シ同第二號ハ事例少ク且其ノ必要ヲ認メザルヲ以テ之ヲ削除セリ

三　現行規定第二十三條及第二十四條ノ主旨ノ徹底ヲ期スル爲建築届出ヲ要セザル建築物ノ範圍ヲ適宜擴張シ建築手續ノ簡易化ヲ圖リタリ

第二十九條　現行規定第十五條及第十九條ヲ一括セルモノニシテ其ノ改正ノ主要ナル點及其ノ理由左ノ如シ

一　建築主建築敷地ノ所有權者ニ非ザル場合其ノ連署ヲ要求スルハ市街地建築物法令ノ適用上直接之ヲ必要トスルモノニ非ズ特別ノ事由アルトキハ適宜第三十五條ヲ活用シ得ルヲ以テ建築手續の簡易化ノ爲現行規定第十五條第一項ニ於ケル連署ヲ撤廢シ摘要書ニ建築敷地ノ歸屬關係ヲ記載セシムル樣改メタリ

二　現行規定第十五條第二項ハ他ノ官公署ノ許可、認可若ハ承認ヲ要スルモノニ付テモ其ノ證書寫ヲ要求スル立前ナルモ前號ト同樣ノ理由ニ依リ事務簡捷上知事ノ許可、認可又ハ承認ヲ要スルモノニ限定セリ

三　所謂緩和規定ノ適用アル市町村ニ施行規則第三章ノ規定ノ適用アリタル場合ヲ考慮シ本條第三項ニ但書ヲ設ケタリ

第三十條　現行規定第十六條ト同意義ノ規定ナリ同條第一號、第七號及第八號ハ必ズシモ之ヲ記載セシムルヲ要セザルヲ以テ手續ノ簡便ノ爲之ヲ削除シ之ニ伴ヒ字句ノ修正補足ヲ爲シタリ

第三十一條　施行ノ經驗ニ鑑ミ現行規定第十七條第二號ノ但書ノ主旨ヲ同條各號ニ適用シ得ル樣改メ之ニ伴フ字句ノ修正補足ヲ爲シタリ

第三十二條　現行規定第十八條ト同意義ノ規定ナリ同條但書ノ規定ヲ條項ノ配置上其ノ前段ヲ本條第三項ニ移シ其ノ後段ヲ第三十四條第二項ニ移シタリ

第三十三條　現行規定ハ規模大ナル建築物又ハ特殊ノ用途ニ供スル建築物ヲ建築セムトスル場合ニ於テハ其ノ建築申請書ニ所定ノ設計書及建築圖面ヲ全部添附セシムル立前ナルモ短時日ニ關係圖書ヲ調製スルコトノ事實上困難ナル場合アルベク且建築物ノ使用期日ノ遲速ハ建築主ニ重大ナル影響ヲ及ボスモノナルヲ以テ基礎工事等ニ付其ノ上部ニ關スル圖書ノ提出期日ヲ延期スル等適宜ノ條件ノ下ニ建築申請書ヲ受理シ可及的實情ニ即スル扱ヲ爲スヲ妥當ト認メ新ニ本條ヲ設ケタリ

第三十四條　現行規定第二十一條ト同意義ノ規定ナリ届出期日ニ關スル制限ハ新ニ第四十三條ヲ設ケタル關係上之ヲ削除セリ尙木造建築物ニシテ規模小ナルモノニ付手續ノ簡便及事務ノ簡捷ヲ期スル爲設計書ヲ要セザル樣之ヲ改メタリ

第三十五條　建築申請又ハ建築届ニ付特ニ所定ノ圖書以外ノモノヲ要セル場合アルベキヲ以テ新ニ本條ヲ設ケタリ

第三十六條　關係規定ノ改正ニ伴ヒ一部字句ヲ修正セル外現行規定第二十六條ニ同ジ

第三十七條　關係規定ノ改正ニ伴ヒ一部字句ヲ修正セル外現行規定第二十七條ニ同ジ

第三十八條　現行規定第二十五條及第二十八條ヲ一括シテ改正セルモノニシテ其ノ主要ナル點及其ノ理由左ノ如シ

一　施行規則第百四十三條ヲ除キ市街地建築物法令ニ依リ知事ノ許可認可又ハ承認ヲ要スルモノノ手續ニ付建築認可申請ニ對スル規定ヲ準用スルハ妥當ナラズ一般ニ之ヲ緩和スルヲ適當ト認メタルニ依リ現行規定第二十五條ヲ本條第一項ノ如ク改メ之ニ伴ヒ新ニ本條第四項ヲ設ケタリ

二　施行令第二十六條ノ規定ニ依ル許可願ニ付其ノ審査ノ適確ヲ期スル爲新ニ本條第二項ヲ設ケタリ

三　現行規定第二十八條ニ對スル法的根據ニ付其ノ不備ヲ補ハンガ爲新ニ本條第三項ヲ設ケタリ

四　本條第五項ハ現行規定第二十八條ト同意義ナリ關係規定ノ改正ニ伴ヒ字句ヲ修正セルノミ

第三十九條　現行規定第三十條（第三項ヲ除ク）及第三十一條ヲ一括セルモノニシテ關係條項ノ改正ニ伴フ字句ノ修正ヲ爲シタルノミ

第四十條　本條第一項ハ現行規定第三十條第三項ト同意義ナリ現行規定ハ建築申請又ハ建築届ヲ要セザル建築物ニシテ別ニ番街地建築物法令ニ依リ許可、認可又ハ承認ヲ要スルモノニ付竣功届ヲ要求セルモ其ノ事例尠ク且其ノ必要ヲ認メザルヲ以テ之ヲ撤廢セリ要届出建築物ノ建築工事竣工シ其ノ届出アリタル場合ニ於テモ法令適用上支障ナキトキハ第三十七條（現行規定第二十七條）ノ規定トノ均衡上竣功届濟證ヲ交付スルヲ妥當ト認メラルヽニ依リ新ニ第二項ヲ設ケタリ

第四十一條　現行規定第三十二條乃至第三十五條ト同意義ノ規定ナリ關係條項ノ改正ニ伴ヒ且施行ノ經驗ニ鑑ミ之ヲ一括シ字句ノ修正補足ヲ爲シタリ尙輕微ナル設計變更ニシテ市街地建築物法令適用上支障ナキモノニ付テハ事務簡捷上之ガ手續ヲ省略シ得ル道ヲ開キタリ

第四十二條　建築認可證、建築届濟證又ハ許可（認可若ハ承認）證ノ交付ヲ受ケタル建築物ノ建築廢罷ニ付テハ建築工事着手ノ前後ヲ問ハズ届出ヲ爲サシムルヲ妥當ト認メラルルニ依リ且關係條項ノ改正ニ伴ヒ現行規定第三十六條ヲ修正補足セリ

木造ニ非ザル建築物ノ除却工事ハ保安上危險ノ虞アルノミナラズ特ニ一部ノ除却工事ハ殘存部ノ構造强度ニ影響ヲ及ボス虞アルヲ以テ豫メ審査スルヲ適當ト認メ新ニ第三項ヲ設ケタリ

第四十三條　現行規定第二十一條ハ要屆出建築物ニ付其ノ屆出期日ヲ劃一的ニ工事着手前十日ニ制限セル爲適法ナル建築物ニシテ建築屆濟證ノ交付アリタルモノニ於テモ屆出後十日ヲ經過スルニ非ザレバ其ノ工事ニ着手スルヲ得ズ實狀ニ即セザル虞アリ且適法ナラザル建築物ニ於テモ屆出後十日ヲ經過セル場合ニハ其ノ工事ニ着手セル事例尠カラズ事前監督ノ主旨ニ副ハザル虞アルヲ以テ屆出期日ニ關スル制限ヲ撤廢シ實質的ニ工事着手期日ヲ制限スルヲ妥當ト認メラルルニ依リ建築屆濟證ノ交付前其ノ工事ニ着手シ得ザル立前トナシ輕微ニシテ法令適用上支障ナキモノハ當該官吏又ハ吏員ノ承認ヲ受ケ隨時工事ニ着手シ得ル道ヲ開キタリ

第四十四條　建築主建築工事ノ管理ヲ爲ス能ハズ且事實上ノ管理者明カナラザル場合又ハ規模大ナル建築工事特殊ノ工法ニ依ル建築工事等ニシテ特別ノ技能ヲ有スルニ非ザレバ工事ノ管理ヲ爲ス能ハザル場合ニハ取扱上不便尠ラズ延テハ圓滑ナル工事ノ實施ヲ阻害スル虞アルヲ以テ新ニ本條ヲ設ケ必要アル場合ニハ建築工事管理者ヲ定メシメ得ルコトト爲シタリ

第四十五條　現行規定第三十九條ノ規定ヲ修正補足シタリ尙建築工事監督者ハ法第二十條ノ規定ト照應シ建築工事請負人又ハ建築工事管理者ニ該當スルカ又ハ之ニ歸屬スルモノト解スルヲ適當ト認メラルルヲ以テ之ヲ削除シタリ

第四十六條　現行規定第三十八條ト同意義ナリ

第四十七條　施行ノ經驗ニ鑑ミ工程屆ニ在リテハ一般建築工事ニ付屆出ヲ爲サシムルコトアルベキ工程ヲ明記シ個々ノ建築工事ニ付其ノ實情ニ應ジ中間檢査ヲ要スル工程ニ限リ之ヲ爲サシムルヲ取扱上且圓滑ナル中間檢査ノ實施上便宜ト認メラルルヲ以テ現行規定第二十九條ヲ修正補足セリ

第四十八條　現行規定第四十二條ニ同ジ

第四十九條　一般建築工事場ニ於ケル災害事例ニ鑑ミ工事場ノ保安設備其ノ他ニ付相當取締ヲ爲スヲ必要ト認メラルルヲ以テ新ニ本條ヲ設ケ建築工事請負人又ハ建築工事管理者ノ遵守事項ヲ定メタリ

第五十條　建築工事ニ附隨スル特殊ノ作業ニシテ著シキ騷音又ハ震動ヲ發スル虞アルモノニ付テハ相當ノ取締ヲ爲ス必要アルヲ以テ新ニ本條ヲ設ケ夜間作業ノ禁止其ノ他必要ナル措置ヲ命ジ得ルコトト爲シタリ

第五十一條　建築工事ニ附隨スル潛函作業又ハ機械作業ニ依ル災害ハ其ノ事例尠カラズ且其ノ影響スル所甚大ナリ之ニ對シ相當取締ヲ爲ス必要アルヲ以テ新ニ本條ヲ設ケ事前監督ヲ爲スコトトセリ

第五十二條及第五十三條　前條ト同樣ノ理由ニ依リ新ニ本條ヲ設ケ災害防止上作業主任者の遵守スベキ事項ヲ定メタリ

第五十四條　一部字句ヲ修正補足セルノ外現行規定第四十條ニ同ジ

第五十五條　現行規定第四十一條ト同意義ナリ尙工事ノ中止其ノ他ノ措置ハ第二十八條第三項ニ該當スル建築物ノ建築工事ニ付テモ之ヲ命ズル必要アルベキヲ以テ之ニ伴ヒ字句ノ修正補足ヲ爲シタリ

第五十六條　現行規定第三十七條ハ建築工事中ノ建築物又ハ建築工事ニ着手セザルモ設計アル建築物ヲ建築セントスル場合ニ於テ建築手續規定ニ準ジ申請書ノ提出ヲ要求セルモ其ノ建築竣成ノ後ニ於テ市街地建築物法令ニ適合セザルモノニ付テハ第三十八條ニ於テ一括規定セル所ナルヲ以テ之ヲ削除シタリ尙其ノ建築竣成ノ後ニ於テ法令ニ適合スルモノニ付テハ工事中又ハ設計アル建築物タルコトヲ確認シ得ルニ於テハ法令適用上支障ナキヲ以テ施行ノ經驗ニ鑑ミ工事中ノ建築物ニ付テハ申請スルヲ要セザル樣改メ設計アル建築物ニ付テハ法適用區域ノ設定又ハ變更アリタル場合ニ限定シ申請ヲ屆出ニ緩和シタリ

建築と社會第19輯第4號　廣告索引

ア　有田製陶所……46
　旭硝子株式會社……41
　朝日建材株式會社……表紙 2
　淺野スレート株式會社……38
　淺海商會……30
イ　岩元工業株式會社……30
　伊藤元商店……42
エ　榮進社……18
　英進商會……24
　荏原製作所……7
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　大阪伊丹商店……43
　大阪組立コンクリート製作所……49
　大野製作所……前附 1
　岡田建材店……34
　奥村重兵衛商店……27
　大阪アスファルト商會……53
カ　關城化學工業株式會社……表紙 4
　金岡養樹園……中挿
キ　木下醫三商店……22
　桐田商會……31
　協和製作所……48
ク　黒川化學工業所……14
　窪島プレス工業所……25
　久保商店……20
コ　後藤商店……43
　工英社……52
サ　佐渡島西店……37
　佐久間パブコ工業株式會社……45
　坂本商會大阪支店……24
　坂田ベンチレーター製作所……35
ス　須賀商會……51
セ　政正合資會社……36
　清光社……20
タ　田島應用化學工業所大阪支店……前付 2
　大洋組建材部……42
　ダンロップ護謨株式會社……中挿
　タカラ商會……15
チ　チヨーホー商會……49
ト　東洋リノリユーム株式會社……33
　巴風呂商會……54
　東京電氣株式會社……28
ナ　內外土木建築材料合資會社……32
　南滿鑛業株式會社……17
　中井商店大阪支店……8
　中野石材販賣店……34
ニ　日本建築紙工株式會社……36
　日本洋瓦株式會社……44
　日本パイプ製造株式會社……26
　日本セメント防水劑製造所……9
　日本ドアーチエツク製作所……12
　日本窒素肥料株式會社……表紙 3
　西原衛生工業所……19
　西孫南店建築金物部……15
ノ　野澤幸三郎商店……16
ハ　汎建製作所……46
ヒ　日立製作所……40
　ヒーロ持許工業所……中挿
フ　福原商店大阪支店……35
　プラスター社(左官工事仕樣便覽)……11
マ　マルエス工業株式會社……13
　松井商店……14
　丸善株式會社……11
ミ　三井物產株式會社……23
ヤ　矢橋大理石商店……47
　大和護謨製作所……21
　山本最商店……前附 4
ヨ　横河橋梁製作所……29
　吉田鹿之助本店……10
　米本榮商店……47
ラ　ライトラバー工業合資會社……39
リ　理化學興業株式會社……前附 3
レ　玲光社(木內眞太郎)……17